

# 工事起工 概要書

			部長	次長	課長	課長補佐	課員	課員	審査員	設計者	
執行年度		平成 30 年度									
工事番号 工事名		H30石岡ステーションパーク利活用店舗新設工事 <span style="float: right;">起工 設計書</span>									
工事場所 又は履行場所		石岡市 <span style="margin-left: 100px;">国府一丁目</span> <span style="margin-left: 100px;">地内</span>									
施工方法		請負			原契約年月日		平成 年 月 日				
工期又は 履行期間		平成 年 月 日 から 平成 30 年 7 月 31 日 まで 日間									
受注者											
費目		起工		第1回変更		増減(△)		変更請負に付する工事価格 =変更積算工事価格×請負比率  請負比率: 起工(前回変更)時の請負決定額 起工(前回変更)時の積算額 (少数第7位切り捨て6位止め)  変更積算工事価格  請負比率  変更工事価格			
起工額											
請負(委託) に付する額											
工事(業務) 価 格											
測量試験費 又は工事雑費											
消費税相当額											
請負(委託) 決 定 額											
工 事 概 要											
内 容			規格1	数量1	単位1	規格2	数量2	単位2	規格3	数量3	単位3
変更理由											

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	H30石岡ステーションパーク利活用店舗新設工事						
I	直接工事費						
A	建築主体 工事		1.0	式			
B	電気設備 工事		1.0	式			
C	機械設備 工事		1.0	式			
I	直接工事費 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	单 位	单 価	金 額	備 考
II	共通仮設費		1.0	式			
III	純工事 費	I + II					
IV	現場管理費		1.0	式			
V	工事原価	III+IV					
VI	一般管理費		1.0	式			
VII	工事価格	V+VI					
VIII	消費税等相当額	VII x 8%	1.0	式			
	工事費 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
○	共通仮設費内訳						
	準備費、仮設建物費、工事施設費、環境安全費、動力用水光熱費、屋外整理清掃費、機械器具費、						
	その他（材料及び製品の品質管理試験費等）。						
○	現場管理費内訳						
	労務管理費、租税公課、保険料、従業員給料手当、施工図等作成費、退職金、法定福利費、福利厚生費、						
	事務用品費、通信交通費、補償費、その他（会議費、式典費、工事实績の登録費等）。						
○	一般管理費内訳						
	役員報酬等、従業員給与手当、退職金、法定福利費、福利厚生費、維持修繕費、事務用品費、通信交通費、						
	動力用水光熱費、調査研究費、広告宣伝費、交際費、寄付金、地代家賃、減価償却費、試験研究償却費、						
	開発償却費、租税公課、保険料、契約保証費、雑費。						
○	材料調書						
	本材料調書は、工事見積書作成の為に参考資料であるから請負者は設計図書を参照し再検討されたい。						
	工事にあたり本書記載資料の不足が生じた場合は請負者の負担で実施されたい。						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
II	共通仮設費						
1	共通仮設費（率）		1.0	式			
2	共通仮設費（積み上げ）		1.0	式			
II	共通仮設費 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	共通仮設費（積み上げ）						
	VOC測定	ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン エチルベンゼン, スチレン	1.0	個			
2	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	H30石岡ステーションパーク利活用店舗新設工事						
A	建築主体	工事					
1	直接仮設	工事	1.0	式			
2	土	工事	1.0	式			
3	コンクリート	工事	1.0	式			
4	型枠	工事	1.0	式			
5	鉄筋	工事	1.0	式			
6	木	工事	1.0	式			
7	金属	工事	1.0	式			
8	屋根・とい	工事	1.0	式			
9	左官	工事	1.0	式			
10	金属製建具	工事	1.0	式			
11	ガラス	工事	1.0	式			
12	塗装	工事	1.0	式			

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
13	内外装 工事		1.0	式			
14	雑 工事		1.0	式			
A	建築主体工事 計						



番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	直接仮設工事						
	遣方損料	小規模	90.0	m <sup>2</sup>			
	墨出損料	小規模	90.0	m <sup>2</sup>			
	ブラケット足場（一側足場）		189.0	掛m <sup>2</sup>			
	ネット状養生シート		189.0	掛m <sup>2</sup>			
	外部 直列 脚立足場	H=1800	31.0	m			
	内部脚立足場	H=1800	120.0	m <sup>2</sup>			
	養生費	小規模	226.0	m <sup>2</sup>			
	整理清掃・あと片付け	小規模	226.0	m <sup>2</sup>			
1	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	土工事						
	根切り	機械 総堀部	135.0	m <sup>3</sup>			
	砕石地業	RB-40 土間下	25.3	m <sup>3</sup>			
	砂地業	土間下	3.2	m <sup>3</sup>			
	床下防湿層敷	土間下	108.0	m <sup>2</sup>			
	建設発生土運搬	4t 場外処分 5km程度	135.0	m <sup>3</sup>			
	ストックヤード <sup>レ</sup> 料金		135.0	m <sup>3</sup>			
	(地盤改良)						
	ライトフィルターHタイプ <sup>レ</sup>	H: :50x800	134.0	m <sup>2</sup>			
	ジオフォーム	EPS16	106.0	m <sup>3</sup>			
	ジオフォーム	EPS20	1.0	m <sup>3</sup>			
	工法検討・割付図	現場立会い・施工指導含み	1.0	式			

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	表面波探査試験	地盤調査費用	1.0	式			
	地盤保証		1.0	式			
	L型アングル		30.0	本			
	ジオフォーム敷設	普通作業員	9.0	人			
2小	計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	コンクリート工事						
	基礎躯体コンクリート	FC=21N/mm2	4.3	m <sup>3</sup>			
	土間コンクリート	FC=21N/mm2	19.5	m <sup>3</sup>			
	コンクリート打設費	ポンプ圧送 地上コンクリート	4.3	m <sup>3</sup>			
	コンクリート打設費	ポンプ圧送	19.5	m <sup>3</sup>			
	ポンプ圧送基本料金	ブーム式ポンプ車 土間コンクリート	3.0	回			
3	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	型枠工事						
	普通合板型枠	基礎部	39.3	m <sup>2</sup>			
	打放合板型枠	壁式 地上部 B種	59.6	m <sup>2</sup>			
	埋め殺型枠	地下部	11.6	m <sup>2</sup>			
	型枠運搬費	4t車 基準距離30km以内	110.0	m <sup>2</sup>			
4	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	鉄筋工事						
	異形鉄筋	SD295A 径10	0.19	t			
	異形鉄筋	SD295A 径13	3.09	t			
	鉄筋加工組立費		3.16	t			
	鉄筋運搬費	4t車 加工場～現場	3.16	t			
	スクラップ控除		0.09	t			
	LPG置場 溶接金網	溶接金網敷 6φ 150x150	3.20	m <sup>2</sup>			
	同上溶接金網敷込み		3.20	m <sup>2</sup>			
5	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	木工事						
	材料費						
	杉 正角	特1等	2.622	m <sup>3</sup>			
	杉 正割	特1等	1.021	m <sup>3</sup>			
	杉 平割	特1等	3.684	m <sup>3</sup>			
	米松 平角	特1等	5.882	m <sup>3</sup>			
	防腐土台 (桐)		0.573	m <sup>3</sup>			
	ハ小屋 野地板構造用合板	特類 t=12	10.00	m <sup>2</sup>			
	外壁 モザイクタイル下地 構造用合板	特類 t=12	16.30	m <sup>2</sup>			
	軸組耐力壁 構造用合板	特類 t=9.0	71.60	m <sup>2</sup>			
	床 構造用合板	特類 t=15	7.60	m <sup>2</sup>			
	飾棚ライニング 甲板ラミネート スフォーム	L=1700xD=520xt=26	2.00	ヶ所			
	手洗ライニング 甲板ラミネート スフォーム	L=850xD=120xt=20	1.00	ヶ所			
	待合コーナー 落とし掛け	システム造作材 W=145	3.30	m			

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	小屋 鋼製火打梁		24.00	ヶ所			
	ホルダウン金物	ビス止めホルダウン同等品 1.5KN用	8.00	ヶ所			
	座金付ボルト	偏芯座金付ボルトⅡ同等品 M16, L=650	4.00	ヶ所			
	大工手間		1.00	式			
	釘・金物		1.00	式			
6小	計						



番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	金属工事						
	外部						
	パラペット アルミ 笠木 (直線)	W=200	36.0	m			
	パラペット アルミ 笠木 (コーナー)	W=200	14.0	ヶ所			
	外壁土台 壁付水切 既製品	カラーガルバリウム鋼板	26.1	m			
	同上 出隅	カラーガルバリウム鋼板	8.0	本			
	パラペット下部水切 オーバーハング 既製品	カラーガルバリウム鋼板	33.2	m			
	同上 出隅	カラーガルバリウム鋼板	12.0	本			
	基礎アンカーボルト	M12, L=400	78.0	本			
	ホールダウン用アンカーボルト	オメガアンカーボルトM16同等品 M16, L=800	4.0	本			
7	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
8	屋根・とい工事						
	片流 折板葺 (カラーガルバリウム鋼板)	t=0.8 H=150 発泡材裏打t=4	116.0	m <sup>2</sup>			
	エプロン面戸	H=150	25.6	m			
	軒先面戸	H=150	25.6	m			
	タイトフレーム	H=150	92.1	m			
	止面戸	H=150	25.6	m			
	水上取合水切 カラーガルバリウム鋼板曲加工		30.6	m			
	流側取合水切 カラーガルバリウム鋼板曲加工		37.0	m			
	ハト小屋 カラーガルバリウム鋼板平葺	t=0.4	10.0	m <sup>2</sup>			
	ハト小屋 棟包み カラーガルバリウム鋼板加工		8.0	m			
	ハト小屋 アスファルトルーフィング	940品	10.0	m <sup>2</sup>			

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	軒樋 角型折版用	受金物共	30.7	m			
	軒樋 落口		3.0	ヶ所			
	堅樋 塩ビ管	φ100 受金物共	2.9	m			
8小	計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
9	左官工事						
	外部						
	外壁 ラスモルタル金コテ塗		132.0	m <sup>2</sup>			
	外壁 複層塗材E	キススイスキントイル同等品 (標準施工仕様)	137.0	m <sup>2</sup>			
	巾木 打放面補修		5.6	m <sup>2</sup>			
	基礎 天端モルタル金コテ	W=120 t=20	63.1	m			
	通路 LPG置場コンクリート金コテ		3.2	m <sup>2</sup>			
	内部						
	床 コンクリート金コテ		80.1	m <sup>2</sup>			
	巾木 打放面補修	H=300	44.5	m			
	内部建具周囲モルタル詰		20.1	m			
9	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
10	金属製建具工事						
	アルミ製建具						
	AD-1 片引ハンガ-戸 ランマ袖FIX付	(アルミ カラー) 3325× 2410	1.0	ヶ所			
	運搬費		1.0	式			
	取付調整費		1.0	式			
	AD-2 片引戸	(アルミ カラー 網戸共) 816× 2000	10.0	ヶ所			
	AW-1 内倒窓	(アルミ カラー 面格子付 網戸共) 740× 300	10.0	ヶ所			
	軽量シャッター						
	SS-1 軽量シャッター	3500× 2500 (化粧鋼板)	5.0	ヶ所			
	運搬費		1.0	式			
	取付調整費		1.0	式			
10	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
11	ガラス工事						
	フロント板ガラス	t=5 2.18m2以下	1.0	m <sup>2</sup>			
	フロント板ガラス	t=8 2.18m2以下	5.9	m <sup>2</sup>			
	ガラス止シーリング	シリコン 5×5	64.3	m			
11	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
12	塗装工事						
	モルディング部分 耐候性塗料塗り	3級ポリウレタン樹脂系 セラメタン同等品	87.4	m			
	軸組材 防蟻・防腐剤塗	GL+1m迄	75.5	m <sup>2</sup>			
12	小 計						

番号	名称	品質・規格	数量	単位	単価	金額	備考
13	内外装工事						
	外部						
	外壁 透湿防水シート張		132.0	m <sup>2</sup>			
	外壁 モルタル下地用合板	910×1820 ノダ ラスカット同等品	132.0	m <sup>2</sup>			
	既存柱取合い シーリング	20×10	48.0	m			
	外壁 (ハト小屋) 窯業系サイディングボード張り	シーリング・副資材共 t=16 横張	23.2	m <sup>2</sup>			
	外壁 ガラスモザイクタイル貼		16.3	m <sup>2</sup>			
	外部柱飾 ガラスモザイクタイル貼	構造合板下地 300x300 t=12	6.0	ヶ所			
	外壁 ガラスモザイクタイル 外周枠モルディング	ケイ酸カルシウム系セラミック材 25x15	58.9	m			
	外壁 パラペット モルディング	ケイ酸カルシウム系セラミック材 H=150	28.5	m			
	軒天 パルプ繊維混入セメント板	ニチハ 軒天12同等品 t=12	15.0	m <sup>2</sup>			
	外部床 コンクリート平板舗装	JR側通路 t=60, 砂t=30, 路盤t=100	34.0	m <sup>2</sup>			
	外部床 コンクリート平板舗装	車路通路 t=60, 砂t=30, 路盤t=100	70.0	m <sup>2</sup>			
	外部床 カーアスファルト舗装	表層t=30, 路盤t=50	23.6	m <sup>2</sup>			
	外部床 地先境界ブロック布設	A 120×120×600	5.2	m			



番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	内部						
	床 乾式二重床支持脚	フクビ・フリフロア-GP-F同等品	22.0	本			
	床 パーチクルボード	t=20・600×1820	9.0	枚			
	床 複層ビニル床タイル貼	防滑タイプ t=3・450×450	13.9	m <sup>2</sup>			
	巾木 複層ビニル床タイル張	H=270 t=3.0	2.7	m			
	壁 石膏ボード張	t=12.5	175.0	m <sup>2</sup>			
	壁 石膏ボード継目処理	ベベルエッジ	30.9	m <sup>2</sup>			
	壁 ビニルクロス貼		30.9	m			
	クロスジョイント目地	フクビ・クロスフリ-JF3N同等品	9.6	m			
	天井 石膏ボード張	t=9.5	79.5	m <sup>2</sup>			
	天井 石膏ボード継目処理	ベベルエッジ	15.4	m <sup>2</sup>			
	天井 ビニルクロス貼		15.4	m <sup>2</sup>			
	天井 塩ビ廻縁		97.9	m			

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	天井 グラスウール	t=100 (16kg・m3)	79.5	m <sup>2</sup>			
	外壁 グラスウール	t=100 (16kg・m3)	92.8	m <sup>2</sup>			
13	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
14	雑工事						
	ゲート鉄骨下地加工	5150x3885	1.0	ヶ所			
	ゲートアルミパネル加工	目地 シロン (15x10) t=2.0 巾木SUSH=180	1.0	ヶ所			
	メッシュフェンス付門扉	H=1200 片開き	1.0	セット			
	メッシュフェンス フェンス扉	H=1200 片開き	1.0	セット			
	メッシュフェンス 搬入取付費		1.0	式			
	背付ベンチ (中間肘付)	L=1,800 コトブキ エフライン同等品	4.0	ヶ所			
	アルミ 掲示板①	ホスターグリッパ 開閉式 W=2184xH=1030	1.0	ヶ所			
	アルミ 掲示板② 踊場設置	ガラスパネル上げタイプ W=1234xH=1060	4.0	ヶ所			
	カスケード部 土間コンクリート	t=100	68.4	m <sup>2</sup>			
	カスケード部 床 磁器質タイル貼	300角	68.4	m <sup>2</sup>			
	カスケード部 床 下地モルタル	一般タイル下地	68.4	m <sup>2</sup>			
	カスケード部 植込縁石 地先境界ブロック布設	C 150×150×600	12.0	m			
	カスケード部 植栽 ヤマモミジ	支柱二脚鳥居 H=3.0 C=0.15 W=0.7	1.0	本			

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	カスケード部 サークルベンチ R=1020	据置 肘付 かまどセット共	2.0	台			
	カスケード部 サークルベンチ L=1790	据置 肘付 かまどセット共	5.0	台			
	待合コーナー テーブル	W1200×D600×H450 内田洋行LC-70シリーズ 同等品	2.0	台			
	(案内表示板)						
	①天井内照式誘導板	取付費共	1.0	台			
	②- 1 壁付誘導板	取付費共	1.0	枚			
	②- 2 壁付誘導板	取付費共	1.0	枚			
	②- 3 壁付誘導板	取付費共	1.0	枚			
	②- 4 壁付誘導板	取付費共	1.0	枚			
	③自立式 5 段誘導板	取付費共	1.0	台			

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	④壁付誘導板	取付費共	1.0	枚			
	⑤壁付誘導板	取付費共	1.0	枚			
	⑥壁付誘導板	取付費共	1.0	枚			
	⑦天吊内照式誘導板	取付費共	1.0	台			
	ゲート文字 カッティングシート	350×350	11.0	文字			
	同上施工費		1.0	式			
	待合コーナー カッティングシート	2,100×310	1.0	ヶ所			
	同上施工費		1.0	式			
14	小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
B	電気設備工事						
1	幹線設備改修工事		1.0	式			
2	電灯コンセント設備工事		1.0	式			
3	電話配管設備工事		1.0	式			
4	監視カメラ設備工事		1.0	式			
5	時計設備工事		1.0	式			
	計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	幹線設備改修工事						
	電線	EM-IE 5.5sq 接地	12.0	m			
	電線	EM-IE 8sq 接地	25.0	m			
	電線	EM-IE 14sq 接地	42.0	m			
	ケーブル	EM-CE 8sq-3C 隠蔽	6.0	m			
	ケーブル	EM-CE 8sq-3C 管内	95.0	m			
	ケーブル	EM-CET 38sq 管内	42.0	m			
	厚鋼電線管	G 28mm 塗装 露出	6.0	m			
	厚鋼電線管	G 42mm 塗装 露出	48.0	m			
	厚鋼電線管	G 54mm 塗装 露出	12.0	m			
	厚鋼電線管	G 70mm 塗装 露出	4.0	m			
	厚鋼電線管	G 70mm 隠蔽	3.0	m			
	プルボックス	150×150×100 (SUS) WP	1.0	個			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	ﾌﾟﾙｯｸｽ	200×200×200 (SUS) WP	3.0	個			
	ﾌﾟﾙｯｸｽ	300×300×200 (SUS) WP	4.0	個			
	集合計器盤		1.0	面			
	店舗分電盤		5.0	面			
	CT取付板	樹脂製	1.0	枚			
	小 計						



本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2	電灯コンセント設備工事						
	電線	EM-IE 1.6mm 管内	143.0	m			
	電線	EM-IE 2.0mm 管内	162.0	m			
	ケーブル	EM-EEF 1.6mm-2C 天井	14.0	m			
	ケーブル	EM-EEF 1.6mm-2C MM内	8.0	m			
	ケーブル	EM-EEF 1.6mm-3C 天井	15.0	m			
	ケーブル	EM-EEF 2.0mm-2C 天井	4.0	m			
	ケーブル	EM-EEF 2.0mm-3C 天井	14.0	m			
	ケーブル	EM-EEF 2.0mm-3C MM内	3.0	m			
	厚鋼電線管	G 16mm 塗装 露出	93.0	m			
	金属製可とう電線管	F 17mm 露出	1.0	m			
	メタルモール	A形 本体	11.0	m			
	メタルモール	A形 ジャンクションボックス	3.0	個			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	金属製露出スイッチボックス	1個用 16mm-1方出	2.0	個			
	金属製露出丸ボックス	16mm-1方出	5.0	個			
	金属製露出丸ボックス	16mm-3方出	4.0	個			
	金属製露出丸ボックス	16mm-4方出	1.0	個			
	樹脂製アウトレットボックス	中形四角 カバー付	5.0	個			
	金属製メクラカバープレート		2.0	枚			
	埋込スイッチ	1P15A×2 金属プレート	1.0	個			
	防水スイッチ	3W15A×1	2.0	個			
	埋込コンセント	金属カバープレート (カバー付) 2P15A×1, ET	1.0	個			
	照明器具	A	4.0	台			
	照明器具	B	4.0	台			
	照明器具	C	5.0	台			
	店舗共用分電盤		1.0	面			
	コンクリート壁貫通処理	厚150mm 径50mm 機械	1.0	箇所			



本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	電話配管設備工事						
	呼び線	1.2mm ビニル被覆鉄線 管内	66.0	m			
	樹脂製可とう電線管	PF 16mm 隠蔽	5.0	m			
	厚鋼電線管	G 16mm 塗装 露出	12.0	m			
	厚鋼電線管	G 22mm 塗装 露出	12.0	m			
	厚鋼電線管	G 28mm 塗装 露出	5.0	m			
	厚鋼電線管	G 28mm 隠蔽	2.0	m			
	厚鋼電線管	G 36mm 塗装 露出	30.0	m			
	異種管路接続材	G36mm～FEP40mm	1.0	組			
	プルボックス	150×150×100 (SUS) WP	5.0	個			
	プルボックス	200×200×200 (SUS) WP	1.0	個			
	端子盤	400×600×140	1.0	面			
	小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	監視カメラ設備工事						
	ケーブル	EM-5C-FB ラック	36.0	m			
	ケーブル	EM-5C-FB 管内	95.0	m			
	ケーブル	EM-5C-FB MM内	41.0	m			
	ケーブル	EM-5C-FB PF, FEP内	54.0	m			
	厚鋼電線管	G 28mm 塗装 露出	20.0	m			
	樹脂製可とう電線管	PF 28mm 露出	12.0	m			
	波付硬質ポリエチレン管	FEP 30mm 地中	6.0	m			
	異種管路接続材	G28mm～FEP30mm	2.0	組			
	メタルモール	A形 本体	16.0	m			
	メタルモール	B形 本体	5.0	m			
	メタルモール	A形 ジャンクションボックス	1.0	個			
	メタルモール	B形 ジャンクションボックス	2.0	個			

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	プルボックス	200×200×100 (SUS) WP	1.0	個			
	ハウジングカメラ		3.0	台			
	コンクリート壁貫通処理費	厚150mm 径50mm 機械	1.0	箇所			
	根切・埋戻し	幅：500 深さ：700 人力	1.75	m3			
	小 計						

本 工 事 費 内 訳 書

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	時計設備工事						
	ケーブル	EM-AE 0.9mm-2C MM内	8.0	m			
	ケーブル	EM-EEF 1.6mm-3C MM内	3.0	m			
	メタルモール	A形 本体	11.0	m			
	メタルモール	A形 1個用スイッチボックス	1.0	個			
	金属製メクラカバープレート		1.0	枚			
	既設時計制御盤移設		1.0	面			
	小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	機械設備工事						
1	衛生器具設備工事		1.0	式			
2	給水設備工事		1.0	〃			
3	排水設備工事		1.0	〃			
4	ガス設備工事		1.0	〃			
5	冷暖房設備工事		1.0	〃			
6	既設雨水設備更新工事		1.0	〃			
7	申請手続費		1.0	〃			
	計	(直接工事費)					



番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
1	給排水器具・機器設備工事						
	カウンター一体形手洗器	自動単水栓、Pトラップ、止水栓 他一式共	1.0	組			
	排水ポンプ(強化樹脂製)	非自動型(2台:交互並列運転) 40φ×80L/min×6mAq×0.25kW 1φ-100V、ケーブル14m 着脱装置(樹脂製) ポンプ吊下げ用ロープ共 フロートスイッチ 自動交互並列運転用 (満水警報共)、ケーブル14m 制御盤(屋外壁掛型) 交互並列運転用 フロートスイッチ信号による 水位制御間欠運転機能付 (停水位以上で2時間毎に1台起動・停止) ポンプ毎漏電遮断器付 運転・故障・水位異常表示灯 及び外部無電圧出力端子付	1.0	〃			
	1. 小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2 (1)	給水設備工事 屋外給水設備						
	耐衝撃性ポリ塩化ビニル管	25HI (屋外埋設)	15.0	m			
	〃	40HI (屋外埋設)	29.0	〃			
	仕切弁	GV-40 (10K)	1.0	ヶ			
	止水弁	KRV-20	5.0	〃			
	量水器取付費	20A	5.0	ヶ所			
	量水器柵	樹脂製	5.0	ヶ			
	補助止水栓	20A	5.0	〃			
	弁柵		6.0	ヶ所			
	埋設表示ピン		12.0	ヶ			
	埋設表テープ		44.0	m			
	コア抜き		5.0	ヶ所			
	土工事		1.0	式			
	2.(1) 小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(2)	屋内給水設備						
	塩化ビニルライニング鋼管	20VB (ピット内)	6.0	m			
	プラグ	20mm	1.0	式			
	保温工事		1.0	式			
	2.(2) 小 計						
	2. 合 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
3	排水設備工事						
(1)	屋外排水						
	一般配管用ステンレス鋼管	50SUS (排水ポンプ内)	5.0	m			
	硬質ポリ塩化ビニル管	100VU (屋外埋設)	3.0	m			
	クリーン枳	100×100×300、防臭蓋 アジャスター、SUS製ハスケット共	5.0	個			
	汚物用チェック弁	50A	2.0	〃			
	ボールバルブ	SUS製 50A	2.0	〃			
	土工事		1.0	式			
	3. (1) 小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
(2)	屋内排水						
	硬質塩化ビニル管	40VP (屋内埋設)	6.0	m			
	〃	100VP (屋内埋設)	10.0	〃			
	エンドキャップ	100mm	1.0	式			
	3. (2) 小 計						
	2. 合 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
4	ガス設備工事						
	塩化ビニル被覆鋼管	15PLV (屋外露出)	2.0	m			
	〃	25PLV (屋外露出)	10.0	〃			
	〃	40PLV (屋外露出)	29.0	〃			
	ポリエチレン被覆鋼管	25PLP (屋外埋設)	6.0	〃			
	ガスコック	GC-25 (検査孔付)	5.0	ヶ			
	〃	GC-25	5.0	〃			
	〃	GC-40	1.0	〃			
	仕切弁	GV-15 (5K)	5.0	〃			
	集合装置一式		1.0	式			
	プラグ	25mm	1.0	式			
	土工事		1.0	式			
	4. 小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
5	冷暖房設備工事						
	ハウジングエアコン	天井カセット形エアコン(2方向吹) 冷房 4.0kW, 暖房5.3kW	1.0	台			
		1-200V(室外電源タイプ) 圧縮機:1,100W					
		冷媒:6.4φ,9.5φ ワイヤレスリモコン、屋根置台、他一式共					
	全上設置工事	(振れ止め支持を含む)	1.0	式			
	冷媒管 冷媒用被覆銅管	CU 6.4 保温厚10mm	5.0	m			
	〃	CU 9.5 保温厚20mm	5.0	〃			
	硬質塩ビ管	25VP (屋内一般)	2.0	〃			
	〃	25VP (屋外露出)	3.0	〃			
	浸透枳	200φ (格子蓋)	5.0	組			
	屋根置台		1.0	〃			
	室内外渡り配線工事		1.0	式			
	保温・塗装工事		1.0	式			
	5. 小 計						

番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
6	雨水設備工事						
(1)	撤去・更新工事						
	硬質ポリ塩化ビニル管	150VU (屋外埋設)	18.0	m			
	ため桝	400φ (MHA-400共)	1.0	個			
	〃	500φ (MHA-500共)	2.0	〃			
	配管撤去費	ため桝共	1.0	式			
	収集運搬費		1.0	式			
	処分費		1.0	式			
	配管切断接続		1.0	式			
	6.小 計						



番号	名 称	品 質 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
7	申請手續費		1.0	式			
	7.小 計						

## 特 記 仕 様 書 (木造工事)

### I 工 事 概 要

1. 工事名 H30 石岡ステーションパーク利活用店舗新設工事
2. 工事場所 石岡市国府一丁目地内
3. 敷地面積 4,225.1455 m<sup>2</sup>
4. 建設工事その他概要 (建物名称, 構造, 階数, 建築面積, 延べ面積, 各階床面積, 等)

(1) 工事範囲 ※「(2) 建物概要」すべて ・「(2) 建物概要」のうち一部

(2) 建物概要

(全体)

建物名称	石岡ステーションパーク (店舗部分)	
構造	PS造 一部 RC造 (木造)	造 一部 造
階数	地上2階 地下階 (1階)	地上階 地下階
建築面積	1,716.895 m <sup>2</sup> (84.93 m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup>
延べ面積	1,811.575 m <sup>2</sup> (84.93 m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup>

(建物毎の各階床面積 m<sup>2</sup>)

建物名称	地下1階	1階	2階	3階	4階	計
石岡ステーションパーク		1,658.575	153.00			1,811.575

#### 5. 諸経費等の調整について

H29 石岡ステーションパーク第4期改修工事 (建築) の受注者が本工事を落札した場合, 諸経費を調整することがあります。

(H28. 04. 25 作成)

(H29. 04. 25 改訂)

## Ⅱ 建築工事仕様

- (1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、◎を付けたものを適用する。
- ◎公共建築木造工事標準仕様書（平成28年版）（以下、「木造標準仕様書」という。）
  - ◎公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）（以下、「標準仕様書」という。）
    - ・公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）
  - ◎建築工事標準詳細図（平成28年版）
    - ・建築物解体工事共通仕様書（平成24年版）
- (2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事は、それぞれの工事特記仕様書を適用する。
- (3) 本特記仕様書の表記
- 1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。
  - 2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。・印のみの場合は適用しない。  
◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。  
◎印と☒印の付いた場合は、共に適用する。
  - 3) 特記事項に記載の〈 〉内表示番号は、木造標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
  - 4) 特記事項に記載の〈 〉内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図及び当該表を示す。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	1 適用区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。</li> <li>・ 風圧力 風速 (V0= 34m/s) 地表面粗度区分 ・ I ・ II ● III ・ IV</li> <li>・ 積雪荷重 平成 12 年 5 月 31 日建設省告示第 1455 号における区域 別表 ( )</li> </ul>
	2 環境への配慮	<p style="text-align: right;">(1.4.1)</p> <p>(1) 建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。</p> <p>①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。</p> <p>②接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。</p> <p>③接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含む難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。</p> <p>④①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。</p> <p>(2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。</p> <p>①建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発生建築材料以外の材料</p> <p>②建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p> <p>③建築基準法施行令第 20 条の 7 第 1 項に定める第三種ホルムアルデヒド発生建築材料</p> <p>④建築基準法施行令第 20 条の 7 第 4 項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p>
	3 材料の品質等	<p style="text-align: right;">(1.4.2)</p> <p>(1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。</p> <p>(2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。</p> <p>(3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。</p> <p>(4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。</p> <p>①品質及び性能に関する試験データを整備していること。</p> <p>②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。</p> <p>③安定的な供給が可能であること。</p> <p>④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。</p> <p>⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。</p> <p>⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。</p>

章	項目	特記事項																					
1 一般共通事項	3 材料の品質等	<p>(5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 無収縮グラウト材、乾式保護材、既製調合モルタル、既製調合目地材、錠前類、クローザ類、自動扉機構、自閉式上吊り引き戸機構、防水剤、現場発泡断熱材、フリーアクセスフロア、移動間仕切、トイレブース、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、エポキシ樹脂、ポリマーセメントモルタル、床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、ルーフトレン、吸水調整材、重量シャッター、オーバーヘッドドア、可動間仕切、トップライト、鋳鉄製ふた</p> <p>(6) 「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたりサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）により、県が定める「特定調達品目」について環境負荷を低減できる材料を選定するよう努めるものとする。</p> <p>(7) 上記の条件を満たすものが県産材で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。なお、県産材とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。 ただし、県産材のうち木材については、県内の森林から合法的に産出された木材を使用することとし、「いばらき優良木材証明制度」に基づく証明書など、県産木材であることが確認できる資料を提出して監督員の承諾を受けることとする。</p>																					
	4 室内空気中の化学物質の濃度測定	<p>室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン（学校施設については、パラジクロロベンゼンについても対象とする。）の濃度を測定し、報告すること。</p> <p>測定は、厚生労働省が室内空気中化学物質の濃度を測定するための標準的方法として示した、ホルムアルデヒドについては、ジニトロフェニルヒドラジン（DNPH）誘導体化固相吸着／溶媒抽出－高速液体クロマトグラフ法により、その他については、固相吸着／溶媒抽出－ガスクロマトグラフ／質量分析法により行い、パッシブサンプラー型採取方法にて採取すること。</p> <p>測定対象箇所は、平成15年4月1日通知「官庁営繕部における平成15年度からのホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」に準じ、下表の数を標準とする。（指針値は、付記事項の6を参照）</p> <table border="1" data-bbox="531 1245 1473 1319"> <thead> <tr> <th>室の床面積 A (㎡)</th> <th>A ≤ 50</th> <th>50 &lt; A ≤ 200</th> <th>200 &lt; A ≤ 500</th> <th>500 &lt; A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定箇所数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>室内空気中の化学物質の濃度測定室箇所表</p> <table border="1" data-bbox="531 1352 1331 1534"> <thead> <tr> <th>室名（測定対象室）</th> <th>床面積</th> <th>測定箇所数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>待合コーナー</td> <td>16.74 ㎡</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	室の床面積 A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A	測定箇所数	1	2	3	4	室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数	待合コーナー	16.74 ㎡	1					
室の床面積 A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A																			
測定箇所数	1	2	3	4																			
室名（測定対象室）	床面積	測定箇所数																					
待合コーナー	16.74 ㎡	1																					
5	リサイクルの優先順位	(1)発生抑制の徹底 (2)再使用の徹底 (3)再資源化の徹底 (4)適正処分の徹底（再資源化に係る作成書類は、付記事項の5を参照）																					
6	発生材の処理等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発注者に引渡しを要するもの ※なし ・あり 処理方法（ ）</li> <li>・特別管理産業廃棄物 ※なし ・あり 処理方法（ ）</li> <li>・現場での再利用を図るもの ※なし ・あり 品目（ ）</li> </ul>																					
7	下請人通知	建設工事請負契約書に基づく下請人通知書を、市と請負契約を締結した日から原則として30日以内、その後の下請け契約に係るものは、契約締結の日から10日以内に提出するものとする。																					

章	項目	特記事項																																								
1 一般共通事項	8 技能士	(1.5.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事種別</th> <th>技能検定作業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仮設工事</td> <td>◎とび作業</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工事</td> <td>◎筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリート工事</td> <td>◎型枠工事作業 ◎コンクリート圧送工事作業</td> </tr> <tr> <td>鉄骨工事</td> <td>・構造物鉄工作業 ・とび作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリートブロック ・ALCパネ工事</td> <td>・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルパネ工事作業</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング 防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP 防水工事作業</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>・石張り作業</td> </tr> <tr> <td>タイル工事</td> <td>・タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>木工事</td> <td>◎大工工事作業</td> </tr> <tr> <td>屋根及びとい工事</td> <td>・内外装板金作業 ・スレート工事作業</td> </tr> <tr> <td>金属工事</td> <td>・鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>左官工事</td> <td>◎左官作業</td> </tr> <tr> <td>建具工事</td> <td>・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業</td> </tr> <tr> <td>カーテンウォール工事</td> <td>・金属製カーテンウォール工事作業 ・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業</td> </tr> <tr> <td>塗装工事</td> <td>・建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>内装工事</td> <td>・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業</td> </tr> <tr> <td>排水工事</td> <td>・建築配管作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>・溶融ヘントハントマーカ工事作業 ・加熱ヘントマシンマーカ工事作業</td> </tr> <tr> <td>植栽工事</td> <td>・造園工事作業</td> </tr> </tbody> </table>	工事種別	技能検定作業	仮設工事	◎とび作業	鉄筋工事	◎筋組立作業	コンクリート工事	◎型枠工事作業 ◎コンクリート圧送工事作業	鉄骨工事	・構造物鉄工作業 ・とび作業	コンクリートブロック ・ALCパネ工事	・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルパネ工事作業	防水工事	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング 防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP 防水工事作業	石工事	・石張り作業	タイル工事	・タイル張り作業	木工事	◎大工工事作業	屋根及びとい工事	・内外装板金作業 ・スレート工事作業	金属工事	・鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業	左官工事	◎左官作業	建具工事	・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業	カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業 ・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業	塗装工事	・建築塗装作業	内装工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業	排水工事	・建築配管作業	舗装工事	・溶融ヘントハントマーカ工事作業 ・加熱ヘントマシンマーカ工事作業	植栽工事	・造園工事作業
	工事種別	技能検定作業																																								
	仮設工事	◎とび作業																																								
	鉄筋工事	◎筋組立作業																																								
	コンクリート工事	◎型枠工事作業 ◎コンクリート圧送工事作業																																								
	鉄骨工事	・構造物鉄工作業 ・とび作業																																								
	コンクリートブロック ・ALCパネ工事	・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルパネ工事作業																																								
	防水工事	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング 防水工事作業 ・改質アスファルトシート工法防水工事作業 ・FRP 防水工事作業																																								
	石工事	・石張り作業																																								
	タイル工事	・タイル張り作業																																								
	木工事	◎大工工事作業																																								
	屋根及びとい工事	・内外装板金作業 ・スレート工事作業																																								
	金属工事	・鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業																																								
左官工事	◎左官作業																																									
建具工事	・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業																																									
カーテンウォール工事	・金属製カーテンウォール工事作業 ・ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業																																									
塗装工事	・建築塗装作業																																									
内装工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業																																									
排水工事	・建築配管作業																																									
舗装工事	・溶融ヘントハントマーカ工事作業 ・加熱ヘントマシンマーカ工事作業																																									
植栽工事	・造園工事作業																																									
	9 施工図等の取扱	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。																																								
	10 設備工事との取合	設備機器の位置取り合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。																																								
	11 完成図等	(1.7.1~3) (表1.7.1) ※完成図 ※作成する ・作成しない 提出するもの ◎原図 ◎製本 2部 ※CAD データ (JWW 形式) サイズ ・A1 ◎A2 ◎A3 ※画像データ (PDF 形式) ※CD-R 完成図 (JWW 形式), 完成写真 (JPEG 形式) を収録したもの ・維持保全に関する資料 (部数 ※1部)																																								
	12 引渡物	※鍵は1カ所につき、5個を1組とし、プラスチック札に室名を記入して提出する。 ※マスター鍵は、1組3個とし、木製及び金属製建具共通とする。 ※スチール製キーボックス ※鍵の数量については、監督員との協議による。																																								

章	項目	特記事項																				
1 一般共通事項	13 提出書類	<p>※写真</p> <table border="1" data-bbox="539 208 1461 349"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>内容</th> <th>枚数</th> <th>部数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※</td> <td>工事写真</td> <td>適宜</td> <td>1</td> <td>電子納品</td> </tr> <tr> <td>※</td> <td>完成写真（支払用：内外観）</td> <td>各2枚以上</td> <td>1</td> <td>A4版</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>完成写真（・データ共）</td> <td>適宜</td> <td>2</td> <td>アルバム(キャビネ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>完成写真（アルバム）の撮影業者  ※監督員の承諾する撮影業者(ただし、建築完成写真撮影実績のある業者とする)</p> <p>◎規格品証明書（原品証明書、同等品試験証明書、試験成績書等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス圧接作業員技量資格証明書（写し）</li> <li>・ガス圧接試験報告書</li> </ul> <p>◎コンクリート強度試験報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杭打結果報告書</li> <li>・溶接工技量証明書（表・裏とも写し）</li> </ul> <p>◎防水保証書（9-1. 2. 3. 4は10年）</p> <p>◎コンクリート配合計画書</p> <p>◎工事実績情報の登録内容確認書の写し</p> <p>※火災保険等に加入したことを証明できる書類</p> <p>◎建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書の写し</p> <p>※施工体制台帳の写し</p> <p>※施工体系図の写し</p> <p>◎産業廃棄物処理関係書類（産業廃棄物運搬委託契約書及び許可書の写し、産業廃棄物処理委託契約書及び許可書の写し等）</p> <p>◎産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写し</p> <p>◎内装材(下地を含む)に VOC 材料を使用した場合は、安全データシート（SDS）及びホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン、有機リン系の含有率のデータシート</p> <p>◎室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定報告書</p> <p>※建設副産物実態調査に関するデータ保存 CD 及び出力調査票</p> <p>※その他 監督員が必要と認め、指示した書類及び部数</p>	適用	内容	枚数	部数	備考	※	工事写真	適宜	1	電子納品	※	完成写真（支払用：内外観）	各2枚以上	1	A4版	・	完成写真（・データ共）	適宜	2	アルバム(キャビネ)
	適用	内容	枚数	部数	備考																	
※	工事写真	適宜	1	電子納品																		
※	完成写真（支払用：内外観）	各2枚以上	1	A4版																		
・	完成写真（・データ共）	適宜	2	アルバム(キャビネ)																		
14 埋蔵文化財	<p>※文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、市教育委員会文化振興課担当と協議を行うこと。</li> <li>・掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。</li> </ul>																					

章	項目	特記事項
2 仮設工事	1 足場	(2.2.4) ・「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
	2 監督員事務所	(2.3.1) ※設ける 規模： m程度 仕上げの程度： 程度 備え付ける備品： ・机 脚 ・椅子 脚 ・ロッカー 台 ・書棚 台 ・ホワイトボード ・製図板 ・掛時計 ・寒暖計 ・ゴム長靴 ・雨合羽 ・保護帽 ・懐中電灯 ・安全带 ・受託者加入電話の子機 ・暖冷房機 ・消火器 ・湯沸器 ・掃除具 ・その他 ( ) ・設けない
	3 工事用水	構内既存の施設 ・なし ※あり (・利用できる (有償) ※利用できない)
	4 工事用電力	構内既存の施設 ・なし ※あり (・利用できる (有償) ※利用できない)
	5 工事看板	(2.3.1) ※設置する 設置の場所 (◎適宜 ) 記載事項 (※工事番号 ※工事名称 ※発注者 ※設計者 ※監理者 ※工期 ※施工者) 大きさ (※1800mm×900mm 程度 ・ ) ・設置しない



章	項目	特記事項											
3 土工事	1 埋戻し及び盛土	(3.2.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A種 適用場所 ( )</li> <li>※B種 適用場所 ( )</li> <li>・ C種 適用場所 ( ) 土質 ( ) 受渡場所 ( )</li> <li>・ D種 (細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする。) 適用場所 ( )</li> </ul> 六価クロム溶出試験 ・行う ・行わない											
	2 建設発生土の処理	※構外搬出適切処理 ・構内指示の場所にたい積 ・構内指示の場所に敷き均し 構外搬出の場合は原則として50km範囲内の他の建設工事へ搬出するものとする。 ただし、茨城県建設副産物リサイクル推進協議会等で調整済みの場合は、上記に係わらずその調整結果を最優先する。 なお、他の工事との受け入れ時期及び土質等の調整が困難である場合は、別の処分場(ストックヤードを含む)に搬出することを妨げない。 ※建設発生土の再利用 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">処理方法</th> <th>搬出先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・現場内利用</td> <td>仮置き場所住所 ( ) 借地 ・有り ・無し</td> </tr> <tr> <td>・工事間利用</td> <td>相手工事名称 ( ) 住所 ( )</td> </tr> <tr> <td>・捨土 (公共用地)</td> <td>管理者名 ( ) 住所 ( )</td> </tr> <tr> <td>・ストックヤード</td> <td>ストックヤードの名称 ( ) 住所 ( )</td> </tr> <tr> <td>・未確定</td> <td>相手工事の名称 ( ) (予定) 住所 ( )</td> </tr> </tbody> </table> 土質 ・ローム ・シルト ・砂質土 ・レキ質土 ・ 土量 m <sup>3</sup> (地山換算数量) 片道運搬距離 km 条件 (昼夜間の別, 大型車規制, 伝票の使用等) ・ 現場内利用を行場合, 現場外に仮置き場を設けて時期調整を行い, 周辺環境に配慮し必要な措置を講じる 工事間利用を行う場合, 相手工事の受注者と綿密に協議する 工事間利用, 捨土の場合, 搬出手続き等は監督員の指示による	処理方法	搬出先	・現場内利用	仮置き場所住所 ( ) 借地 ・有り ・無し	・工事間利用	相手工事名称 ( ) 住所 ( )	・捨土 (公共用地)	管理者名 ( ) 住所 ( )	・ストックヤード	ストックヤードの名称 ( ) 住所 ( )	・未確定
処理方法	搬出先												
・現場内利用	仮置き場所住所 ( ) 借地 ・有り ・無し												
・工事間利用	相手工事名称 ( ) 住所 ( )												
・捨土 (公共用地)	管理者名 ( ) 住所 ( )												
・ストックヤード	ストックヤードの名称 ( ) 住所 ( )												
・未確定	相手工事の名称 ( ) (予定) 住所 ( )												

章	項 目	特 記 事 項						
3 土 工 事	3 建設汚泥	<p>※工事現場から 40km 範囲内に再資源化施設があるときは、原則として再資源化施設に搬出するものとする。          なお、工事現場から 40km 以内に再資源化施設がない場合においては、焼却施設、脱水施設や乾燥施設に搬出し減量化を行うものとする。</p> <table border="1" data-bbox="529 309 1481 766"> <thead> <tr> <th data-bbox="529 309 742 347">処理方法</th> <th data-bbox="742 309 1481 347">搬出先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="529 347 742 421">・再資源化施設</td> <td data-bbox="742 347 1481 421">           施設名称 ( )            施設住所 ( )         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="529 421 742 766">・他工事に搬出 (個別指定制度)</td> <td data-bbox="742 421 1481 766">           利用方法 ( )            相手工事            名称 ( )            住所 ( )            相手工事受注者            名称 ( )            住所 ( )            TEL ( )            処理施設の設置箇所 ( )            処理施設の処理能力等 ( )         </td> </tr> </tbody> </table> <p>搬出量                    m<sup>3</sup> (地山換算数量)          片道運搬距離            km          搬出条件 (昼夜間の別, 改良の度合等)          ・</p> <p>他工事に搬出する場合、処理施設の設置、個別指定制度の指定を受ける手続きが必要となるため、事前に監督員と十分に協議し、環境部局等に関係法令の手続きを行う</p>	処理方法	搬出先	・再資源化施設	施設名称 ( ) 施設住所 ( )	・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法 ( ) 相手工事 名称 ( ) 住所 ( ) 相手工事受注者 名称 ( ) 住所 ( ) TEL ( ) 処理施設の設置箇所 ( ) 処理施設の処理能力等 ( )
	処理方法	搬出先						
・再資源化施設	施設名称 ( ) 施設住所 ( )							
・他工事に搬出 (個別指定制度)	利用方法 ( ) 相手工事 名称 ( ) 住所 ( ) 相手工事受注者 名称 ( ) 住所 ( ) TEL ( ) 処理施設の設置箇所 ( ) 処理施設の処理能力等 ( )							
4	整 地	跡地はブルドーザー等による整地を行う						

章	項目	特記事項																																																																																			
4 地業工事	1 支持地盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杭基礎 (4.3.4) (4.3.5) (4.5.4) (4.5.5)</li> <li style="padding-left: 20px;">支持地盤の位置及び種類 (基礎杭の先端の位置含む)</li> <li style="padding-left: 40px;">・ 図示</li> <li>◎直接基礎</li> <li style="padding-left: 20px;">支持地盤の位置及び種類 (基礎底部の位置含む)</li> <li style="padding-left: 40px;">◎図示</li> <li style="padding-left: 20px;">試験掘り (根切り底の状態の確認等)</li> <li style="padding-left: 40px;">・ 行う</li> <li style="padding-left: 40px;">◎行わない</li> <li style="padding-left: 60px;">位置等</li> <li style="padding-left: 80px;">・ 図示</li> <li>・ 地盤の载荷試験 (4.2.4)</li> <li style="padding-left: 20px;">試験位置, 方法等</li> <li style="padding-left: 40px;">・ 図示</li> </ul>																																																																																			
	2 液状化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行う (工法, 施工範囲, 仕様及び計測, 試験等は図示による。)</li> <li>・ 行わない</li> </ul>																																																																																			
	3 既製コンクリート杭地業	<p>種類等 (4.3.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遠心力高強度プレストレスコンクリート杭 (PHC 杭)</li> <li>・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC 杭)</li> <li>・ 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC 杭)</li> <li style="padding-left: 20px;">SC 杭の鋼管材料</li> <li style="padding-left: 40px;">・ SKK400</li> <li style="padding-left: 80px;">・ SKK490</li> </ul> <p>材料</p> <p style="text-align: right;">(4.2.2) (4.3.2) (4.3.3)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>種類</th> <th>コンクリート強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>鋼管厚 (mm)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>継手数</th> <th>t数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試験杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>試験杭 (4.2.2) (4.3.4)</p> <p style="padding-left: 20px;">試験杭の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造図による</li> </ul> <p>杭先端部形状 (4.3.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開放形</li> <li>・ 半開放形</li> <li>・ 閉そく形</li> </ul>			種類	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	鋼管厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	t数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭	上杭										中杭										下杭										本杭	上杭										中杭										下杭																			
		種類	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	鋼管厚 (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	t数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																											
試験杭	上杭																																																																																				
	中杭																																																																																				
	下杭																																																																																				
本杭	上杭																																																																																				
	中杭																																																																																				
	下杭																																																																																				

章	項 目	特 記 事 項
4 地業 工事	3 既製コンクリート 杭地業	<p>施工方法 (4.3.3~4.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セメントミルク工法 (4.3.4) <ul style="list-style-type: none"> <li>アースオーガーの支持地盤への掘削深さ <ul style="list-style-type: none"> <li>・1.5m 程度</li> </ul> </li> <li>杭の支持地盤への根入れ深さ <ul style="list-style-type: none"> <li>・1.0m 以上</li> </ul> </li> <li>杭の精度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平方向への位置ずれ <ul style="list-style-type: none"> <li>・杭径の 1/4 かつ 100mm 以下</li> </ul> </li> <li>・杭の傾斜 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/100 以内</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・特定埋込杭工法 (4.3.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式で <math>\alpha=250</math> を採用できる工法</li> <li>・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式の内 <math>\alpha</math>, <math>\beta</math>, <math>\gamma</math> が下記の値を採用できる工法 <ul style="list-style-type: none"> <li><math>\alpha=(\quad)</math>, <math>\beta=(\quad)</math>, <math>\gamma=(\quad)</math></li> </ul> </li> </ul> </li> <li>工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレボーリング拡大根固め工法</li> <li>・中掘り拡大根固め工法</li> </ul> </li> <li>杭周固定液 <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する</li> <li>・使用しない</li> </ul> </li> <li>杭の精度 (4.3.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平方向の位置ずれ <ul style="list-style-type: none"> <li>・杭径の 1/4 かつ 100mm 以下</li> </ul> </li> <li>・杭の傾斜 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/100 以内</li> <li>・評定条件又は認定条件による</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>杭継手工法 (4.3.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーク溶接継手 <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書 4.3.6 による</li> </ul> </li> <li>溶接材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書 7.2.5(a)(b) による</li> <li>・図示</li> </ul> </li> <li>・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) <ul style="list-style-type: none"> <li>工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法</li> </ul> </li> <li>検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目</li> </ul> </li> <li>施工 <ul style="list-style-type: none"> <li>※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>杭頭の処理(切断方法) (4.3.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※処理しない</li> <li>・処理する <ul style="list-style-type: none"> <li>処理方法(切断にともなう補強方法含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>杭頭の中詰め材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>※基礎のコンクリートと同調合のもの</li> </ul> </li> </ul>

章	項目	特記事項																																																																												
4 地業工事	4 鋼杭地業	<p>材料 寸法, 継手等 (4.2.2) (4.4.2)</p> <table border="1" data-bbox="529 241 1348 667"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>継手数</th> <th>セット数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試験杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>杭先端部形状 (4.4.2)  ・開放型      ・半開放形      ・閉そく形      ・</p> <p>先端部の補強  ・標準仕様書 図 4.4.1, 表 4.4.2 による      ・</p> <p>先端部の補強(補強バンド等)及びその他付属品の材質  ・SS400 と同等又はそれ以上      ・</p> <p>施工方法  ・特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.4.4)  ・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式で <math>\alpha=250</math> を採用できる工法  ・H13 国土交通省告示第 1113 号第 6 による地盤の許容支持力式の内 <math>\alpha, \beta, \gamma</math> が下記の値を採用できる工法  <math>\alpha=(\quad), \beta=(\quad), \gamma=(\quad)</math>  工法  ・中掘り拡大根固め工法  ・</p> <p>杭の精度 (4.3.5)  ・水平方向の位置ずれ  ・杭径の 1/4 かつ 100mm 以下      ・  ・杭の傾斜  ・1/100 以内      ・評定条件又は認定条件による      ・</p> <p>試験杭  試験杭の位置  ・構造図による      ・</p>			種類	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭	上杭									中杭									下杭									本杭	上杭									中杭									下杭																		
		種類	厚さ (mm)	杭径 (mm)	杭長 (m)	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																																																																					
試験杭	上杭																																																																													
	中杭																																																																													
	下杭																																																																													
本杭	上杭																																																																													
	中杭																																																																													
	下杭																																																																													

章	項 目	特 記 事 項
4 地業 工事	4 鋼杭地業	<p>杭の現場継手 (4.4.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接継手 <ul style="list-style-type: none"> <li>形状 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JIS A 5525 による</li> </ul> </li> <li>溶接材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準仕様書 7.2.5(a) (b)による</li> <li>・ 図示</li> <li>・</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの) <ul style="list-style-type: none"> <li>工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>※審査(評定又は大臣認定)を受けた工法</li> </ul> </li> <li>検査 <ul style="list-style-type: none"> <li>※審査(評定又は大臣認定)により定められた項目</li> </ul> </li> <li>施工 <ul style="list-style-type: none"> <li>※審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>杭頭の処理 (4.3.7) (4.4.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処理しない</li> <li>・ 処理する <ul style="list-style-type: none"> <li>処理方法(切断に伴う補強方法含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造図による</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>杭頭の中詰め材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※基礎のコンクリートと同調合のもの</li> </ul>

章	項目	特記事項																																			
4 地業工事	5 場所打ち コンクリート杭地業	掘削工法 (4.5.1) (4.5.4) (4.5.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・アースドリル工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)</li> <li>・リバース工法</li> <li>・オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない)</li> </ul>																																			
		併用する工法 (4.5.1) (4.5.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所打ち鋼管コンクリート杭工法</li> <li>・拡底杭工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)</li> </ul>																																			
		寸法等 (4.2.2)																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>軸径 (mm)</th> <th>拡底径 (mm)</th> <th>杭長 (m)</th> <th>セット 数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セット 数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭							本杭																				
			軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セット 数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																													
		試験杭																																			
		本杭																																			
		鉄筋の種類 (4.5.3)																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SD295A</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	呼び径 (mm)	備考	・SD295A			・SD345																												
		種類の記号	呼び径 (mm)	備考																																	
		・SD295A																																			
		・SD345																																			
		帯筋 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造関係共通図(配筋標準図)6.2 帯筋(b)(3)⑥(口)による</li> <li>・図示</li> </ul>																																			
		鉄筋かごの補強 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書4.5.3(2)(iii)による</li> <li>・図示による ( )</li> </ul>																																			
		鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・100mm</li> <li>・125mm</li> </ul>																																			
		鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示</li> </ul>																																			
		セメントの種類 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>※高炉セメントB種</li> </ul>																																			
コンクリートの種別 (4.5.3) (表4.5.1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・A種</li> <li>・B種</li> </ul>																																					
コンクリートの設計基準強度( )N/mm <sup>2</sup> (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示</li> </ul>																																					
構造体強度補正 (4.5.3) <ul style="list-style-type: none"> <li>・3N/mm<sup>2</sup></li> <li>・図示</li> <li>・評定条件又は認定条件による</li> </ul>																																					
鋼管巻き材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・SKK400</li> <li>・SKK490</li> </ul>																																					
試験杭 (4.2.2) (4.5.4) (4.5.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験杭の位置、本数及び寸法</li> <li>・図示</li> </ul>																																					
孔壁測定 (4.5.4) (4.5.5) <ul style="list-style-type: none"> <li>・行わない</li> <li>・行う</li> </ul>																																					
測定方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波測定器</li> </ul>																																					
測定箇所数及び測定位置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験杭( )箇所及び本杭( )箇所とし、位置は構造図による</li> </ul>																																					

章	項目	特記事項						
4 地業工事	5 場所打ち コンクリート杭地業	杭の精度 (4.5.4) (4.5.5) 水平方向の位置ずれ ・ 100mm 以下 杭の傾斜 ・ 1/100 以内 ・ 評定条件又は認定条件による						
	6 砂利地業	材料 (茨城県の指定工場であること) (4.6.2) ※再生クラッシャーラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石 厚さ及び適用範囲 (4.6.3)						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さ</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 60</td> <td>・ 基礎下 ・ 基礎梁下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下</td> </tr> <tr> <td>◎100</td> <td>◎地盤改良材下 ◎仕切り調整コン下</td> </tr> </tbody> </table>	厚さ	適用箇所	・ 60	・ 基礎下 ・ 基礎梁下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下	◎100	◎地盤改良材下 ◎仕切り調整コン下
	厚さ	適用箇所						
	・ 60	・ 基礎下 ・ 基礎梁下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下						
◎100	◎地盤改良材下 ◎仕切り調整コン下							
7 捨コンクリート地業	厚さ及び施工範囲 (4.6.4) (6.14.1)							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さ</th> <th>施工範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 50</td> <td>・ 基礎下 ・ 基礎梁下 ・ 土に接するスラブ下</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 設計基準強度 (4.6.4) (6.14.1) ※18N/mm <sup>2</sup> スランプ (4.6.4) (6.14.1) ・ 15cm 又は 18cm	厚さ	施工範囲	・ 50	・ 基礎下 ・ 基礎梁下 ・ 土に接するスラブ下	・		
厚さ	施工範囲							
・ 50	・ 基礎下 ・ 基礎梁下 ・ 土に接するスラブ下							
・								
8 床下防湿層	材料 (4.6.2) ◎ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm 以上 施工範囲 (4.6.5) ◎図示による ( ) 施工位置 (4.6.5) ・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く) ◎地盤改良材及び仕切り調整コン下							
9 地盤改良	種類及び施工方法等 ◎図示による (地盤置換工法「コロンプス工法」) 六価クロム溶出試験							



章	項目	特記事項															
5 鉄筋工事	1 鉄筋	鉄筋の種類 (5.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎SD295A</td> <td>※D16 以下</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td>※D19 以上</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類の記号	呼び径(mm)	備考	◎SD295A	※D16 以下	・	・SD345	※D19 以上	・	・			・		
	種類の記号	呼び径(mm)	備考														
	◎SD295A	※D16 以下	・														
	・SD345	※D19 以上	・														
	・																
・																	
2 溶接金網	形状等 (5.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目の形状, 寸法, 鉄線の径(mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎溶接金網</td> <td>WFP</td> <td>φ6×150×150</td> <td>LPG 置場基礎</td> </tr> <tr> <td>・鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	種類の記号	網目の形状, 寸法, 鉄線の径(mm)	使用部位	◎溶接金網	WFP	φ6×150×150	LPG 置場基礎	・鉄筋格子							
種類	種類の記号	網目の形状, 寸法, 鉄線の径(mm)	使用部位														
◎溶接金網	WFP	φ6×150×150	LPG 置場基礎														
・鉄筋格子																	
3 鉄筋の継手	継手方法等 (5.3.4) (5.5.2) (5.5.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・柱, 梁の主筋</td> <td>・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手</td> <td>※D19 以上</td> </tr> <tr> <td>・耐力壁の鉄筋</td> <td>・重ね継手</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>◎基礎, 耐圧スラブ, 土圧壁</td> <td>◎重ね継手 ・ガス圧接</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・その他の鉄筋( )</td> <td>・重ね継手</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> 重ね継手の長さ (5.3.4) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3(a))  継手位置図 (カットオフ鉄筋の長さ共) (5.3.4) ◎図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1, 6.1, 7.1, 7.3, 8.1)  基礎梁主筋の継手位置図 ◎図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 図 5.2) ◎図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 図 5.3) ・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 図 5.4) ・図示による ( )	部位	継手方法	呼び径(mm)	・柱, 梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手	※D19 以上	・耐力壁の鉄筋	・重ね継手	・	◎基礎, 耐圧スラブ, 土圧壁	◎重ね継手 ・ガス圧接		・その他の鉄筋( )	・重ね継手	・	
部位	継手方法	呼び径(mm)															
・柱, 梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手	※D19 以上															
・耐力壁の鉄筋	・重ね継手	・															
◎基礎, 耐圧スラブ, 土圧壁	◎重ね継手 ・ガス圧接																
・その他の鉄筋( )	・重ね継手	・															
4 鉄筋の定着長さ	鉄筋の定着長さ (5.3.4) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3(b))																
5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む)	最小かぶり厚さ (目地底から算定を行う) (5.3.5) ※図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 表 4.1) ・ 柱及び梁の主筋に D29 以上の使用の有無 ・無し ・有り 適用箇所 ( ) 主筋のかぶり厚さを径の 1.5 倍以上確保する 耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等) ・無し ・有り 適用箇所 ( ) ・最小かぶり厚さに加える厚さ ( ) mm 鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手を除く) (5.3.5) ◎図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4(d))																

章	項目	特記事項
5 鉄筋工事	6 機械式継手	<p>使用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> </ul> <p>H12 建告第 1463 号に適合する性能 (5.5.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A 級</li> </ul> <p>機械式継手の工法（ ） (5.5.2)</p> <p>鉄筋相互のあき (5.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1)</li> </ul> <p>品質の確認方法, 不良となった継手の修正方法等 (5.5.2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示</li> </ul>
	7 溶接継手	<p>使用箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> </ul> <p>H12 建告第 1463 号に適合する性能 (5.5.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A 級</li> </ul> <p>鉄筋相互のあき (5.3.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1)</li> </ul> <p>溶接継手の工法 (5.5.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> </ul> <p>品質の確認方法, 不良となった継手の修正方法等 (5.5.3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> <li>・標準仕様書 1.2.2(b) 施工計画書の品質計画による</li> </ul> <p>溶接技術者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書 5.5.3(f) による</li> <li>・JIS Z 3882(鉄筋の突合わせ溶接技術検定における試験方法及び判定基準)による技量を有する者</li> </ul>
	8 各部配筋	<p>各部配筋 (5.3.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎図示による（構造関係共通図（配筋標準図））</li> </ul> <p>帯筋</p> <p>組立の形の種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造関係共通図（配筋標準図）6.2(b)(3)（ ）形による</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎図示による（ ）</li> </ul> <p>壁開口部の補強</p> <p>一般壁</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造関係共通図（配筋標準図）8.2(a)(1)（ ）形による</li> <li>・図示による（ ）</li> </ul> <p>耐力壁</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> </ul> <p>梁貫通孔の補強</p> <p>補強形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造関係共通図（配筋標準図）11.2（ ）形による</li> <li>・図示による（ ）</li> </ul> <p>梁貫通孔径（部材記号含む）及び配筋種別リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図示による（ ）</li> </ul> <p>柱主筋の柱頭定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造関係共通図（配筋標準図）6.1(a)(2)</li> <li>・図示による（ ）</li> </ul>
9 圧接完了後の試験	<p>外観試験 (5.4.9)</p> <p>※行う（全数）</p> <p>抜取試験 (5.4.9)(5.4.10)</p> <p>※超音波探傷試験</p> <p>試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。</p> <p>試験の箇所数：1ロットに対して30箇所とし、ロットから無作為に抜き取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引張試験</li> </ul> <p>試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする</p> <p>試験の箇所数：1ロットに対して(※3本・5本)とする</p>	

章	項目	特記事項																				
6 コンクリート工事	1 コンクリートの種類及び強度	<p>※普通コンクリート (6.2.1~4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m<sup>3</sup>)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎21</td> <td>2.3程度</td> <td>◎15又は18・18</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> )	スランプ (cm)	適用箇所	◎21	2.3程度	◎15又は18・18													
	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> )	スランプ (cm)	適用箇所																		
	◎21	2.3程度	◎15又は18・18																			
	2 コンクリートの類別	類別 (6.2.1) ※Ⅰ類(茨城県の指定工場であること) ・Ⅱ類																				
3 セメント	(6.3.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種</td> <td>下記以外全て</td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントB種</td> <td>・1FLより下部(立上がり部含む) ・</td> </tr> <tr> <td>・フライアッシュセメントB種</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする</p>	種類	使用部位	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外全て	・高炉セメントB種	・1FLより下部(立上がり部含む) ・	・フライアッシュセメントB種	・													
種類	使用部位																					
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外全て																					
・高炉セメントB種	・1FLより下部(立上がり部含む) ・																					
・フライアッシュセメントB種	・																					
4 骨材	使用骨材のアルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1) ※A ・B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m <sup>3</sup> 以下)																					
5 混和材料	(6.3.1) ・混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1 (d) (i) による ・ ・混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1 (d) (ii) による ・																					
6 無筋コンクリート	設計基準強度 (6.2.1) (6.3.1) (6.14.1) ※21 (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (6.14.1) ※15cm又は18cm ・ セメントの種類 (6.3.1) ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 適用箇所 (6.2.1) (6.14.1) ※標準仕様書 6.14.1 (e) による箇所 ◎図示																					
7 ひび割れ誘発目地、打ち継ぎ目地	目地寸法 (6.6.3) (6.8.2) (9.7.3) ・標準仕様書 9.7.3による ・ ※ひび割れ誘発目地、打ち継ぎ目地の深さ寸法は、躯体外側の打ち増し厚さ部で処理する 間隔・位置・形状 (6.8.2) ・図示 ・																					

章	項目	特記事項								
6 コンクリート工事	8 コンクリートの仕上げ	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5) (6.6.6) (6.8.3) (表6.2.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎A種</td> <td>※図示による</td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>※図示による</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>※図示による</td> </tr> </tbody> </table>	種別	適用箇所	◎A種	※図示による	・B種	※図示による	・C種	※図示による
	種別	適用箇所								
	◎A種	※図示による								
	・B種	※図示による								
	・C種	※図示による								
9 打増し厚さ (打放し仕上げ部)	打増し厚さ (6.8.2) <ul style="list-style-type: none"> <li>・打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20mm</li> </ul> </li> <li>・打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10mm</li> <li>・ 20mm</li> </ul> </li> <li>・外壁タイル後張り面の打増し処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20mm</li> </ul> </li> <li>・床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理 プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行なう <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10mm</li> <li>・ 20mm</li> </ul> </li> </ul> 打増し範囲 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示</li> </ul>									
10 型枠	せき板の材料及び厚さ (6.8.3) ◎合板 (※12mm ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> ※コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・断熱材を兼用した型枠の使用</li> <li>・MCR工法用シートの使用 <ul style="list-style-type: none"> <li>打増し厚さ      ・ 20mm</li> <li>打増し範囲      ・ 図示による (      )      ・</li> </ul> </li> </ul> スリーブの材料・規格等 (6.8.3) ※図示による (      )      ・									
11 コンクリートの養生方法	標準仕様書第6章 第7節による									
12 圧縮強度及び試験方法	標準仕様書 6.5.5, 6.9.2, 6.9.3, 6.9.4による (6.5.5) (6.9.2~4)  試験の実施機関 ※構造体コンクリートの圧縮強度試験はすべて「茨城県建設技術管理センター」等の公共機関において行う。									

章	項 目	特 記 事 項
6 コンクリート工事	13 コンクリートの 単位水量測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行わない</li> <li>・行う</li> </ul> <p>実施要領</p> <p>(1) 単位水量の測定は、150m<sup>3</sup>に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。</p> <p>(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書 6.3.2(2)による。</p> <p>(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/m<sup>3</sup>の範囲にある場合はそのまま施工する。</li> <li>2) 測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m<sup>3</sup>の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m<sup>3</sup>以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</li> <li>3) 設計値±20kg/m<sup>3</sup>を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m<sup>3</sup>以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m<sup>3</sup>以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</li> <li>4) 3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。</li> </ol> <p>(4) 単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する。</p> <p>(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験期間は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>

章	項 目	特 記 事 項																					
7 木造工事	1 防腐・防蟻処理	<p style="text-align: right;">〈4.2.1〉</p> <p>◎薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 20%;">適用部位</th> <th colspan="3" style="text-align: center;">処理の種類及び方法</th> </tr> <tr> <th style="width: 20%;">防腐処理が不要な樹種</th> <th style="width: 20%;">薬剤の加圧注入</th> <th style="width: 20%;">薬剤の塗布等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎土台</td> <td style="text-align: center;">・</td> <td style="text-align: center;">・K3</td> <td style="text-align: center;">・行う</td> </tr> <tr> <td>インサイジング</td> <td style="text-align: center;">・適用する</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">・適用しない</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬剤の塗布等による処理の方法 ※木造標準仕様書 4.2.1 (3) (ii) による</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボード原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">適用部位</th> <th style="width: 80%;">処理の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈4.2.2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤に接する鉄筋コンクリートによる床下の防蟻処理 適用は木造標準仕様書 4.2.2 (1) による (2) による</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈4.2.3〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤の土壌の防蟻処理 使用する薬剤 有効成分の系統 ( ) 剤型の種類 ・液剤 ・粒剤 使用量 ・帯状散布 (帯状の幅：約 20cm) 液剤：処理長さ 1l/m 粒剤：( ) ・面状散布 液剤：処理長さ 3l/m<sup>2</sup> 粒剤：( )</li> </ul>	適用部位	処理の種類及び方法			防腐処理が不要な樹種	薬剤の加圧注入	薬剤の塗布等	◎土台	・	・K3	・行う	インサイジング	・適用する	・適用しない		適用部位	処理の方法				
	適用部位	処理の種類及び方法																					
		防腐処理が不要な樹種	薬剤の加圧注入	薬剤の塗布等																			
◎土台	・	・K3	・行う																				
インサイジング	・適用する	・適用しない																					
適用部位	処理の方法																						
2 防腐措置	<p style="text-align: right;">〈4.2.4〉</p> <p>基礎外周部の換気孔</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねこ土台 材質等 ( )</li> <li>・換気孔 材質等 (※防鼠スクリーン又は防虫網 )</li> </ul> <p>小屋裏換気方法は木造標準仕様書 4.2.4 (c)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(i) ・(ii) ・(iii) ・(iv) ・(v)</li> </ul> <p>換気孔の大きさ ※図示</p>																						
3 防火被覆処理	<p style="text-align: right;">〈4.3.1~4.3.3〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防火被覆材の材料 ・図示</li> <li>・防火被覆材の厚さ ・図示</li> <li>・接合部等の防火被覆処理 ・図示</li> </ul>																						

章	項目	特記事項																																
9 軸組構法 (軸構造系) 工事	1 木材	軸組構法(軸構造系)工事に使用する木材 ◎図示 (6.2.2)																																
	2 構造用面材	軸組構法(軸構造系)工事に使用する構造用面材 ・図示 (6.2.3)																																
	3 接合金物	製作接合金物 (6.2.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>寸法・形状等</th> <th>表面処理等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td></td> <td>図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 接合金物(Z, C, D, Sマーク表示金物) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>Z, C, D, Sマークの規格</th> <th>短期許容耐力(kN)</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎火打金物</td> <td>Z HB</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎筋かいプレート</td> <td>Z BP</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎引き寄せ金物</td> <td>Z HD-B</td> <td>15.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・梁受け金物</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> Z, C, D, Sマーク表示金物に付属する接合具も含む。	種類	材質	寸法・形状等	表面処理等	・		図示		・				種類	Z, C, D, Sマークの規格	短期許容耐力(kN)	その他	◎火打金物	Z HB			◎筋かいプレート	Z BP			◎引き寄せ金物	Z HD-B	15.0		・梁受け金物			
	種類	材質	寸法・形状等	表面処理等																														
	・		図示																															
・																																		
種類	Z, C, D, Sマークの規格	短期許容耐力(kN)	その他																															
◎火打金物	Z HB																																	
◎筋かいプレート	Z BP																																	
◎引き寄せ金物	Z HD-B	15.0																																
・梁受け金物																																		
4 釘及び木ねじ	釘(JIS A 5508), コンクリート用釘, 特殊な釘 (6.2.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎N釘</td> <td>表面処理された鉄</td> <td>・耐力壁</td> </tr> <tr> <td>・CN釘</td> <td>表面処理された鉄</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・S釘</td> <td>ステンレス鋼</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 木ねじ(JIS B 1112又はJIS B 1135), その他の木ねじ <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>ステンレス</td> <td>JIS B 1112</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>ステンレス</td> <td>JIS B 1135</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	材質	その他	◎N釘	表面処理された鉄	・耐力壁	・CN釘	表面処理された鉄		・S釘	ステンレス鋼								種類	材質	その他	・	ステンレス	JIS B 1112	・	ステンレス	JIS B 1135						
種類	材質	その他																																
◎N釘	表面処理された鉄	・耐力壁																																
・CN釘	表面処理された鉄																																	
・S釘	ステンレス鋼																																	
種類	材質	その他																																
・	ステンレス	JIS B 1112																																
・	ステンレス	JIS B 1135																																
5 ボルト, アンカーボルト, ナット及び座金	ボルト, アンカーボルト, ナット及び座金(Z, C, D, Sマーク表示金物) (6.2.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>Z, C, D, Sマークの規格</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎アンカーボルト</td> <td>Z M12, M16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎六角ボルト</td> <td>Z M12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>◎座金</td> <td>Z W4.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> Z, C, D, Sマーク表示金物に付属する接合具も含む。	種類	Z, C, D, Sマークの規格	その他	◎アンカーボルト	Z M12, M16		◎六角ボルト	Z M12		◎座金	Z W4.5																						
種類	Z, C, D, Sマークの規格	その他																																
◎アンカーボルト	Z M12, M16																																	
◎六角ボルト	Z M12																																	
◎座金	Z W4.5																																	

章	項目	特記事項																					
9 軸組構法 (軸構造系) 工事	5	ボルト及びナット 材料 ・ 木造標準仕様書表 5.2.2 (JIS 附属書品) による ・ 木造標準仕様書表 5.2.2 (JIS 附属書品) 又は JIS 本体規格品 (ISO 規格) による。 (JIS 本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルト強度区分を 4.6 又は 4.8 の鋼製とし、ナットの種類を六角ナット-C の鋼製とする。) ・ 表面処理・ ボルト及びアンカーボルトに用いる座金 種別 ・ 表面処理 ・																					
	6	ラグスクリュー (Z, C, D, S マーク表示金物) <span style="float: right;">〈6.2.4〉</span> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">種類</th> <th style="width: 35%;">Z, C, D, S マークの規格</th> <th style="width: 35%;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ラグスクリュー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ラグスクリュー <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 30%;">材質等</th> <th style="width: 20%;">形状・寸法等</th> <th style="width: 30%;">表面処理等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ラグスクリュー</td> <td>木造標準仕様書表 6.2.2 のボルトによる</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	Z, C, D, S マークの規格	その他	・ ラグスクリュー			・			種類	材質等	形状・寸法等	表面処理等	・ ラグスクリュー	木造標準仕様書表 6.2.2 のボルトによる						
	種類	Z, C, D, S マークの規格	その他																				
	・ ラグスクリュー																						
	・																						
	種類	材質等	形状・寸法等	表面処理等																			
	・ ラグスクリュー	木造標準仕様書表 6.2.2 のボルトによる																					
7	ドリフトピン <span style="float: right;">〈6.2.4〉</span> ドリフトピン <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 30%;">材質等</th> <th style="width: 20%;">形状・寸法等</th> <th style="width: 30%;">表面処理等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ ドリフトピン</td> <td>SS400</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	材質等	形状・寸法等	表面処理等	・ ドリフトピン	SS400																
種類	材質等	形状・寸法等	表面処理等																				
・ ドリフトピン	SS400																						
8	木栓及び木だぼ <span style="float: right;">〈6.2.4〉</span> 木栓及び木だぼ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 30%;">樹種</th> <th style="width: 20%;">形状・長さ等</th> <th style="width: 30%;">その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 木栓</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 木だぼ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	樹種	形状・長さ等	その他	・ 木栓				・ 木だぼ													
種類	樹種	形状・長さ等	その他																				
・ 木栓																							
・ 木だぼ																							
9	接着剤 <span style="float: right;">〈6.2.4〉</span> ・ 床鳴り防止接着剤 (JIS A 5550) 接着剤の種類 ・ ・ 接着剤と併用した場合 接着剤の種類 ・ ・ 接着剤による接合 接着剤の種類 ・																						
10	現寸図 <span style="float: right;">〈6.4.2〉</span> 床書き現寸図を作成する																						
11	孔あけ加工 <span style="float: right;">〈6.4.5〉</span> ボルトの孔径 ※木造標準仕様書 6.4.1 による ・ ドリフトピンの孔径 ※ピン径と同径																						



章	項目	特記事項
9 軸組構法 (軸構造系) 工事	12 表面仕上げ	見え掛り面の表面仕上げ <6.4.6> ・集成材 機械加工 ・ A種 ※B種 <表 6.4.2> ・製材 機械加工 ・ A種 ・ B種 ・ C種 <表 6.4.3> 手加工 ・ A種 ・ B種 ・ C種 <表 6.4.4> ・木材保護塗料塗り 施工箇所 ※図示 ・ 種別 ・ A種 ※B種 (18.14.2)
	13 アンカーボルトの埋込み	保持, 埋込み工法 ・ A種 ◎B種 <6.5.3> 埋込み位置の許容誤差 ※±5mm ・
	14 基礎天端及び柱底均しモルタル仕上げ	材料 ・ 木造標準仕様書 6.5.4 (1) による ・ 無収縮モルタル <6.5.4> モルタルの厚さ ※20mm 程度 ・ 柱底モルタルの工法 ※B種 ・ A種
	15 建方精度	建入れ直し後の建方精度の許容値 <6.5.7> ※垂直, 水平の誤差の範囲 1/1,000 以下 ・
	16 接合金物の工法	熱橋を形成する位置に設置する接合金物の断熱 <6.5.9> <19.1.2> ◎埋木 ・ 簡易発泡硬質ウレタンフォーム断熱材 ・
	17 釘及び木ねじの工法	構造材を仕上げようとしている場合の釘打ち ・ 隠し釘打ち ・ 釘頭埋め木 ・ つぶし頭釘打ち ・ 釘頭現し
	18 輪型ジベル接合	輪型ジベル <6.5.15> 種類 材質・形状・寸法等 ・
	19 圧入型ジベル接合	圧入型ジベル <6.5.16> 種類 材質・形状・寸法等 ・
	20 火打土台	・ 木材の火打土台 <6.6.2> ・ 鋼製火打土台
	21 火打梁	小屋組 ・ 木製の火打梁 ◎鋼製の火打梁 <6.7.8> <6.8.6> 床組み ・ 木製の火打梁 ・ 鋼製の火打梁
	22 床束	・ 木製床束 <6.8.2> ・ 鋼製床束 ◎樹脂製床束

章	項目	特記事項																
11 木 工 事	1 材料	<p style="text-align: right;">&lt;9.2.2&gt;</p> 木工事に使用する材料等 ※図示 ・  木工事に使用する合板等 ※図示 ・  ◎釘 ・ JISに規定されている釘以外の釘 材質 ( ) 寸法, 形状 ※図示 ◎造作材化粧面の釘打ち ※隠し釘打ち ・ 釘頭埋め木 ・ つぶし頭釘打ち ・ 釘頭現し ◎木ねじ ◎JIS B 1112 又は JIS B 1135 に規定されているもの以外の木ねじ 材質 ( ) 寸法, 形状 ※図示																
	2 表面仕上げ	<p style="text-align: right;">&lt;9.1.3&gt; &lt;表 9.1.1&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">表面仕上げの種別</th> <th style="width: 40%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>・ A種</td><td></td></tr> <tr><td>・ B種</td><td></td></tr> <tr><td>・ C種</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>・ 造作用集成材の表面仕上げ &lt;表 9.1.1&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">表面仕上げの種別</th> <th style="width: 40%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>・ A種</td><td></td></tr> <tr><td>・ B種</td><td></td></tr> <tr><td>・ C種</td><td></td></tr> </tbody> </table>	表面仕上げの種別	適用箇所	・ A種		・ B種		・ C種		表面仕上げの種別	適用箇所	・ A種		・ B種		・ C種	
	表面仕上げの種別	適用箇所																
	・ A種																	
	・ B種																	
	・ C種																	
表面仕上げの種別	適用箇所																	
・ A種																		
・ B種																		
・ C種																		
3 木材の耐候性処理	<p style="text-align: right;">&lt;9.3.1&gt;(18.14.2)</p> 屋外に使用する仕上げ木材 ・ 木材保護塗料塗り 施工箇所 ※図示 ・ 種別 ・ A種 ※B種																	
4 木材の防虫処理	<p style="text-align: right;">&lt;9.3.2&gt;</p> 施工箇所 ※図示 ・ 処理方法 ※図示 ・																	
5 外壁通気構法下地	<p style="text-align: right;">&lt;9.8.2&gt;</p> 積雪地の場合の下地補強 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">工法種別</th> <th style="width: 40%;">補強方法</th> <th style="width: 30%;">補強高さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 縦通気胴縁工法</td> <td>※木造標準仕様書 9.8.2(3)(viii)による ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 横通気胴縁工法</td> <td>※木造標準仕様書 9.8.2(3)(ix)による ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法種別	補強方法	補強高さ(mm)	・ 縦通気胴縁工法	※木造標準仕様書 9.8.2(3)(viii)による ・		・ 横通気胴縁工法	※木造標準仕様書 9.8.2(3)(ix)による ・									
工法種別	補強方法	補強高さ(mm)																
・ 縦通気胴縁工法	※木造標準仕様書 9.8.2(3)(viii)による ・																	
・ 横通気胴縁工法	※木造標準仕様書 9.8.2(3)(ix)による ・																	
6 和室の造作	<p style="text-align: right;">&lt;9.10.1&gt;</p> 柱 ・ 背割不要の処理																	

章	項目	特記事項								
12 防水工事	1 FRP系塗膜防水	<p style="text-align: right;">&lt;10.2.2,4&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーフドレン               <ul style="list-style-type: none"> <li>・FRP系塗膜防水用ルーフドレン</li> <li>・鋳鉄製</li> </ul> </li> <li>・下地合板の上の防火板               <ul style="list-style-type: none"> <li>種類 (※ケイ酸カルシウム板 ( ) )</li> <li>厚さ (※10mm ( ) )</li> </ul> </li> </ul> <p>防水層平場の勾配 ※1/100以上</p> <p>水張り試験 ・ 行う</p>								
	2 シーリング	<p style="text-align: right;">&lt;10.3.2&gt; &lt;表10.3.1&gt;</p> <p>下表以外は、木造標準仕様書表10.3.1による。 ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは標準仕様書11章による。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">施工箇所</th> <th style="width: 50%;">シーリング材の種類 (記号)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・外壁材版間 (サイディング部)</td> <td>・メーカー仕様による。</td> </tr> <tr> <td>・既存柱取合い</td> <td>・MS-2</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>シーリング材の目地寸法 ※木造標準仕様書10.3.3(a)(1)~(3)による</p>	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)	・外壁材版間 (サイディング部)	・メーカー仕様による。	・既存柱取合い	・MS-2		
	施工箇所	シーリング材の種類 (記号)								
	・外壁材版間 (サイディング部)	・メーカー仕様による。								
	・既存柱取合い	・MS-2								
3 防水テープ	<p style="text-align: right;">&lt;10.4.2&gt;</p> <p>両面粘着防水テープの幅 ※50mm以上 ・ 75mm以上 ・ 100mm以上</p>									
4 バルコニー手すり	<p style="text-align: right;">&lt;10.4.3&gt;</p> <p>バルコニー手すり ※10.4.3(b)(9)①~⑤による 固定方法 ※図示 手すりのアルミニウム製笠木 材料 ( ) 仕上げ ( ) ・ 図示</p>									
5 ケイ酸質系塗布防水	<p style="text-align: right;">&lt;10.5.1&gt; (9.6.1,3) (表9.6.1,2)</p> <p>防水層の種別</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">種</th> <th style="width: 25%;">施工箇所</th> <th style="width: 25%;">種別</th> <th style="width: 25%;">施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※C-UI</td> <td> </td> <td>・C-UP</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	種	施工箇所	種別	施工箇所	※C-UI		・C-UP		
種	施工箇所	種別	施工箇所							
※C-UI		・C-UP								

章	項目	特記事項																																																																		
13 石工事	1 施工	<p>〈11.1.1〉 (10.1.3, 5)</p> <p>石材の割付け ※標準仕様書 10.1.3(a) (1), (2)による ・図示</p> <p>粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ ・図示 ・</p> <p>屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ ・行う(適用場所 ・すべて ・ )</p> <p>・行わない</p>																																																																		
	2 石材等	<p>天然石 〈11.1.1〉 (10.2.1, 3) (表 10.2.1, 2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>品質</th> <th>石材の種類</th> <th>形状</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面仕上げ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・1等品 ・2等品</td> <td></td> <td>※正方形に近い矩形 ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・1等品 ・2等品</td> <td></td> <td>※正方形に近い矩形 ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>テラゾブロック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ (mm)</th> <th>形状</th> <th>仕上げ面</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>表面仕上げ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・平もの ・役もの</td> <td>・片面 ・両面</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・平もの ・役もの</td> <td>・片面 ・両面</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>テラゾタイル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種石の種類</th> <th>種石の大きさ (mm)</th> <th>寸法による区分</th> <th>表面仕上げ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・300型 ・400型</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>※大理石 ・花こう岩</td> <td>※1.5~12 ・</td> <td>・300型 ・400型</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>取り付用モルタル, 既調合の目地モルタル, 石裏面処理材, 裏打ち処理材 ※石材施工業者の指定する製品 ・</p>	施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考		・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・						・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・					施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面					※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面				施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考		※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型				※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型		
	施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考																																																												
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・																																																																	
	・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形 ・																																																																	
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考																																																													
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面																																																																
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面																																																																
施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考																																																															
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型																																																																	
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12 ・	・300型 ・400型																																																																	
3 外壁湿式工法		<p>(10.2.2, 3) (10.3.2, 3)</p> <p>石裏面処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>下地ごしらえ ※流し筋工法 ・あと施工アンカー工法 ・あと施工アンカー, 横筋横流し工法</p> <p>受金物 材質 ※SS400 ・ 形状及び寸法 ・L-75×75×6 (mm) の加工 L=100mm ・L-75×75×6 (mm) の加工 L=150mm ・</p> <p>ドレインパイプの材質 ・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ ・</p> <p>アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 ・</p> <p>あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上 ・ シーリング材 ・適用する ・適用しない</p> <p>伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 11.1.1による ・図示 シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a) (3)による ・図示</p>																																																																		

章	項 目	特 記 事 項
13 石 工 事	4 内壁空積工法	<p style="text-align: right;">(10.2.2, 3) (10.3.2, 3)</p> <p>受金物 材質 ※SS400 . 形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm ・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm .</p> <p>石裏面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>下地ごしらえ ※あと施工アンカー, 横筋横流し工法 ・あと施工アンカー工法 アンカーの材質及び径 ※SS400 M12 . あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 . シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書 11.1.1による ・図示 シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a) (3)による ・図示</p>
	5 乾式工法	<p style="text-align: right;">(10.2.2) (10.5.2, 3) (表 10.2.4)</p> <p>取付け方式 ・スライド方式 ・ロッキング方式 石裏面処理 ・適用する ・適用しない 裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書 10.5.2(b) (1)による ・図示</p> <p>外壁の工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) の風圧力に対応 した工法</p> <p>アンカーの材質及び形状 ※ステンレス(SUS304) M10 . あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>目地 目地幅(mm) ※8以上 . シーリング材 ・適用する(※標準仕様書 9章7節による) ・図示) ・適用しない</p>
	6 床及び階段の石張り	<p style="text-align: right;">(10.6.2, 3)</p> <p>床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない 階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>目地 一般目地 目地幅(mm) ・図示 . シーリング材 ・適用する ・適用しない 伸縮調整目地 位置 ※床面積 30m<sup>2</sup> 程度ごと, 細長い通路の場合 6m 程度 ごと及び他の部材との取り合う箇所 ・図示 シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3 (a) (3)による ・図示</p>

章	項 目	特 記 事 項
13 石 工 事	7 アーチ, 上げ裏等の石張り	<p style="text-align: right;">(10.2.2) (10.7.1, 2)</p> <p>取付け金物 ・※標準仕様書 10.2.2(c)による ・  引金物, だぼ, かすがい及び受金物 標準仕様書 10.2.2(a)による ・  ファスナー ※標準仕様書 10.2.2(b)スライド式に準ずる ・  吊金物及び化粧吊りボルト  ・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS304)径 6mm 長さ 80mm (加工物)  ・  吊りボルト ※ステンレス(SUS304)M10 化粧ナット付き  ・  ・設けない</p> <p>アンカーの材質及び径 ・SS400 M12 ・ステンレス(SUS304) M10 ・  あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>取付け工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法  石裏面処理 ・適用する ・適用しない  裏打ち処理 ・適用する ・適用しない</p> <p>目地 一般目地 目地幅(mm) ※6 以上 ・  伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取り合い部 ・図示  シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(a) (3)による ・図示</p>
	8 笠木, 甲板等の石張り	<p style="text-align: right;">(10.2.2) (10.7.1, 3)</p> <p>取付け金物 ・※標準仕様書 10.2.2(c)による ・  引金物, だぼ, かすがい及び受金物 標準仕様書 10.2.2(a)による ・  ファスナー ※標準仕様書 10.2.2(b)スライド式に準ずる ・  アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS304) M10 ・  あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )</p> <p>取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法  石裏面処理 ・適用する ・適用しない  乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書 10.5.3(b)による  石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない</p>

章	項目	特記事項																																																																									
14 タイル工事	1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地	(11.1.3) (表 11.1.1) 位置 ※標準仕様書表 11.1.1による ・図示																																																																									
	2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り	タイルの形状・寸法等 (11.2.2, 7) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状/寸法 (mm)</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわぐすり</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材料の適用</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">耐滑り性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> <th>施 ゆ う</th> <th>無 ゆ う</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする            試験張り ・行う ・行わない            見本焼き ・行う ※行わない            モルタル塗りのコンクリート素地面の処理            ・MCR 工法 ・目荒し工法(高圧水洗処理) ・</p> <p>壁タイル張りの工法            外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り            内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り</p> <p>・既製調合モルタル            モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">保水率 (%)</th> <th rowspan="2">単位容積質量 (kg/l)</th> <th colspan="2">接着強さ (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th rowspan="2">長さ変化率 (%)</th> <th rowspan="2">曲げ強さ (N/mm<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th>標準時</th> <th>温冷繰返し後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70.0 以上</td> <td>1.80 程度</td> <td>0.60 以上</td> <td>0.40 以上</td> <td>0.20 以下</td> <td>4.0 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>・既製調合目地材</p>	施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	耐凍害性		耐滑り性	備考	I類	II類	III類	施 ゆ う	無 ゆ う	有	無	標準	特注	有	無			.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.					.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.			保水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )		長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )	標準時	温冷繰返し後	70.0 以上	1.80 程度	0.60 以上	0.40 以上	0.20 以下	4.0 以上
	施工箇所	形状/寸法 (mm)			吸水率による区分			うわぐすり		役物		色			再生材料の適用	耐凍害性			耐滑り性	備考																																																							
I類			II類	III類	施 ゆ う	無 ゆ う	有	無	標準	特注	有	無																																																															
		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.																																																														
		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.																																																														
保水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )		長さ変化率 (%)	曲げ強さ (N/mm <sup>2</sup> )																																																																						
		標準時	温冷繰返し後																																																																								
70.0 以上	1.80 程度	0.60 以上	0.40 以上	0.20 以下	4.0 以上																																																																						
3 接着剤による陶磁器質タイル張り	(11.3.2~4, 7) タイルの形状・寸法等	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状/寸法 (mm)</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわぐすり</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th rowspan="2">再生材料の適用</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">耐滑り性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II類</th> <th>III類</th> <th>施 ゆ う</th> <th>無 ゆ う</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td>.</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎図示</p> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする            試験張り ・行う ・行わない            見本焼き ・行う ※行わない            接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・            外装タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材            打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・            ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・            伸縮調整目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・            その他の目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・            モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理            ・MCR 工法 ・目荒し工法(高圧水洗処理) ・</p>	施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	耐凍害性		耐滑り性	備考	I	II類	III類	施 ゆ う	無 ゆ う	有	無	標準	特注	有	無			.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.					.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.																
施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	耐凍害性			耐滑り性	備考																																																											
		I	II類	III類	施 ゆ う	無 ゆ う	有	無	標準	特注		有	無																																																														
		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.																																																														
		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.																																																														

章	項目	特記事項																			
14 タイル工事	4 陶磁器質タイル型枠先付け	(11.4.2, 3) (表 11.4.1)																			
		タイルの形状・寸法等																			
		施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		再生材料の適用	備考							
				I類	II類	III類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注									
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・										
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・										
<p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする</p> <p>試験張り ・行う ・行わない</p> <p>見本焼き ・行う ・行わない</p> <p>タイル型枠先付けの種類</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">種類</th> <th style="width: 33%;">適用タイル</th> <th style="width: 33%;">タイル型枠先付け面のせき板の種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※タイルシート法</td> <td>・小口タイル</td> <td rowspan="3">※標準仕様書 6.8.3(b) (2) ・金属製タイル先付け用パネル ・</td> </tr> <tr> <td>・目地榿法</td> <td>・二丁掛タイル</td> </tr> <tr> <td>・棧木法</td> <td>大型タイル</td> </tr> </tbody> </table>												種類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種別	※タイルシート法	・小口タイル	※標準仕様書 6.8.3(b) (2) ・金属製タイル先付け用パネル ・	・目地榿法	・二丁掛タイル	・棧木法	大型タイル
種類	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種別																			
※タイルシート法	・小口タイル	※標準仕様書 6.8.3(b) (2) ・金属製タイル先付け用パネル ・																			
・目地榿法	・二丁掛タイル																				
・棧木法	大型タイル																				



章	項目	特記事項																																		
15 屋根及び びとい工事	1 施工	<p style="text-align: right;">&lt;13.2.2&gt;</p> 下葺材料 ※改質アスファルトルーフィング下葺材(一般タイプ) ◎アスファルトルーフィング 940 改質アスファルトルーフィングの積雪寒冷地対策 ・行う																																		
	2 金属板葺	<p style="text-align: right;">&lt;13.3.2~8&gt;</p> ◎図示 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>板びコイルの種 類</th> <th>塗膜の耐久性、めっき付 着量等の種類及び記号</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>屋根葺形式</th> <th>固定釘等 の材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※JIS G 3322 の屋根用コイル</td> <td></td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平葺(一文字葺)</li> <li>・心木あり瓦棒葺</li> <li>・心木なし瓦棒葺</li> <li>・横葺</li> <li>・立平葺</li> </ul> </td> <td></td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>心木の防腐・防蟻処理方法( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平葺(一文字葺)の工法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・はぜの作り方 ※図示</li> </ul> </li> <li>・心木あり瓦棒葺の工法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅板以外の板による屋根一般部分の工法                 <ul style="list-style-type: none"> <li>溝板及びキャップの留付け方法 ※木造標準仕様書 13.3.5(c)(1)(iii)による</li> <li>瓦棒の間隔 ※図示</li> </ul> </li> <li>・銅板による屋根一般部分の工法                 <ul style="list-style-type: none"> <li>瓦棒の間隔 ※図示</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・心木なし瓦棒葺の工法             <ul style="list-style-type: none"> <li>屋根の流れ方向に並行な壁との取合い部                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨押さえを付ける場合 ※木造標準仕様書 13.3.6(d)(5)①による</li> <li>・雨押さえを用いない場合 ※木造標準仕様書 13.3.6(d)(5)②による</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>工法</p> <p>吊子、各部の釘の留付け間隔 ※図示 ・</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法</p> <p>雪止め ・設置する(図示)</p>	板びコイルの種 類	塗膜の耐久性、めっき付 着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	固定釘等 の材質	※JIS G 3322 の屋根用コイル			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平葺(一文字葺)</li> <li>・心木あり瓦棒葺</li> <li>・心木なし瓦棒葺</li> <li>・横葺</li> <li>・立平葺</li> </ul>																									
	板びコイルの種 類	塗膜の耐久性、めっき付 着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	固定釘等 の材質																															
※JIS G 3322 の屋根用コイル			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平葺(一文字葺)</li> <li>・心木あり瓦棒葺</li> <li>・心木なし瓦棒葺</li> <li>・横葺</li> <li>・立平葺</li> </ul>																																	
3 折板葺	<p style="text-align: right;">&lt;13.4.2,3&gt; &lt;表 13.3.1&gt;</p> ◎図示 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工 箇所</th> <th rowspan="2">形式</th> <th colspan="2">山高、山比<sup>ツチ</sup>による区分</th> <th rowspan="2">耐力による区分</th> <th rowspan="2">材料による区分</th> <th rowspan="2">厚さ (mm)</th> <th rowspan="2">軒先 面戸 板</th> <th rowspan="2">耐火性能</th> </tr> <tr> <th>山高</th> <th>山比<sup>ツチ</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重ね形</li> <li>・はぜ締め形</li> <li>・かん合形</li> </ul> </td> <td></td> <td></td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>※鋼板製</li> <li>・アルミ合金板製</li> </ul> </td> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> <li>・無し</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30分</li> <li>・無し</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>材料 板及びコイルの種類( )</p> <p>塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号( )</p> <p>断熱材 ・有り(種別: 厚さ(mm) 防火性能: 時間)</p> <p>・無し</p> <p>タイトフレームを留め付ける下地材</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>形状</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>工法</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工</p>	施工 箇所	形式	山高、山比 <sup>ツチ</sup> による区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先 面戸 板	耐火性能	山高	山比 <sup>ツチ</sup>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・重ね形</li> <li>・はぜ締め形</li> <li>・かん合形</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>※鋼板製</li> <li>・アルミ合金板製</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> <li>・無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30分</li> <li>・無し</li> </ul>		・								材質	形状	寸法			
施工 箇所	形式			山高、山比 <sup>ツチ</sup> による区分							耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先 面戸 板	耐火性能																					
		山高	山比 <sup>ツチ</sup>																																	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重ね形</li> <li>・はぜ締め形</li> <li>・かん合形</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>※鋼板製</li> <li>・アルミ合金板製</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・有り</li> <li>・無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30分</li> <li>・無し</li> </ul>																												
	・																																			
材質	形状	寸法																																		

		法
--	--	---

章	項目	特記事項																																																								
15 屋根及び びとい工事	4 粘土瓦葺	<p style="text-align: right;">〈13.5.2, 3〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">種類</th> <th colspan="6">役物</th> <th rowspan="2">大きさ</th> <th rowspan="2">産地等</th> </tr> <tr> <th>形状による区分</th> <th>製法による区分</th> <th>寸法による区分</th> <th>軒瓦</th> <th>そで瓦</th> <th>のし瓦</th> <th>冠瓦</th> <th>半瓦</th> <th>雪止め瓦</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・J形瓦</td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・S形瓦</td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・F形瓦</td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>補強用心木の防腐・防蟻処理方法( )</p> <p>工法            建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法            瓦葺木の留付け工法 ※図示 ・            棟の工法 ※木造標準仕様書 13.4.3(e)(1)~(5)による ・</p>	種類			役物						大きさ	産地等	形状による区分	製法による区分	寸法による区分	軒瓦	そで瓦	のし瓦	冠瓦	半瓦	雪止め瓦	・J形瓦			・	・	・	・	・	・	・			・S形瓦			・	・	・	・	・	・	・			・F形瓦			・	・	・	・	・	・	・		
	種類			役物						大きさ	産地等																																															
	形状による区分	製法による区分	寸法による区分	軒瓦	そで瓦	のし瓦	冠瓦	半瓦	雪止め瓦																																																	
・J形瓦			・	・	・	・	・	・	・																																																	
・S形瓦			・	・	・	・	・	・	・																																																	
・F形瓦			・	・	・	・	・	・	・																																																	
5 スレート葺	<p style="text-align: right;">〈13.6.2〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">寸法 (全長さ×全幅)</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">着色(色調)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>棟</th> <th>けらば</th> <th>・無</th> <th>・有( )</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・平形</td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・無</td> <td>・有( )</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・波形</td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・無</td> <td>・有( )</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>工法            建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法            雪止め ・設置する(図示)</p>	種類	寸法 (全長さ×全幅)	役物		着色(色調)		備考	棟	けらば	・無	・有( )	・平形		・	・	・無	・有( )		・波形		・	・	・無	・有( )																																	
種類	寸法 (全長さ×全幅)			役物		着色(色調)			備考																																																	
		棟	けらば	・無	・有( )																																																					
・平形		・	・	・無	・有( )																																																					
・波形		・	・	・無	・有( )																																																					
6 アスファルトシングル葺	<p style="text-align: right;">〈13.7.2〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品質</th> <th>形状</th> <th>色調</th> <th>寸法(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>工法            建築基準法に基づき定まる風圧力の(・1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法            軒先、けらば等に曲面を設ける場合 ※半径500mm以上 ・            雪止め ・設置する(図示)</p>	品質	形状	色調	寸法(mm)	備考																																																				
品質	形状	色調	寸法(mm)	備考																																																						

章	項 目	特 記 事 項
15 屋根及び びとい工事	6 とい	<p style="text-align: right;">&lt;13.8.2,3&gt; &lt;表13.8.1&gt;</p> <p>といの材料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属板 (銅板を除く。)</li> <li>種類 ※木造標準仕様書表 13.8.1 ( )</li> <li>板厚 ・</li> </ul> <p>谷どい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種類 ※木造標準仕様書表 13.8.1 ( )</li> <li>板厚 ・</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銅板</li> <li>板厚 ※一般部 0.35mm、谷どい部 0.4mm</li> </ul> <p>◎硬質塩化ビニル樹脂</p> <p>◎図示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種類 ( )</li> <li>外径 ( )</li> <li>厚さ ( )</li> <li>長さ ( )</li> </ul> <p>硬質塩化ビニル製集水器の形状 ※図示</p> <p>硬質塩化ビニル製あんこうの形状 ※図示</p>

章	項目	特記事項																											
16 金属工事	1 ステンレスの表面仕上げ	(14.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>施工箇所 (手すり, タラップ, 建具以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※HL 程度</td> <td>ゲート巾木</td> </tr> <tr> <td>・鏡面仕上げ程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・No.2B 程度</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	施工箇所 (手すり, タラップ, 建具以外)	※HL 程度	ゲート巾木	・鏡面仕上げ程度		・No.2B 程度																				
	種類	施工箇所 (手すり, タラップ, 建具以外)																											
	※HL 程度	ゲート巾木																											
	・鏡面仕上げ程度																												
	・No.2B 程度																												
	2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	(14.2.2) (表 14.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>皮膜又は複合皮膜の種類</th> <th>施工箇所 (成形板, 笠木, 建具以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A-1 種</td> <td>※AA15・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・A-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)</td> <td>※AA15・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B-1 種</td> <td>※B・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)</td> <td>※B・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C-1 種</td> <td>※AA6・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)</td> <td>※AA6・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・D 種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 陽極酸化皮膜の着色方法 ※二次電解着色 ・三次電解着色	種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所 (成形板, 笠木, 建具以外)	・A-1 種	※AA15・		・A-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA15・		・B-1 種	※B・		・B-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※B・		・C-1 種	※AA6・		・C-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA6・		・D 種			・		
	種別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所 (成形板, 笠木, 建具以外)																										
	・A-1 種	※AA15・																											
	・A-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA15・																											
	・B-1 種	※B・																											
・B-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※B・																												
・C-1 種	※AA6・																												
・C-2 種 (・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー)	※AA6・																												
・D 種																													
・																													
3 鉄鋼の亜鉛めっき	(14.2.3) (表 14.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>表面処理方法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所 (手すり, タラップ以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">溶融亜鉛めっき</td> <td>・A 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電気亜鉛めっき</td> <td>・D 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・E 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・F 種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり, タラップ以外)	溶融亜鉛めっき	・A 種		・B 種		・C 種		電気亜鉛めっき	・D 種		・E 種		・F 種												
表面処理方法	種別	施工箇所 (手すり, タラップ以外)																											
溶融亜鉛めっき	・A 種																												
	・B 種																												
	・C 種																												
電気亜鉛めっき	・D 種																												
	・E 種																												
	・F 種																												

章	項目	特記事項
17 左官工事	1 材料	<p style="text-align: right;">&lt;15. 2. 3, 4&gt;</p> <p>◎図示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラス            素材による区分 ( )            種類 ( )            単位面積当たりの質量 ( )</li> </ul> <p style="text-align: right;">&lt;15. 2. 4&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木質系セメント板</li> <li>・木毛セメント板 ( ・ HW    ・ MW    ・ NW )</li> </ul>
	2 下地	<p style="text-align: right;">&lt;15. 2. 3&gt;</p> <p>◎図示</p> <p>ラス系下地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直張りラスモルタル下地</li> <li>・直張りラスシート下地</li> <li>・通気構法単層下地            換気口部の防水処理 ※木造標準仕様書 10. 4. 3 (b) (10) による</li> <li>・通気構法二層下地</li> </ul>
	3 モルタル塗り	<p style="text-align: right;">&lt;15. 3. 2~4&gt;</p> <p>既製目地材 ・設ける 施工箇所 ( ) 形状 (※図示 ・ )            ・設けない</p> <p>床の目地 ・設ける (工法※押し目地 ・ )            ・設けない</p> <p>外壁タイル張り下地の均しモルタルの接着力試験 ・適用する            ・適用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防水剤</li> </ul>
	4 せっこうプラスター塗り	<p style="text-align: right;">&lt;15. 4. 3&gt;</p> <p>上塗り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既調合プラスター(上塗り用)</li> <li>・しっくい塗り</li> </ul>
	5 しっくい塗り	<p style="text-align: right;">&lt;15. 6. 2~4&gt;</p> <p>しっくい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場調合しっくい</li> <li>・既調合しっくい            製造所 ( )            種類 ( )</li> </ul> <p>下地</p> <p>※木ずり, 小舞土壁, せっこうラスボード又はせっこうボード</p> <p>調合及び塗厚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木ずり下地の場合 ※木造標準仕様書表 15. 6. 1 ・図示</li> <li>小舞土壁下地の場合 ※木造標準仕様書表 15. 6. 2 ・図示</li> <li>上記以外の場合 ・図示</li> </ul>

章	項 目	特 記 事 項
17 左 官 工 事	6 小舞壁塗り	<p>のり <span style="float: right;">〈15.7.2〉</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壁用ののり</li> <li>・砂壁用ののり</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">     ・ふのり ※つのまた ・ぎんなんそう      ※ふのり ・つのまた ・こんにゃくのり      ・にかわ ・合成樹脂系混和剤   </p> <p>色土</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土物仕上げに用いる色土の種類 ( )</li> <li>・大津仕上げに用いる色土の種類 ( )</li> </ul> <p>色砂の種類 ( )</p> <p>塗厚 ※木造標準仕様書 表 15.7.8 <span style="float: right;">〈15.7.4〉</span></p> <p style="margin-left: 40px;">ただし、建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合は、指定仕様による。</p> <p>工程 ※A種 ・B種 <span style="float: right;">〈15.7.5〉</span></p> <p>・土物仕上げの工法 <span style="float: right;">〈15.7.7〉</span></p> <p style="margin-left: 20px;">種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土物仕上げ工法</li> <li>・水ごね土物1工法</li> <li>・のりさし仕上げ工法</li> <li>・砂壁仕上げ工法</li> <li>・切返し仕上げ工法</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">     ・水ごね土物2工法      ・のりごね仕上げ工法   </p> <p>・大津仕上げの工法 <span style="float: right;">〈15.7.8〉</span></p> <p style="margin-left: 20px;">種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通大津仕上げ工法</li> <li>・大津みがき仕上げ工法</li> </ul>

章	項目	特記事項																																																				
17 左官工事	7 仕上塗材仕上げ	<p style="text-align: right;">(15. 8. 2)</p> <p>仕上塗材の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>防火材料</th> <th>仕上げの形状及び工法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">・薄付け 仕上塗材</td> <td>・外装薄塗材 Si</td> <td>・</td> <td rowspan="10">           ・砂壁状            ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り）            ・さざ波状            ・平たん状            ・凹凸状（・吹付け・こて塗り）            ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り）            ・砂壁状じゅらく            ・京壁状じゅらく            吸放湿性 ・適用する ・適用しない         </td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材 Si</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材 E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材 E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形外装薄塗材 E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材 S</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・内装薄塗材 C</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・内装薄塗材 L</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・内装薄塗材 Si</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・内装薄塗材 E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・厚付仕上 塗材</td> <td>           ・外装薄塗材 C            ・外装薄塗材 Si            ・外装薄塗材 E            ・内装薄塗材 C            ・内装薄塗材 L            ・内装薄塗材 G            ・内装薄塗材 Si            ・内装薄塗材 E         </td> <td>           ・            ・            ・            ・            ・            ・            ・            ・         </td> <td>           ・吹放し            ・凹凸状            ・凸部処理            ・ひき起こし            ・平たん状            ・かき落とし            吸放湿性            上塗材         </td> </tr> <tr> <td rowspan="8">・複層仕上 塗材</td> <td>・複層塗材 CE</td> <td>・</td> <td rowspan="8">           ・ゆず肌状            耐候性            上塗材            溶媒            ル系            外観            増塗材         </td> </tr> <tr> <td>・可とう形複層塗材 CE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材 Si</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>◎複層塗材 E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材 RE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材 CE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材 E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材 RE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・軽量骨材 仕上塗材</td> <td>           ・吹付用軽量塗材            ・こて塗用軽量塗材         </td> <td>           ・            ・         </td> <td>           ・凸部処理            ※耐候形 3 種            ◎溶剤系            ・弱溶剤系樹脂 ※アクリ            ・つやあり            ・つやなし            ・メタリック            ・適用する            ・適用しない         </td> </tr> </tbody> </table> <p>所要量等の確認 ※木造特記仕様書 表 15. 8. 4 (15. 8. 7)        ・単位面積当たりの使用量による</p>	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・薄付け 仕上塗材	・外装薄塗材 Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する ・適用しない	・可とう形外装薄塗材 Si	・	・外装薄塗材 E	・	・可とう形外装薄塗材 E	・	・防水形外装薄塗材 E	・	・外装薄塗材 S	・	・内装薄塗材 C	・	・内装薄塗材 L	・	・内装薄塗材 Si	・	・内装薄塗材 E	・	・厚付仕上 塗材	・外装薄塗材 C ・外装薄塗材 Si ・外装薄塗材 E ・内装薄塗材 C ・内装薄塗材 L ・内装薄塗材 G ・内装薄塗材 Si ・内装薄塗材 E	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・吹放し ・凹凸状 ・凸部処理 ・ひき起こし ・平たん状 ・かき落とし 吸放湿性 上塗材	・複層仕上 塗材	・複層塗材 CE	・	・ゆず肌状 耐候性 上塗材 溶媒 ル系 外観 増塗材	・可とう形複層塗材 CE	・	・複層塗材 Si	・	◎複層塗材 E	・	・複層塗材 RE	・	・防水形複層塗材 CE	・	・防水形複層塗材 E	・	・防水形複層塗材 RE	・	・軽量骨材 仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・ ・	・凸部処理 ※耐候形 3 種 ◎溶剤系 ・弱溶剤系樹脂 ※アクリ ・つやあり ・つやなし ・メタリック ・適用する ・適用しない
	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																		
	・薄付け 仕上塗材	・外装薄塗材 Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り） ・砂壁状じゅらく ・京壁状じゅらく 吸放湿性 ・適用する ・適用しない																																																		
・可とう形外装薄塗材 Si		・																																																				
・外装薄塗材 E		・																																																				
・可とう形外装薄塗材 E		・																																																				
・防水形外装薄塗材 E		・																																																				
・外装薄塗材 S		・																																																				
・内装薄塗材 C		・																																																				
・内装薄塗材 L		・																																																				
・内装薄塗材 Si		・																																																				
・内装薄塗材 E		・																																																				
・厚付仕上 塗材	・外装薄塗材 C ・外装薄塗材 Si ・外装薄塗材 E ・内装薄塗材 C ・内装薄塗材 L ・内装薄塗材 G ・内装薄塗材 Si ・内装薄塗材 E	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・吹放し ・凹凸状 ・凸部処理 ・ひき起こし ・平たん状 ・かき落とし 吸放湿性 上塗材																																																			
・複層仕上 塗材	・複層塗材 CE	・	・ゆず肌状 耐候性 上塗材 溶媒 ル系 外観 増塗材																																																			
	・可とう形複層塗材 CE	・																																																				
	・複層塗材 Si	・																																																				
	◎複層塗材 E	・																																																				
	・複層塗材 RE	・																																																				
	・防水形複層塗材 CE	・																																																				
	・防水形複層塗材 E	・																																																				
	・防水形複層塗材 RE	・																																																				
・軽量骨材 仕上塗材	・吹付用軽量塗材 ・こて塗用軽量塗材	・ ・	・凸部処理 ※耐候形 3 種 ◎溶剤系 ・弱溶剤系樹脂 ※アクリ ・つやあり ・つやなし ・メタリック ・適用する ・適用しない																																																			
8 床コンクリート直均し仕上	<p style="text-align: right;">(6. 2. 5) (15. 3. 2)</p> <p>下表以外は標準仕様書 15. 3. 2 による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>平たんさ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>71-アケス707(支柱調整式)範囲</td> <td>1mにつき 10 以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	平たんさ(mm)	備考	71-アケス707(支柱調整式)範囲	1mにつき 10 以下		・																																														
施工箇所	平たんさ(mm)	備考																																																				
71-アケス707(支柱調整式)範囲	1mにつき 10 以下																																																					
・																																																						
9 セルフレベリング材塗り	<p style="text-align: right;">(15. 4. 2) (表 15. 4. 1)</p> <p>・せっこう系 ・セメント系</p>																																																					



章	項目	特記事項											
18 建具工事	1 防火戸	※建具表による 〈16.1.3〉											
	2 見本の製作等	建具見本の製作 ・ 行う (建具符号: ) ・ 行わない 建具見本の制度 ・ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・ 納まり等が分かる程度のもの 特殊な建具の仮組 ・ 行う (建具符号: ) ・ 行わない 〈16.1.4〉											
	3 防犯建物部品	・ 適用する (※建具表による ) ・ 適用しない 〈16.1.6〉											
	4 アルミニウム製建具	性能等級 外部に面する建具 ・ A種 (建具符号: ※建具表による ) ・ B種 (建具符号: ※建具表による ) ・ C種 (建具符号: ※建具表による ) 防音ドアセット, 防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級 ( ) (建具符号: ・ 建具表による ) ・ 適用しない 断熱ドアセット, 断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級 ( ) (建具符号: ・ 建具表による ) ・ 適用しない 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追随性の等級 ( ) (建具符号: ・ 建具表による ) ・ 適用しない 枠の見込み寸法 ・ 建具表による ・ シャッター ・ 建具一体型 ・ 後付け スラット ・ アルミニウム製 ・ 塗装鋼板 ・ 雨戸 鋼板 ・ アルミニウム製 ・ 塗装鋼板 断熱性の等級 ( ) 表面処理 外部に面する建具 ・ B-1種 ・ B-2種 皮膜等の種類 (※標準仕様書表 14.2.1による ) 着色 (・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 屋内の建具 ・ C-1種 ・ C-2種 皮膜等の種類 (※標準仕様書表 14.2.1による ) 着色 (・ アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 結露水の処理方法 ※図示 水切り板, ぜん板 ※図示 〈16.2.2~5〉 〈表 16.2.1〉											
	5 網戸等	〈16.2.3〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材種</th> <th>線径</th> <th>網目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステン製 (SUS316) 製</td> <td>※0.25mm 以上 ・</td> <td>※16~18 メッシュ ・</td> </tr> <tr> <td>・ 防鳥網</td> <td>ステン製 (SUS304) 線材</td> <td>1.5mm</td> <td>網目寸法 15mm</td> </tr> </tbody> </table>	種類	材種	線径	網目	・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステン製 (SUS316) 製	※0.25mm 以上 ・	※16~18 メッシュ ・	・ 防鳥網	ステン製 (SUS304) 線材	1.5mm
種類	材種	線径	網目										
・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステン製 (SUS316) 製	※0.25mm 以上 ・	※16~18 メッシュ ・										
・ 防鳥網	ステン製 (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法 15mm										

章	項目	特記事項								
18 建具工事	6 樹脂製建具	<p style="text-align: right;">〈16. 3. 2~5〉</p> <p>性能等級</p> <p>外部に面する建具 ・ A種 (建具符号: ※建具表による )          ・ B種 (建具符号: ※建具表による )          ・ C種 (建具符号: ※建具表による )</p> <p>防音ドアセット, 防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級 ( ・ T-1 ・ T-2 )          (建具符号: ・ 建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>断熱ドアセット, 断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級 ( ・ H-4 ・ H-5 ・ H-6 )          (建具符号: ・ 建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>枠の見込み寸法 ・ 建具表による          ・ シャッター          ・ 後付け          スラット ・ アルミニウム製 ・ 塗装鋼板</p> <p>表面色 ※標準色 ・ 特注色          水切り板, ぜん板 ※図示          ガラス ※複層ガラス</p>								
	7 鋼製建具	<p style="text-align: right;">〈16. 2. 2〉 〈16. 4. 2~4〉 〈表 16. 4. 2〉</p> <p>性能等級</p> <p>簡易気密型ドアセット ・ 適用する (建具符号: ※建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・ A種 (建具符号: ※建具表による )          ・ B種 (建具符号: ※建具表による )</p> <p>防音ドアセット, 防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級 ( )          (建具符号: ・ 建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>断熱ドアセット, 断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級 ( )          (建具符号: ・ 建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>鋼板</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">材料</th> <th style="width: 20%;">めっき付着量</th> <th style="width: 30%;">厚さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)</td> <td>※Z12 又は F12</td> <td rowspan="2">・ 標準仕様書表 16. 4. 2 による</td> </tr> <tr> <td>・ JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)</td> <td>※Y08</td> </tr> </tbody> </table>	材料	めっき付着量	厚さ	・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12 又は F12	・ 標準仕様書表 16. 4. 2 による	・ JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)	※Y08
	材料	めっき付着量	厚さ							
・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12 又は F12	・ 標準仕様書表 16. 4. 2 による								
・ JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板)	※Y08									
8 鋼製軽量建具	<p style="text-align: right;">〈16. 2. 2〉 〈16. 5. 2~4〉 〈16. 6. 3〉</p> <p>性能等級</p> <p>簡易気密型ドアセット ・ 適用する (建具符号: ※建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>防音ドアセット, 防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級 ( )          (建具符号: ・ 建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>断熱ドアセット, 断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級 ( )          (建具符号: ・ 建具表による )          ・ 適用しない</p> <p>鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 ・ ステンレス鋼板          鋼板の厚さ ・ 標準仕様書表 16. 5. 1 による          召合せ, 縦小口包み板の材質 ※鋼板 ・ ステンレス鋼板 ・ アルミニウム合金</p>									

章	項目	特記事項											
18 建具工事	9 ステンレス製建具	<p style="text-align: right;">〈16. 2. 2〉 〈16. 4. 2〉 〈16. 6. 2～5〉</p> <p>性能等級</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：※建具表による ・ ）            ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・A種（建具符号：※建具表による ・ ）            ・B種（建具符号：※建具表による ・ ）</p> <p>防音ドアセット，防音サッシ ・適用する 遮音性の等級（ ）            （建具符号：・建具表による ・ ）            ・適用しない</p> <p>断熱ドアセット，断熱サッシ ・適用する 断熱性の等級（ ）            （建具符号：・建具表による ・ ）            ・適用しない</p> <p>鋼板（屋外） ※SUS430JIL, SUS443J1, SUS304 ・            鋼板（屋内） ※SUS430, SUS430JIL, SUS443J1, SUS304 ・</p> <p>表面仕上げ ※HL 仕上げ ・鏡面仕上げ ・            ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</p>											
	10 木製建具	<p style="text-align: right;">〈16. 7. 2～4〉 〈表 16. 7. 1, 6〉</p> <p>建具材の加工，組立時の含水率 ※B種 ・A種 ・C種</p> <p>建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量            ※規制対象外 ・</p> <p>・フラッシュ戸            表面材の合板の種類</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">合板の種類</th> <th style="width: 40%;">規格等</th> <th style="width: 30%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・普通合板</td> <td>           表面の樹種            生地，透明塗料塗            （※7μ程度 ・ ）            不透明塗料塗り            （※しな程度 ・ ）            板面の品質（ ）            接着の程度（・1類 ・2類）            防虫処理 ・行う         </td> <td></td> </tr> <tr> <td>・天然木 化粧合板</td> <td>           樹種名（ ）            接着の程度（・1類 ・2類）            防虫処理 ・行う         </td> <td></td> </tr> <tr> <td>・特殊加工 化粧合板</td> <td>           化粧加工の方法            （・オーバーレイ・プリント・塗装）            表面性能（ ）タイプ            接着の程度（・1類 ・2類）            防虫処理 ・行う         </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>表面板の厚さ ※表 16. 7. 6 による ・</p> <p>・かまち戸            かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ）            見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・</p> <p>・ふすま            張りの種別（・I型 ・II型）            上張り（押入等の裏側以外） ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度            縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁(素地) ・生地縁(ウレタンクリアー塗装)            見込み寸法 ※19. 5mm ・建具表による ・</p> <p>・戸ぶすま            見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</p> <p>・紙張り障子            見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・</p> <p>枠及びくつずりの材料 ・建具表による ・</p>	合板の種類	規格等	備考	・普通合板	表面の樹種 生地，透明塗料塗 （※7μ程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う		・天然木 化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う		・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 （・オーバーレイ・プリント・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う
合板の種類	規格等	備考											
・普通合板	表面の樹種 生地，透明塗料塗 （※7μ程度 ・ ） 不透明塗料塗り （※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う												
・天然木 化粧合板	樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う												
・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 （・オーバーレイ・プリント・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類） 防虫処理 ・行う												

章	項目	特記事項																				
18 建具工事	11 建具用金物	<p style="text-align: right;">〈16.8.2, 3〉〈表 16.8.1, 3〉</p> 金物の種類及び見え掛かり部の材質等 ※標準仕様書表 16.8.1 及び適用は建具表による 樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表 16.8.3 による 握り玉, レバーハンドル, 押板類, クレセントの取付け位置 ・ 建具表による ・錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠】 (品質) デッドボルトの出寸法は 17mm 以上とする。鍵付きのものはマスターキー, グランドマスターキー, コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。 ・錠前類 【レバーハンドル】 ・クローザ類																				
	12 鍵	<p style="text-align: right;">〈16.8.4〉</p> ◎監督員との協議による。 マスターキー ※製作する ・ 製作しない その他の鍵 ※各室 3 本 1 組 ・ 鍵箱 ※有り ・ 無し																				
	13 自動ドア開閉機構	<p style="text-align: right;">〈16.9.2, 3〉〈表 16.9.1, 2〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>自動ドア</th> <th>性能</th> <th>防錆</th> <th>センサーの方式</th> <th>凍結防止</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2</td> <td>※標準仕様書表 16.9.1 による ・</td> <td>・適用する ・適用しない</td> <td>・マットスイッチ ・光線(反射)スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ</td> <td>・行う (適用箇所は建具表による) ・行わない</td> </tr> <tr> <td>・SWD-1 ・SWD-2</td> <td>※標準仕様書表 16.9.2 による ・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・図示</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	自動ドア	性能	防錆	センサーの方式	凍結防止	・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2	※標準仕様書表 16.9.1 による ・	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線(反射)スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う (適用箇所は建具表による) ・行わない	・SWD-1 ・SWD-2	※標準仕様書表 16.9.2 による ・				・図示	・			
	自動ドア	性能	防錆	センサーの方式	凍結防止																	
	・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSL-1 ・DSL-2	※標準仕様書表 16.9.1 による ・	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線(反射)スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う (適用箇所は建具表による) ・行わない																	
・SWD-1 ・SWD-2	※標準仕様書表 16.9.2 による ・																					
・図示	・																					
14 自閉式上吊り引戸装置	<p style="text-align: right;">〈16.10.3〉</p> 性能 ※標準仕様書表 16.10.1 による																					
15 重量シャッター	<p style="text-align: right;">〈16.11.2, 3〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シャッターの種類</th> <th>耐風圧強度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・管理用シャッター</td> <td>耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>・外壁用防火シャッター</td> <td>耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>・屋内用防火シャッター</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・屋内用防煙シャッター</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 開閉機能による種類 ※上部電動式(手動併用) ・ 上部手動式 管理用シャッターのシャッターケース ※設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 ※Z12 又は F12	シャッターの種類	耐風圧強度	・管理用シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>	・外壁用防火シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>	・屋内用防火シャッター		・屋内用防煙シャッター												
シャッターの種類	耐風圧強度																					
・管理用シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>																					
・外壁用防火シャッター	耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup>																					
・屋内用防火シャッター																						
・屋内用防煙シャッター																						
16 軽量シャッター	<p style="text-align: right;">〈16.12.2~4〉</p> 開閉形式 ※手動式 ・ 上部電動式(手動併用) 耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup> スラットの材質 ※JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっき付着量 (※Z06 又は F06 ) ・ JIS G 3318 (塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板) めっき付着量 (※AZ90 ) スラットの形状 ・ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形																					

章	項目	特記事項																																																																				
18 建具工事	17 オーバーヘッドドア	<p style="text-align: right;">〈16.13.2~3〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>セクション材料による区分</th> <th>耐風圧 区分 (Pa)</th> <th>開閉方式による区分</th> <th>収納形式による区分</th> <th>ガイドレールの材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ</td> <td>・125 ・100 ・75 ・50</td> <td>※バランス式 ・チェーン式 ・電動式</td> <td>・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バネ付形</td> <td>※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板</td> </tr> </tbody> </table>	セクション材料による区分	耐風圧 区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質	※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バネ付形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板																																																										
	セクション材料による区分	耐風圧 区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質																																																																	
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バネ付形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板																																																																		
18 ガラス	<p style="text-align: right;">〈16.14.2~4〉 〈表 16.14.1〉</p> <p>適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表及び図面による。</p> <p>・合わせガラス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>構成種類</th> <th>性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・フロート合わせガラス</td> <td>・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス</td> <td>・Ⅰ類</td> </tr> <tr> <td>・網入磨き合わせガラス</td> <td>・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス</td> <td>・Ⅱ-1類・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類</td> </tr> </tbody> </table> <p>・強化ガラス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料板ガラスによる種類</th> <th>構成種類</th> <th>性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・フロートガラス</td> <td>・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス</td> <td>・Ⅰ類 ・Ⅲ類</td> </tr> <tr> <td>・型板ガラス</td> <td>・型板強化ガラス</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・熱線吸収板ガラス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>性能</th> <th>色調</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・熱線吸収フロート板ガラス</td> <td rowspan="2">・1種 ・2種</td> <td rowspan="2">・ブルー ・グレー ・ブロンズ</td> </tr> <tr> <td>・熱線吸収網入磨き板ガラス</td> </tr> </tbody> </table> <p>・複層ガラス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>断熱性</th> <th>日射熱遮へい性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・断熱複層ガラス</td> <td>・1種</td> <td>U1</td> </tr> <tr> <td>・2種</td> <td>U2</td> </tr> <tr> <td>・3種</td> <td>U-3-1 ・U-3-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・日射熱遮へい複層ガラス</td> <td>・4種</td> <td>E4</td> </tr> <tr> <td>・5種</td> <td>E5</td> </tr> </tbody> </table> <p>・熱線反射ガラス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種</th> <th>日射熱遮へい性</th> <th>耐久性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・熱線反射ガラス 色調(・ブルー ・グレー)</td> <td>・1種</td> <td>A種</td> </tr> <tr> <td>・2種</td> <td>・A種 ・B種</td> </tr> <tr> <td>・高性能熱線反射ガラス 色調(・ブロンズ ・シルバー)</td> <td>・3種</td> <td>B種</td> </tr> </tbody> </table> <p>反射被覆面 ・内面 ・外面 映像調整 ・行わない ・行う</p> <p>・倍強度ガラス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材料板ガラスによる種類の名称</th> <th>色調</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・フロート倍強度ガラス</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・熱線吸収倍強度ガラス</td> <td>・ブルー ・グレー ・ブロンズ</td> </tr> </tbody> </table> <p>ガラスの留め材及び溝の大きさ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>ガラスの留め材</th> <th>ガラスの溝の大きさ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>・シーリング材 ・ガasket ・グレイズングチャンネル形 ・</td> <td>※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>鋼製</td> <td>・シーリング材 ・</td> <td>※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>・シーリング材 ・</td> <td>※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・</td> </tr> </tbody> </table>	品種	構成種類	性能	・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類	・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類	材料板ガラスによる種類	構成種類	性能	・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ・Ⅲ類	・型板ガラス	・型板強化ガラス		品種	性能	色調	・熱線吸収フロート板ガラス	・1種 ・2種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ	・熱線吸収網入磨き板ガラス	品種	断熱性	日射熱遮へい性	・断熱複層ガラス	・1種	U1	・2種	U2	・3種	U-3-1 ・U-3-2	・日射熱遮へい複層ガラス	・4種	E4	・5種	E5	品種	日射熱遮へい性	耐久性	・熱線反射ガラス 色調(・ブルー ・グレー)	・1種	A種	・2種	・A種 ・B種	・高性能熱線反射ガラス 色調(・ブロンズ ・シルバー)	・3種	B種	材料板ガラスによる種類の名称	色調	・フロート倍強度ガラス	-	・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー ・グレー ・ブロンズ	建具の種類	ガラスの留め材	ガラスの溝の大きさ(mm)	アルミニウム製	・シーリング材 ・ガasket ・グレイズングチャンネル形 ・	※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・	鋼製	・シーリング材 ・	※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・	ステンレス製	・シーリング材 ・	※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・
品種	構成種類	性能																																																																				
・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類																																																																				
・網入磨き合わせガラス	・網入磨き、フロート板合わせガラス ・網入磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類・Ⅱ-2類 ・Ⅲ類																																																																				
材料板ガラスによる種類	構成種類	性能																																																																				
・フロートガラス	・フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ・Ⅲ類																																																																				
・型板ガラス	・型板強化ガラス																																																																					
品種	性能	色調																																																																				
・熱線吸収フロート板ガラス	・1種 ・2種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ																																																																				
・熱線吸収網入磨き板ガラス																																																																						
品種	断熱性	日射熱遮へい性																																																																				
・断熱複層ガラス	・1種	U1																																																																				
	・2種	U2																																																																				
	・3種	U-3-1 ・U-3-2																																																																				
・日射熱遮へい複層ガラス	・4種	E4																																																																				
	・5種	E5																																																																				
品種	日射熱遮へい性	耐久性																																																																				
・熱線反射ガラス 色調(・ブルー ・グレー)	・1種	A種																																																																				
	・2種	・A種 ・B種																																																																				
・高性能熱線反射ガラス 色調(・ブロンズ ・シルバー)	・3種	B種																																																																				
材料板ガラスによる種類の名称	色調																																																																					
・フロート倍強度ガラス	-																																																																					
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー ・グレー ・ブロンズ																																																																					
建具の種類	ガラスの留め材	ガラスの溝の大きさ(mm)																																																																				
アルミニウム製	・シーリング材 ・ガasket ・グレイズングチャンネル形 ・	※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・																																																																				
鋼製	・シーリング材 ・	※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・																																																																				
ステンレス製	・シーリング材 ・	※標準仕様書表 16.14.1による ・図示 ・																																																																				

章	項目	特記事項								
18 建具工事	19 ガラスブロック	〈16.14.5〉								
		表面形状	呼び寸法	厚さ	色調		目地幅 (mm)		伸縮調整目地 (mm)	防火性能
		・正方形	・125×125	80	ｸﾘｱ	乳白	平積み ※8~15 ・15~25 ・	曲面積み 外側 ※15以下 ・ 内側 ※6以上 ・	※6m以下ごと に幅10~25 ・図示 ・	※無し ・有り
			・160×160	・95 ・125	・	・				
			・200×200	・95 ・125	・	・				
			・320×320	95	・	・				
		・長方形	・250×125	80	・	・				
			・320×160	95	・	・				
		曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。								
		壁用金属枠及び補強材 ・設ける (形状 ※図示 ) ・設けない								
カ骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) ・ 寸法 ※径 5.5mm ・ 形状 ※はしご形状複筋及び単筋 ・										
化粧目地モルタルの色 ( )										
金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ※図示 ・ 形状 ※図示 ・										
工法 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法										
目地部のカ骨の補強方法 ※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示 ・										

章	項目	特記事項																																																																	
19 塗装工事	1 材料	(18.1.3) 屋内で使用する塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 ・ 次の箇所を除き防火材料とする。(箇所： )																																																																	
	2 素地ごしらえ	(18.2.2~7) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">下地面等</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">木部</td> <td>不透明塗料塗りの場合</td> <td>※A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>透明塗りの場合</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>※C種 ・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td></td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>珪酸塩面及び石膏面</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面</td> <td></td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">せっこうボード面及びその他 ボード面</td> <td>目地：継目処理工法</td> <td>※A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>目地：継目処理工法以外</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> </tbody> </table>	下地面等		種別	木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種	透明塗りの場合	※B種 ・ A種	鉄鋼面		※C種 ・ A種 ・ B種	亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種	珪酸塩面及び石膏面		※B種 ・ A種	コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面		※B種 ・ A種	せっこうボード面及びその他 ボード面	目地：継目処理工法	※A種 ・ B種	目地：継目処理工法以外	※B種 ・ A種																																								
	下地面等		種別																																																																
	木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・ B種																																																																
透明塗りの場合		※B種 ・ A種																																																																	
鉄鋼面		※C種 ・ A種 ・ B種																																																																	
亜鉛めっき鋼面		・ A種 ・ B種																																																																	
珪酸塩面及び石膏面		※B種 ・ A種																																																																	
コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面		※B種 ・ A種																																																																	
せっこうボード面及びその他 ボード面	目地：継目処理工法	※A種 ・ B種																																																																	
	目地：継目処理工法以外	※B種 ・ A種																																																																	
3 錆止め塗料塗り	(18.3.2, 3) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">下地面等</th> <th>工程の種別</th> <th>塗料の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">鉄鋼面</td> <td>見え掛り部分</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td rowspan="2">/</td> </tr> <tr> <td>見え隠れ部分</td> <td>※B種 ・ A種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">亜鉛めっき鋼面</td> <td>鋼製建具</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>・ A種 ・ B種</td> </tr> <tr> <td>鋼製建具以外</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>・ C種</td> </tr> </tbody> </table>	下地面等		工程の種別	塗料の種類	鉄鋼面	見え掛り部分	※A種 ・ B種	/	見え隠れ部分	※B種 ・ A種	亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	鋼製建具以外	※B種 ・ A種	・ C種																																																	
下地面等		工程の種別	塗料の種類																																																																
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種 ・ B種	/																																																																
	見え隠れ部分	※B種 ・ A種																																																																	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種 ・ B種	・ A種 ・ B種																																																																
	鋼製建具以外	※B種 ・ A種	・ C種																																																																
4 塗装	(18.4.1~18.14.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">塗装</th> <th>種別</th> <th>塗料の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)</td> <td>木部屋外</td> <td>※A種 ・ B種</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td>木部屋内</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td>-</td> <td>※1種 ・ 2種</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ クリアッカー塗り (CL)</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">◎耐候性塗料塗り (DP)</td> <td>鉄鋼面</td> <td>-</td> <td>上塗り等級( )級</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td>-</td> <td>上塗り等級( )級</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面及び押出成形セメント板面</td> <td>※A種 ・ B種 ・ C種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)</td> <td>コンクリート面等</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>屋内の鉄鋼面</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ ウルタン樹脂ワニス塗り (UC)</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ ラッカーエマル塗り (LE)</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ オイルステイン塗り (OS)</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・ 木材保護塗料塗り (WP)</td> <td>※B種 ・ A種</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>高日射反射率塗料の適用 ・ 適用する ・ 適用しない 適用箇所 ※屋上、屋根面の金属面 ・</p>	塗装		種別	塗料の種類	・ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	※A種 ・ B種	※1種 ・ 2種	木部屋内	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種	鉄鋼面	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種	亜鉛めっき鋼面	-	※1種 ・ 2種	・ クリアッカー塗り (CL)		※B種 ・ A種	-	・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)		※B種 ・ A種	-	◎耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	-	上塗り等級( )級	亜鉛めっき鋼面	-	上塗り等級( )級	コンクリート面及び押出成形セメント板面	※A種 ・ B種 ・ C種	-	・ つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面等	※B種 ・ A種	-	屋内の鉄鋼面	※B種 ・ A種	-	・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)		※B種 ・ A種	-	・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)		※B種 ・ A種	-	・ ウルタン樹脂ワニス塗り (UC)		※B種 ・ A種	-	・ ラッカーエマル塗り (LE)		※B種 ・ A種	-	・ オイルステイン塗り (OS)		-	-	・ 木材保護塗料塗り (WP)		※B種 ・ A種	-
塗装		種別	塗料の種類																																																																
・ 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	※A種 ・ B種	※1種 ・ 2種																																																																
	木部屋内	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種																																																																
	鉄鋼面	※B種 ・ A種	※1種 ・ 2種																																																																
	亜鉛めっき鋼面	-	※1種 ・ 2種																																																																
・ クリアッカー塗り (CL)		※B種 ・ A種	-																																																																
・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)		※B種 ・ A種	-																																																																
◎耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	-	上塗り等級( )級																																																																
	亜鉛めっき鋼面	-	上塗り等級( )級																																																																
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	※A種 ・ B種 ・ C種	-																																																																
・ つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面等	※B種 ・ A種	-																																																																
	屋内の鉄鋼面	※B種 ・ A種	-																																																																
・ 合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP)		※B種 ・ A種	-																																																																
・ 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)		※B種 ・ A種	-																																																																
・ ウルタン樹脂ワニス塗り (UC)		※B種 ・ A種	-																																																																
・ ラッカーエマル塗り (LE)		※B種 ・ A種	-																																																																
・ オイルステイン塗り (OS)		-	-																																																																
・ 木材保護塗料塗り (WP)		※B種 ・ A種	-																																																																

章	項目	特記事項																											
20 内装工事	1 接着剤	(19.2.2) 接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 接着剤は可塑剤(難揮発性の可塑剤を除く)が添付されていないものとする。 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別 ・ 図示																											
	2 ビニル床シート	(19.2.2, 3) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>JIS 記号</th> <th>施工箇所</th> <th>色柄</th> <th>特殊機能</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※発泡層のないもの</td> <td>※FS(複層ビニル床シート)</td> <td></td> <td>※無地 ・ マーブル柄</td> <td>・ 帯電防止 ・ 耐動荷重性</td> <td>※2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 発泡層のあるもの</td> <td></td> <td></td> <td>・ 無地 ・ 柄物</td> <td>・ 防滑性 ・ 耐薬品性</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 工法 ※熱溶接工法 ・ 突付け (施工箇所: ) 特殊機能 帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2 以上~3.2 未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) $1 \times 10^7 \sim 1 \times 10^{10} \Omega$ 程度	種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ (mm)	備考	※発泡層のないもの	※FS(複層ビニル床シート)		※無地 ・ マーブル柄	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重性	※2.0		・ 発泡層のあるもの			・ 無地 ・ 柄物	・ 防滑性 ・ 耐薬品性								
	種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ (mm)	備考																						
	※発泡層のないもの	※FS(複層ビニル床シート)		※無地 ・ マーブル柄	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重性	※2.0																							
	・ 発泡層のあるもの			・ 無地 ・ 柄物	・ 防滑性 ・ 耐薬品性																								
3 ビニル床タイル	(19.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>JIS の記号</th> <th>施工箇所</th> <th>色柄</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>特殊機能</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎FT (複層ビニル床タイル)</td> <td>待合 コーナー</td> <td>・ 無地 ◎柄物</td> <td>・ 300×300 ◎450×450</td> <td>・ 帯電防止 ◎防滑性</td> <td>※2.0 ・ 2.5 ◎3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ KT (コンポジションビニル床タイル)</td> <td></td> <td>・ 無地 ・ 柄物</td> <td>・ 300×300 ・ 450×450</td> <td>・ 帯電防止 ・ 防滑性</td> <td>・ 2.0 ・ 3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ FOA (置敷きビニル床タイル)</td> <td></td> <td>・ 無地 ・ 柄物</td> <td>・ 500×500</td> <td>・ 帯電防止 ・ 防滑性</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 特殊機能 帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1.2 以上~3.2 未満 又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) $1 \times 10^7 \sim 1 \times 10^{10} \Omega$ 程度	JIS の記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	特殊機能	厚さ (mm)	備考	◎FT (複層ビニル床タイル)	待合 コーナー	・ 無地 ◎柄物	・ 300×300 ◎450×450	・ 帯電防止 ◎防滑性	※2.0 ・ 2.5 ◎3.0		・ KT (コンポジションビニル床タイル)		・ 無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450	・ 帯電防止 ・ 防滑性	・ 2.0 ・ 3.0		・ FOA (置敷きビニル床タイル)		・ 無地 ・ 柄物	・ 500×500	・ 帯電防止 ・ 防滑性	・	
JIS の記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	特殊機能	厚さ (mm)	備考																							
◎FT (複層ビニル床タイル)	待合 コーナー	・ 無地 ◎柄物	・ 300×300 ◎450×450	・ 帯電防止 ◎防滑性	※2.0 ・ 2.5 ◎3.0																								
・ KT (コンポジションビニル床タイル)		・ 無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450	・ 帯電防止 ・ 防滑性	・ 2.0 ・ 3.0																								
・ FOA (置敷きビニル床タイル)		・ 無地 ・ 柄物	・ 500×500	・ 帯電防止 ・ 防滑性	・																								
4 ビニル幅木	(19.2.2) 材質 ・ 軟質 ・ 硬質 高さ (mm) ※60 ・ 75 厚さ (mm) ※1.5 以上																												
5 ゴム床タイル	(19.2.2) 色柄 ( ) 厚さ (mm) ・ 3.0 ・ 4.5 ・ 6.0 ・ 9.0 寸法 (mm) ( )																												



章	項目	特記事項																																																																
20 内装工事	6 カーペット敷き	<p>・織じゅうたん (19.3.3, 4) (表19.3.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>パイル形状</th> <th>織り方</th> <th>色柄等</th> <th>帯電性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・A種</td> <td>・カットパイル</td> <td>・ウルトンカーペット</td> <td>・無地</td> <td>・適用する (性能: ※人体帯電圧 3kv 以下 )</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・B種</td> <td>・ループパイル</td> <td>・ダブルフェースカーペット</td> <td>・柄物 (標準品)</td> <td>・適用しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>・カット, ループ 併用</td> <td>・アキスミスターカーペット</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>下敷き材            ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm            ・タフテッドカーペット</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パイル形状</th> <th>パイル長さ(mm)</th> <th>工法</th> <th>帯電性</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・カットパイル</td> <td>※5~7</td> <td rowspan="4">※全面接着工法 ・グリッパー-工法</td> <td rowspan="4">・適用する (性能: ※人体帯電圧 3kv 以下 ) ・適用しない</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>・ループパイル</td> <td>※4~6</td> </tr> <tr> <td>・レベルループパイル</td> <td>.4</td> </tr> <tr> <td>・カット, ループ 併用</td> <td>.</td> </tr> </tbody> </table> <p>下敷き材 (グリッパー-工法の場合)            ※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm            ・ニードルパンチカーペット            厚さ(mm) ( ) 帯電性 ・適用する (性能: ※人体帯電圧 3kv 以下 )            ・適用しない            備考 ( )            ・タイルカーペット</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>パイル形状</th> <th>種類</th> <th>施工箇所</th> <th>寸法</th> <th>総厚さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ループパイル</td> <td>※第一種 ・第二種</td> <td></td> <td>※500×500 .</td> <td>※6.5 .</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・カットパイル</td> <td>・第一種 ・第二種</td> <td></td> <td>※500×500 .</td> <td>※6.5 .</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・カット, ループ 併用</td> <td>・第一種 ・第二種</td> <td></td> <td>※500×500 .</td> <td>※6.5 .</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し            階段部分 ※模様流し ・市松敷き            見切り, 押え金物 ・適用する (材質, 形状等 ※図示 )            ・適用しない</p>	種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考	・A種	・カットパイル	・ウルトンカーペット	・無地	・適用する (性能: ※人体帯電圧 3kv 以下 )		・B種	・ループパイル	・ダブルフェースカーペット	・柄物 (標準品)	・適用しない		・C種	・カット, ループ 併用	・アキスミスターカーペット				パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考	・カットパイル	※5~7	※全面接着工法 ・グリッパー-工法	・適用する (性能: ※人体帯電圧 3kv 以下 ) ・適用しない		・ループパイル	※4~6	・レベルループパイル	.4	・カット, ループ 併用	.	パイル形状	種類	施工箇所	寸法	総厚さ(mm)	備考	※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 .	※6.5 .		・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 .	※6.5 .		・カット, ループ 併用	・第一種 ・第二種		※500×500 .	※6.5 .	
		種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考																																																											
		・A種	・カットパイル	・ウルトンカーペット	・無地	・適用する (性能: ※人体帯電圧 3kv 以下 )																																																												
		・B種	・ループパイル	・ダブルフェースカーペット	・柄物 (標準品)	・適用しない																																																												
		・C種	・カット, ループ 併用	・アキスミスターカーペット																																																														
		パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考																																																												
		・カットパイル	※5~7	※全面接着工法 ・グリッパー-工法	・適用する (性能: ※人体帯電圧 3kv 以下 ) ・適用しない																																																													
		・ループパイル	※4~6																																																															
		・レベルループパイル	.4																																																															
		・カット, ループ 併用	.																																																															
パイル形状	種類	施工箇所	寸法	総厚さ(mm)	備考																																																													
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 .	※6.5 .																																																														
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 .	※6.5 .																																																														
・カット, ループ 併用	・第一種 ・第二種		※500×500 .	※6.5 .																																																														
7 合成樹脂塗床	7 合成樹脂塗床	<p>(19.4.2, 3) (表19.4.4, 5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>工法</th> <th>仕上げの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床</td> <td></td> <td></td> <td>※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ</td> </tr> <tr> <td>・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床</td> <td></td> <td>・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂珪藻土工法</td> <td>・平滑仕上げ ・防滑仕上げ</td> </tr> <tr> <td>・薄膜型塗床材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970)</td> <td></td> <td></td> <td>工程 塗布量(kg/m<sup>2</sup>) . 表面仕上げ ・平滑 ・防滑 溶剤 ・水性色 ・溶剤系 ・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色</td> </tr> </tbody> </table> <p>塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外</p>	種別	施工箇所	工法	仕上げの種類	・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ	・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂珪藻土工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ	・薄膜型塗床材				・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970)			工程 塗布量(kg/m <sup>2</sup> ) . 表面仕上げ ・平滑 ・防滑 溶剤 ・水性色 ・溶剤系 ・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色																																												
		種別	施工箇所	工法	仕上げの種類																																																													
		・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ																																																													
		・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂珪藻土工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ																																																													
		・薄膜型塗床材																																																																
		・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970)			工程 塗布量(kg/m <sup>2</sup> ) . 表面仕上げ ・平滑 ・防滑 溶剤 ・水性色 ・溶剤系 ・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色																																																													

章	項目	特記事項							
20 内装工事	8 フローリング張り	(19.5.2~6) (表 19.5.1~5)							
	単層フローリング								
		種類	工法	樹種	厚さ (mm)	大きさ	仕上塗装	間伐材 等の 適用	
		・フローリング ボード 1等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釘留め工法 (根太張り)</li> <li>・釘留め工法 (直張り)</li> <li>・接着工法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※なら</li> <li>・</li> <li>※なら</li> <li>・</li> <li>※なら</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15</li> <li>・12以上</li> <li>・</li> <li>・12以上</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板幅 75 板長さ 500 以上</li> <li>板幅 75 板長さ 500 以上</li> <li>板幅 75 板長さ 500 以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装品</li> <li>・無塗装品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>	
		・フローリング ブロック 1等	接着工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>※なら</li> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>303×303</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装品</li> <li>・無塗装品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	
		・セラミック タイル 1等	接着工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装品</li> <li>・無塗装品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	
		複合フローリング							
		種類	工法	樹種	厚さ/ 大きさ (mm)	種別	防湿処理	塗装仕上 げ	間伐材 等の 適用
		・天然木化 粒複合フ ローリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釘留め工法 (根太張り)</li> <li>・釘留め工法 (直張り)</li> <li>・接着工法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※なら</li> <li>・</li> <li>※なら</li> <li>・</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 0; left: 0; right: 0; bottom: 0; border-bottom: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></div> <div style="position: absolute; top: 0; left: 0; right: 0; bottom: 0; border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A種</li> <li>・B種</li> <li>※C種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する</li> <li>・適用しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塗装品</li> <li>・無塗装品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板厚</li> <li>・8以上</li> <li>板幅</li> <li>・75以上</li> <li>板長さ</li> <li>900以上</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 0; left: 0; right: 0; bottom: 0; border-bottom: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></div> <div style="position: absolute; top: 0; left: 0; right: 0; bottom: 0; border-top: 1px solid black; border-right: 1px solid black;"></div> </div>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
		フローリング及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外							
		接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート							
		現場塗装仕上げ ・行う (施工箇所)							
		<ul style="list-style-type: none"> <li>※ウレタン樹脂ワニス塗り</li> <li>・オイルステインの上、ワックス塗り</li> <li>・生地そのままワックス塗り</li> <li>・行わない</li> </ul>							
9	畳敷き	(19.6.2) (表 19.6.1)							
		種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種(畳床： ・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)							
		下地の種類							
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準仕様書表 12.6.1 による床組</li> <li>・ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン)</li> <li>・</li> </ul>							
		畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ない材料を使用したものとする。							

章	項目	特記事項																																																																																				
20 内装工事	10 せっこうボード その他ボード張り	(19.7.2, 3) (表 19.7.1)																																																																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>JIS 記号</th> <th>厚さ(mm), 規格等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・硬質木毛セメント板</td> <td>HW</td> <td>・15 ・20 ・25 ・</td> </tr> <tr> <td>・中質木毛セメント板</td> <td>MW</td> <td>・15 ・20 ・25 ・</td> </tr> <tr> <td>・普通木毛セメント板</td> <td>NW</td> <td>・15 ・20 ・25 ・</td> </tr> <tr> <td>・硬質木片セメント板</td> <td>HF</td> <td>・12 ・15 ・18 ・21 ・</td> </tr> <tr> <td>・普通木片セメント板</td> <td>NF</td> <td>・30 ・</td> </tr> <tr> <td>・けい酸カルシウム板</td> <td>0.8FK 1.0FK</td> <td>タイプ 2 (無石綿) ・6 ・8</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール化粧吸音板</td> <td>DR</td> <td>・フラットタイプ (・9 (不燃) ・12 ・ ) ・凹凸タイプ (・12 (不燃) ・15 (不燃) ・19 (不燃) )</td> </tr> <tr> <td>・ロックウール吸音ボード 1号</td> <td>RW-B</td> <td>・25 ・</td> </tr> <tr> <td>・グラスウール吸音ボード 32K</td> <td>GW-B</td> <td>・25 (ガラスクロス包) ・</td> </tr> <tr> <td>◎せっこうボード</td> <td>GB-R</td> <td>◎9.5 ※12.5(不燃) ・15(不燃)</td> </tr> <tr> <td>・不燃積層せっこうボード</td> <td>GB-NC</td> <td>9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラパチン模様)</td> </tr> <tr> <td>・シジウムせっこうボード</td> <td>GB-S</td> <td>12.5(※不燃 ・準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・強化せっこうボード</td> <td>GB-F</td> <td>・12.5(不燃) ・15(不燃)</td> </tr> <tr> <td>・せっこうラスボード</td> <td>GB-L</td> <td>9.5</td> </tr> <tr> <td>・化粧せっこうボード (木目)</td> <td>GB-D</td> <td>12.5(不燃)幅 440mm 程度 模様(※柀目 ・板目) 専用下地材有り</td> </tr> <tr> <td>・化粧せっこうボード (トラパチン模様)</td> <td>GB-D</td> <td>9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td>・普通合板</td> <td></td> <td>表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ツラシ程度 ・ ) 不透明塗料塗り (※しな程度 ・ ) 板面の品質( ) 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理 ・</td> </tr> <tr> <td>・天然木化粧合板</td> <td></td> <td>化粧板の樹種名( ) 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理</td> </tr> <tr> <td>・特殊加工化粧合板</td> <td></td> <td>化粧加工の方法(・オーバーレイ・プリント・塗装) 表面性能( )タイプ 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理</td> </tr> <tr> <td>・メラミン樹脂化粧板</td> <td></td> <td>・JIS K 6903 による (※1.2 ・ )</td> </tr> <tr> <td>・ポリエステル樹脂化粧板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ミディアム密度ファイバーボード</td> <td>MDF</td> <td>・3 ・7 ・9 ・12 ・</td> </tr> <tr> <td>・単板張りパーティクルボード</td> <td></td> <td>・無研磨板 VN ・研磨板 VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・</td> </tr> <tr> <td>・化粧パーティクルボード</td> <td></td> <td>・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃) ・</td> </tr> <tr> <td>・ハードボード (素地)</td> <td>HB</td> <td>・未研磨板(・スタンダード ・テンパード) RN ・研磨板 (・スタンダード ・テンパード) RS</td> </tr> <tr> <td>・ハードボード (化粧)</td> <td>HB</td> <td>・内装用 DI ・外装用 DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7</td> </tr> <tr> <td>・インシュレーションボード</td> <td>IB</td> <td>A 級(・天井仕上げ ・内装仕上げ ・ ) ・9 ・12 ・15 ・18</td> </tr> </tbody> </table>	種類	JIS 記号	厚さ(mm), 規格等	・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・	・中質木毛セメント板	MW	・15 ・20 ・25 ・	・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・	・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・	・普通木片セメント板	NF	・30 ・	・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ・6 ・8	・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ (・9 (不燃) ・12 ・ ) ・凹凸タイプ (・12 (不燃) ・15 (不燃) ・19 (不燃) )	・ロックウール吸音ボード 1号	RW-B	・25 ・	・グラスウール吸音ボード 32K	GW-B	・25 (ガラスクロス包) ・	◎せっこうボード	GB-R	◎9.5 ※12.5(不燃) ・15(不燃)	・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラパチン模様)	・シジウムせっこうボード	GB-S	12.5(※不燃 ・準不燃)	・強化せっこうボード	GB-F	・12.5(不燃) ・15(不燃)	・せっこうラスボード	GB-L	9.5	・化粧せっこうボード (木目)	GB-D	12.5(不燃)幅 440mm 程度 模様(※柀目 ・板目) 専用下地材有り	・化粧せっこうボード (トラパチン模様)	GB-D	9.5(準不燃)	・普通合板		表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ツラシ程度 ・ ) 不透明塗料塗り (※しな程度 ・ ) 板面の品質( ) 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理 ・	・天然木化粧合板		化粧板の樹種名( ) 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理	・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法(・オーバーレイ・プリント・塗装) 表面性能( )タイプ 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理	・メラミン樹脂化粧板		・JIS K 6903 による (※1.2 ・ )	・ポリエステル樹脂化粧板			・ミディアム密度ファイバーボード	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・	・単板張りパーティクルボード		・無研磨板 VN ・研磨板 VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・	・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃) ・	・ハードボード (素地)	HB	・未研磨板(・スタンダード ・テンパード) RN ・研磨板 (・スタンダード ・テンパード) RS	・ハードボード (化粧)	HB	・内装用 DI ・外装用 DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7	・インシュレーションボード	IB	A 級(・天井仕上げ ・内装仕上げ ・ ) ・9 ・12 ・15 ・18
		種類	JIS 記号	厚さ(mm), 規格等																																																																																		
		・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・																																																																																		
		・中質木毛セメント板	MW	・15 ・20 ・25 ・																																																																																		
		・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・																																																																																		
		・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・																																																																																		
		・普通木片セメント板	NF	・30 ・																																																																																		
		・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ・6 ・8																																																																																		
		・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ (・9 (不燃) ・12 ・ ) ・凹凸タイプ (・12 (不燃) ・15 (不燃) ・19 (不燃) )																																																																																		
		・ロックウール吸音ボード 1号	RW-B	・25 ・																																																																																		
		・グラスウール吸音ボード 32K	GW-B	・25 (ガラスクロス包) ・																																																																																		
		◎せっこうボード	GB-R	◎9.5 ※12.5(不燃) ・15(不燃)																																																																																		
		・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃) ・化粧無(下地張り用) ・化粧有(トラパチン模様)																																																																																		
		・シジウムせっこうボード	GB-S	12.5(※不燃 ・準不燃)																																																																																		
		・強化せっこうボード	GB-F	・12.5(不燃) ・15(不燃)																																																																																		
		・せっこうラスボード	GB-L	9.5																																																																																		
		・化粧せっこうボード (木目)	GB-D	12.5(不燃)幅 440mm 程度 模様(※柀目 ・板目) 専用下地材有り																																																																																		
		・化粧せっこうボード (トラパチン模様)	GB-D	9.5(準不燃)																																																																																		
		・普通合板		表面の樹種 生地, 透明塗料塗り (※ツラシ程度 ・ ) 不透明塗料塗り (※しな程度 ・ ) 板面の品質( ) 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理 ・																																																																																		
・天然木化粧合板		化粧板の樹種名( ) 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理																																																																																				
・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法(・オーバーレイ・プリント・塗装) 表面性能( )タイプ 接着の程度(・1 類 ・2 類) 厚さ(mm)( ) ・防虫処理																																																																																				
・メラミン樹脂化粧板		・JIS K 6903 による (※1.2 ・ )																																																																																				
・ポリエステル樹脂化粧板																																																																																						
・ミディアム密度ファイバーボード	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・																																																																																				
・単板張りパーティクルボード		・無研磨板 VN ・研磨板 VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・																																																																																				
・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃) ・																																																																																				
・ハードボード (素地)	HB	・未研磨板(・スタンダード ・テンパード) RN ・研磨板 (・スタンダード ・テンパード) RS																																																																																				
・ハードボード (化粧)	HB	・内装用 DI ・外装用 DE ・2.5 ・3.5 ・5 ・7																																																																																				
・インシュレーションボード	IB	A 級(・天井仕上げ ・内装仕上げ ・ ) ・9 ・12 ・15 ・18																																																																																				
せっこうボード等の下地は図示による。																																																																																						

章	項目	特記事項																																												
20 内装工事	10 せっこうボード その他ボード張り	遮音シール材 ・適用する（・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド） ・適用しない 合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ 合板類の張付け ※B種 ・A種 せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による ・																																												
	11 壁紙張り	ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ (19.8.2, 3) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="5">壁紙の種類</th> <th rowspan="2">防火性能</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>紙</th> <th>繊維</th> <th>プラスチック</th> <th>無機質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>待合コーナー</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>◎</td> <td>※不燃 ◎準不燃</td> <td>ビニルクロス</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃 ・準不燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃 ・準不燃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>※不燃 ・準不燃</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> モルタル・プラスター面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 コンクリート・ALC面の素地ごしらえ ※B種 ・A種 せっこうボード面の素地ごしらえ ※B種 ・A種	施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	待合コーナー	・	・	・	・	◎	※不燃 ◎準不燃	ビニルクロス		・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃			・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃			・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃
施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考																																							
	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他																																									
待合コーナー	・	・	・	・	◎	※不燃 ◎準不燃	ビニルクロス																																							
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃																																								
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃																																								
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃																																								

章	項目	特記事項																																																			
21 断熱・防露 ユニット及びその他の工事	1 断熱材等材料	<p style="text-align: right;">〈19.9.2~4〉</p> <p>ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※規制対象外</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・断熱材</li> <li>施工箇所 ※図示</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">断熱材の種類</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">規格番号</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">厚さ又は 使用量</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">分類</th> <th style="text-align: center;">材料名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">◎フェルト状断熱材</td> <td>◎グラスウール</td> <td>・ JIS A 9521</td> <td>t=100 16kg/m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td>・ JIS A 9504 ・ JIS A 9521</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ボード状断熱材</td> <td>・ JIS A 9521</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="vertical-align: top;">・ボード状断熱材</td> <td>・グラスウール</td> <td>・ JIS A 9521</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td>・ JIS A 9504 ・ JIS A 9521</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビーズ法ポリスチレンフォーム</td> <td rowspan="7" style="vertical-align: middle;">・ JIS A 9511 ・ JIS A 9521</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・押出法ポリスチレンフォーム</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・硬質ウレタンフォームA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ポリエチレンフォーム</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・フェノールフォーム</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・インシュレーションファイバー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ばら状断熱材</td> <td>・ JIS A 9523</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;">・ばら状断熱材</td> <td>・グラスウール</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">・ JIS A 9523</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ロックウール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・セルローズファイバー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・現場発泡断熱材</td> <td>・吹付硬質ウレタンフォームA種1 (難燃性を有するもの)</td> <td>・ JIS A 9526</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・防湿材</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(b)(i)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(b)(ii)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(b)(iii)</li> </ul> <p>厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>施工箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示</li> </ul> <p>・気密材</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(c)(i)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(c)(ii)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(c)(iii)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(c)(iv)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(c)(v)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(c)(vi)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(c)(vii)</li> </ul> <p>厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>施工箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示</li> </ul> <p>・防風材</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※木造標準仕様書 19.1.2(d)(i)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(d)(ii)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(d)(iii)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(d)(iv)</li> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.2(d)(v)</li> </ul> <p>厚さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>施工箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示</li> </ul> <p>断熱材の施工 <span style="float: right;">〈19.1.4〉</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 充填断熱工法</li> <li>・ 外張断熱工法</li> <li>防蟻処理</li> <li>・ 行う</li> </ul> <p>◎図示</p> <p>防湿層の施工</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省略する</li> </ul> <p>床下及び小屋裏等の点検口まわり ( )</p> <p>コンセント及びスイッチボックスまわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造標準仕様書 19.1.4(d)(10)(ii)①</li> </ul>	断熱材の種類		規格番号	厚さ又は 使用量	分類	材料名	◎フェルト状断熱材	◎グラスウール	・ JIS A 9521	t=100 16kg/m <sup>3</sup>	・ロックウール	・ JIS A 9504 ・ JIS A 9521		・ボード状断熱材	・ JIS A 9521		・ボード状断熱材	・グラスウール	・ JIS A 9521		・ロックウール	・ JIS A 9504 ・ JIS A 9521		・ビーズ法ポリスチレンフォーム	・ JIS A 9511 ・ JIS A 9521		・押出法ポリスチレンフォーム		・硬質ウレタンフォームA種		・ポリエチレンフォーム		・フェノールフォーム		・インシュレーションファイバー		・ばら状断熱材	・ JIS A 9523		・ばら状断熱材	・グラスウール	・ JIS A 9523		・ロックウール		・セルローズファイバー		・現場発泡断熱材	・吹付硬質ウレタンフォームA種1 (難燃性を有するもの)	・ JIS A 9526	
	断熱材の種類		規格番号	厚さ又は 使用量																																																	
分類	材料名																																																				
◎フェルト状断熱材	◎グラスウール	・ JIS A 9521	t=100 16kg/m <sup>3</sup>																																																		
	・ロックウール	・ JIS A 9504 ・ JIS A 9521																																																			
	・ボード状断熱材	・ JIS A 9521																																																			
・ボード状断熱材	・グラスウール	・ JIS A 9521																																																			
	・ロックウール	・ JIS A 9504 ・ JIS A 9521																																																			
	・ビーズ法ポリスチレンフォーム	・ JIS A 9511 ・ JIS A 9521																																																			
	・押出法ポリスチレンフォーム																																																				
	・硬質ウレタンフォームA種																																																				
	・ポリエチレンフォーム																																																				
	・フェノールフォーム																																																				
・インシュレーションファイバー																																																					
・ばら状断熱材	・ JIS A 9523																																																				
・ばら状断熱材	・グラスウール	・ JIS A 9523																																																			
	・ロックウール																																																				
	・セルローズファイバー																																																				
・現場発泡断熱材	・吹付硬質ウレタンフォームA種1 (難燃性を有するもの)	・ JIS A 9526																																																			



章	項目	特記事項																																
21 断熱・防露 ユニット及び その他の工事	2 フリーアクセス フロア	(20.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>構法</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>高さ (mm)</th> <th>耐震性能</th> <th>所定荷重 (N)</th> <th>表面仕上げ材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>・置敷式 ・支柱調整式</td> <td>・500×500 ・</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3000 ・5000</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルベット</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・置敷式 ・支柱調整式</td> <td>・500×500 ・</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3000 ・5000</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルベット</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・置敷式 ・支柱調整式</td> <td>・500×500 ・</td> <td></td> <td>・1.0G ・0.6G</td> <td>・3000 ・5000</td> <td>・帯電防止床タイル ・タイルベット</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>寸法精度  ※標準仕様書 20.2.2 (b) (5) (i)～(iii)による  厚さ ±0.5mm  平坦度 パネル周辺部 1.0mm 以下  図心と各頂点を結ぶ線上部 2.0mm 以下  表面仕上材の品質、性能は、標準仕様書 19 章による。  構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 (仕上げ: )  スロープ及びポーター ※製造所の仕様による ・図示</p> <p>配線用取り出しパネル  フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ・20～30 パーセント  配線取り出し開口 ・パネル1枚につき、40mm×80mm 程度の開口1ヶ所以上  ・図示</p> <p>空調用吹き出し (吸い込み) パネル ・なし ・あり (形式、施工箇所: 図示)</p>	施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重 (N)	表面仕上げ材	備考		・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルベット			・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルベット			・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルベット	
	施工箇所	構法	寸法 (mm)	高さ (mm)	耐震性能	所定荷重 (N)	表面仕上げ材	備考																										
		・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルベット																											
		・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルベット																											
		・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	・帯電防止床タイル ・タイルベット																											
3 可動間仕切	(20.2.3) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造形式</th> <th colspan="2">構成基材の種類</th> <th rowspan="2">総厚さ (mm)</th> <th colspan="3">表面仕上材</th> <th rowspan="2">遮音性 (db/500Hz)</th> <th rowspan="2">防火性能</th> </tr> <tr> <th>スタッド</th> <th>パネル</th> <th>材質</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面仕上げ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スタッド式 (内蔵) ・スタッド式 (露出) ・パネル式 ・スタッドパネル式</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・鋼板 ・</td> <td>・0.6 ・0.8</td> <td>※メラミン樹脂 焼付又は アクリル樹脂 焼付 ・壁紙張り</td> <td>・0 ・12 ・20 ・28 ・36</td> <td>・不燃</td> </tr> </tbody> </table> <p>パネル内に取付ける建具 ・あり (※図示) ・なし  表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書 19 章による  パネル材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p>	構造形式	構成基材の種類		総厚さ (mm)	表面仕上材			遮音性 (db/500Hz)	防火性能	スタッド	パネル	材質	厚さ (mm)	表面仕上げ	・スタッド式 (内蔵) ・スタッド式 (露出) ・パネル式 ・スタッドパネル式				・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	※メラミン樹脂 焼付又は アクリル樹脂 焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃										
構造形式	構成基材の種類		総厚さ (mm)	表面仕上材			遮音性 (db/500Hz)	防火性能																										
	スタッド	パネル		材質	厚さ (mm)	表面仕上げ																												
・スタッド式 (内蔵) ・スタッド式 (露出) ・パネル式 ・スタッドパネル式				・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	※メラミン樹脂 焼付又は アクリル樹脂 焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃																										
4 移動間仕切	(20.2.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造形式</th> <th rowspan="2">操作方法</th> <th rowspan="2">圧接装置の操作方法</th> <th rowspan="2">総厚さ (mm)</th> <th colspan="2">表面仕上材</th> <th rowspan="2">遮音性 (db/500Hz)</th> </tr> <tr> <th>材質</th> <th>パネル表面仕上げ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・平行方向移動式 ・二方向移動式</td> <td>・手動式 ・電動式 ・部分電動式</td> <td>・プッシュ式 ・ハンドル式 ・</td> <td></td> <td>・鋼板 ・</td> <td>・焼付塗装 ・壁紙張り ・</td> <td>・36 未満 ・36 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書 19 章による  遮音性能は、JIS A 6512 に準拠し、中心周波数 500Hz の音についての透過損失とするハンガーレールの取付け下地の補強  ※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。  ・図示</p>	構造形式	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)	表面仕上材		遮音性 (db/500Hz)	材質	パネル表面仕上げ	・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36 未満 ・36 以上																	
構造形式	操作方法					圧接装置の操作方法	総厚さ (mm)		表面仕上材		遮音性 (db/500Hz)																							
		材質	パネル表面仕上げ																															
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36 未満 ・36 以上																												
5 トイレブース	(20.2.5) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">表面材の種類</th> <th>脚部</th> <th colspan="2">ドアエッジ</th> </tr> <tr> <th>形状</th> <th>形状</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板</td> <td>※幅木タイプ ・</td> <td>・標準 ・R</td> <td>・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材</td> </tr> </tbody> </table> <p>パネル材のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外</p>	表面材の種類	脚部	ドアエッジ		形状	形状	材質	・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	・標準 ・R	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材																						
表面材の種類	脚部		ドアエッジ																															
	形状	形状	材質																															
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	・標準 ・R	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材																															

章	項目	特記事項																																															
21 断熱・防露 ユニット及びその他の工事	6 視覚障害者用床タイル	(11.2.2) (19.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">屋内</td> <td>・塩化ビニル製</td> <td>・300×300</td> <td>・7.0</td> </tr> <tr> <td>・磁器質タイル ・せっ器質タイル</td> <td>・300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋外</td> <td>・レジンコンクリート製 ・コンクリート製</td> <td>・300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・磁器質タイル ・せっ器質タイル</td> <td>・300×300</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・レジンコンクリート製 ・コンクリート製</td> <td>・300×300</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>ブロックパターンはJIS T 9251による</p>	施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	屋内	・塩化ビニル製	・300×300	・7.0	・磁器質タイル ・せっ器質タイル	・300×300	・	屋外	・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300	・	・磁器質タイル ・せっ器質タイル	・300×300	・		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300	・																									
	施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)																																													
	屋内	・塩化ビニル製	・300×300	・7.0																																													
		・磁器質タイル ・せっ器質タイル	・300×300	・																																													
	屋外	・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300	・																																													
		・磁器質タイル ・せっ器質タイル	・300×300	・																																													
		・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300	・																																													
	7 階段滑り止め	(20.2.6) <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>幅(mm)</th> <th>取付け工事</th> <th>端部フラットエンド</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ステンズ製(SUS304)ビニル付入り</td> <td>・約35</td> <td>※接着工法 ・埋込み工法</td> <td>・あり ・ビニル製 ・ステンズ製</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・なし -</td> </tr> </tbody> </table>	材種	幅(mm)	取付け工事	端部フラットエンド	・ステンズ製(SUS304)ビニル付入り	・約35	※接着工法 ・埋込み工法	・あり ・ビニル製 ・ステンズ製				・なし -																																			
	材種	幅(mm)	取付け工事	端部フラットエンド																																													
	・ステンズ製(SUS304)ビニル付入り	・約35	※接着工法 ・埋込み工法	・あり ・ビニル製 ・ステンズ製																																													
				・なし -																																													
8 手すり	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>表面仕上げ</th> <th>直径(mm)</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・集成材</td> <td>・クリアッカー</td> <td>・35 ・45</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ステンパイプ</td> <td>・HL</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・鋼製パイプ</td> <td>・EP-G ・SOP</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ビニル製ハンドル</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考	・集成材	・クリアッカー	・35 ・45			・ステンパイプ	・HL				・鋼製パイプ	・EP-G ・SOP				・ビニル製ハンドル																											
材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考																																													
・集成材	・クリアッカー	・35 ・45																																															
・ステンパイプ	・HL																																																
・鋼製パイプ	・EP-G ・SOP																																																
・ビニル製ハンドル																																																	
9 黒板及びホワイトボード	(20.2.8) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>色彩</th> <th>形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・黒板 ※焼付け</td> <td></td> <td>※緑 ・黒</td> <td>※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分</td> </tr> <tr> <td>・ホワイトボード ※ほうろう</td> <td></td> <td>白</td> <td>※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分</td> </tr> </tbody> </table>	種類	寸法(mm)	色彩	形式	・黒板 ※焼付け		※緑 ・黒	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	・ホワイトボード ※ほうろう		白	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																																				
種類	寸法(mm)	色彩	形式																																														
・黒板 ※焼付け		※緑 ・黒	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																																														
・ホワイトボード ※ほうろう		白	※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																																														
10 鏡	(20.2.9) 取付箇所 ( ) 寸法(mm) ・図示 厚さ(mm) ※5																																																
11 表示	(20.2.10) ◎図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>材質</th> <th>寸法・形状(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>取付高さ(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・衝突防止表示 (・両面 ・片面)</td> <td>・ステンズ製 ・図示</td> <td>・30φ</td> <td>・市販品</td> <td>・図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・室名札</td> <td>・アクリル製</td> <td>・図示</td> <td>・5</td> <td>・図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ピクトグラム</td> <td>・アクリル製</td> <td>・図示</td> <td>・5</td> <td>・図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・とびら番号</td> <td>・アクリル製</td> <td>・図示</td> <td>・5</td> <td>・図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・庁内案内板</td> <td>・アクリル製</td> <td>・図示</td> <td>・5</td> <td>・図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・各階案内板</td> <td>・アクリル製</td> <td>・図示</td> <td>・5</td> <td>・図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>案内用図記号はJIS Z 8210による            誘導標識、非常用進入口等の表示 ※消防法に適合する市販品            色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。</p>	区分	材質	寸法・形状(mm)	厚さ(mm)	取付高さ(mm)	備考	・衝突防止表示 (・両面 ・片面)	・ステンズ製 ・図示	・30φ	・市販品	・図示		・室名札	・アクリル製	・図示	・5	・図示		・ピクトグラム	・アクリル製	・図示	・5	・図示		・とびら番号	・アクリル製	・図示	・5	・図示		・庁内案内板	・アクリル製	・図示	・5	・図示		・各階案内板	・アクリル製	・図示	・5	・図示		・					
区分	材質	寸法・形状(mm)	厚さ(mm)	取付高さ(mm)	備考																																												
・衝突防止表示 (・両面 ・片面)	・ステンズ製 ・図示	・30φ	・市販品	・図示																																													
・室名札	・アクリル製	・図示	・5	・図示																																													
・ピクトグラム	・アクリル製	・図示	・5	・図示																																													
・とびら番号	・アクリル製	・図示	・5	・図示																																													
・庁内案内板	・アクリル製	・図示	・5	・図示																																													
・各階案内板	・アクリル製	・図示	・5	・図示																																													
・																																																	
12 煙突ライニング	(20.2.11) ・煙突用成形ライニング材 適用安全使用温度 ・400℃ ・650℃ ・キャストブル耐火材																																																



		煙突成形ライニング材の製造所の指定する製品とする
--	--	--------------------------

章	項目	特記事項						
21 断熱・防露 ユニット及びその他の工事	13 ブラインド	(20. 2. 12)						
		形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	ボックス・レールの材種	寸法・取付箇所
		・横型	・手動	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※25	※鋼製	・図示
			・電動	—				
		・縦型	・手動	※2本操作コード式 ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット	・80 ・100	アルミニウム合金製	・図示
			・電動	—				
		アルミスラット 焼付け塗装仕上げ クロススラット 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工						
	14 ロールスクリーン	(20. 2. 13)						
		材種	操作方式	遮光性	寸法 (mm)	取付箇所	備考	
		・ポリエステル	・電動式 ・スプリング式 ・チェーン式	・1級 ・2級 ・3級	・図示	・図示		
		巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料は製造所の仕様による。						
	15 カーテン	(20. 2. 14)						
		形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考	
		・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ	・図示		
		・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・プレーンひだ、片ひだ	・図示		
		暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm 以上						
	16 カーテンレール	(20. 2. 14)						
		材種 ※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出成型材 ・ステンレス製						
		形式 ・シングル ・ダブル ・片引き ・引分け						
		強さによる区分 ※10-90						
		仕上げ ※アルマイト						
		形状 ※角形						
	17 ブラインドボックス及びカーテンボックス	(20. 2. 14)						
		溝幅×深さ (mm)	・90×150	・120×80	※120×150	・150×80	・図示	
		材質	・集成材 (仕上げ: ) ・アルミニウム製 押出し型材 (市販品) 表面処理・C-1 ・C-2 (・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー)					
		皮膜等の種類 ※標準仕様書表 14. 2. 1 による						
		・鋼製 (仕上げ: )						

章	項目	特記事項																															
21 断熱・防露 ユニット及び その他の工事	18 天井点検口	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th colspan="2">形式</th> <th>外枠</th> <th>内枠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※アルミニウム製 ・</td> <td>・ 450×450 ・ 600×600 ・</td> <td>・ 一般形 ・ 気密形</td> <td>・ 屋内外用 ・ 屋内用</td> <td>・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ</td> <td>・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ</td> </tr> </tbody> </table>					材種	寸法	形式		外枠	内枠	※アルミニウム製 ・	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ 気密形	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ															
	材種	寸法	形式		外枠	内枠																											
	※アルミニウム製 ・	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ 気密形	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	・ 額縁タイプ ・ 目地タイプ																											
	19 床点検口	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th colspan="2">形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製</td> <td>・ 450×450 ・ 600×600 ・</td> <td>・ 一般形 ・ 気密形 ・ 結露防止形</td> <td>・ 屋内外用 ・ 屋内用</td> <td>・ 鍵付き</td> </tr> </tbody> </table>					材種	寸法	形式		備考	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ 気密形 ・ 結露防止形	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き																	
	材種	寸法	形式		備考																												
	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	・ 450×450 ・ 600×600 ・	・ 一般形 ・ 気密形 ・ 結露防止形	・ 屋内外用 ・ 屋内用	・ 鍵付き																												
	20 耐震スリット	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>タイプ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 垂直方向 ・ 水平方向</td> <td>※完全（全貫通型）</td> <td>・ 耐火型 ・ 非耐火型</td> <td>・ 有り ・ 無し</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>目地</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目地</th> <th>内壁</th> <th>外壁</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目地材</td> <td>・ シリング材（見え掛かりのみ） ・</td> <td>・ シリング材（見え掛かりのみ） ・ シリング材（内外とも）</td> </tr> <tr> <td>目地寸法 （幅 mm×深さ mm）</td> <td>・ 20×10</td> <td>・ 20×10</td> </tr> </tbody> </table> <p>目地材の材質は標準仕様書表 9.7.2 による</p>					方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考	・ 垂直方向 ・ 水平方向	※完全（全貫通型）	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ 有り ・ 無し		目地	内壁	外壁	目地材	・ シリング材（見え掛かりのみ） ・	・ シリング材（見え掛かりのみ） ・ シリング材（内外とも）	目地寸法 （幅 mm×深さ mm）	・ 20×10	・ 20×10								
	方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考																												
	・ 垂直方向 ・ 水平方向	※完全（全貫通型）	・ 耐火型 ・ 非耐火型	・ 有り ・ 無し																													
	目地	内壁	外壁																														
目地材	・ シリング材（見え掛かりのみ） ・	・ シリング材（見え掛かりのみ） ・ シリング材（内外とも）																															
目地寸法 （幅 mm×深さ mm）	・ 20×10	・ 20×10																															
21 止水板	形式 ・ 差込式 ・ 据置式 ・ 壁張り式 施工箇所 ・ 図示 ・																																
22 エキスパンション ジョイント金物	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>クリアランス(mm)</th> <th>耐火性能</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ アルミニウム製 ・ ステンレス製</td> <td>・ 50 ・ 100 ・ 150</td> <td>・ 有り( ) ・ 無し</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>外部は防水型とする</p>					材種	クリアランス(mm)	耐火性能	備考	・ アルミニウム製 ・ ステンレス製	・ 50 ・ 100 ・ 150	・ 有り( ) ・ 無し																					
材種	クリアランス(mm)	耐火性能	備考																														
・ アルミニウム製 ・ ステンレス製	・ 50 ・ 100 ・ 150	・ 有り( ) ・ 無し																															
23 くつつきマット	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>受け枠</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製</td> <td>・ ステンレス鋼(SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					材種	受け枠	備考	・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製	・ ステンレス鋼(SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・																							
材種	受け枠	備考																															
・ 塩化ビニル又はゴム製 ・ 硬質アルミニウム合金製 ・ ステンレス鋼(SUS304)製	・ ステンレス鋼(SUS304) ・ 硬質アルミニウム合金 ・																																
24 流し台ユニット	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ユニット分類</th> <th colspan="3">寸法(mm)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>W</th> <th>D</th> <th>H</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 流し台</td> <td>・ 1200 ・ 1500 ・ 1800</td> <td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td> <td>・ 800 ・ 850</td> <td>市販品 トラップ付き 天板ステンレス製</td> </tr> <tr> <td>・ コム台</td> <td>・ 600</td> <td>・ 550 ・ 600 ・ 650</td> <td>・ 620 ・ 670</td> <td>市販品 バックガード有り 天板ステンレス製</td> </tr> <tr> <td>・ つり戸棚</td> <td>・ 1200 ・ 900</td> <td>・ 450</td> <td>・ 500 ・ 700</td> <td>市販品</td> </tr> <tr> <td>・ 水切り</td> <td>・ 1200 ・ 900 ・ 600</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>品質・性能 JIS A 4420 による 形状 ※図示 ・</p>					ユニット分類	寸法(mm)			備考	W	D	H	・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製	・ コム台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製	・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品	・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・
ユニット分類	寸法(mm)			備考																													
	W	D	H																														
・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製																													
・ コム台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製																													
・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品																													
・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	—	—	市販品 ステンレス製 ・ 1 段式 ・																													

章	項目	特記事項															
21 断熱・防露 ユニット及びその他の工事	25 旗竿	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>形式</th> <th>高さ(mm)</th> <th>操作方法</th> <th>固定方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アルミニウム合金製 ・</td> <td>・テーパー式 ・同一断面式</td> <td></td> <td>・ハンドル式 ・ロープ式</td> <td>・埋込式 ・ベース式 ・バンド式</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式				
	材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考											
	・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式												
	26 旗竿受金物	材種 ・ステンレス製(SUS304)															
	27 車止めさく	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">形式</th> <th>材種</th> <th>柱径, 肉厚(mm)</th> <th>高さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・上下式鎖内蔵式 ・</td> <td>・標準品 ・スプリング式</td> <td>・ステンレス製 ・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	形式		材種	柱径, 肉厚(mm)	高さ(mm)	・上下式鎖内蔵式 ・	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・	・				
	形式		材種	柱径, 肉厚(mm)	高さ(mm)												
	・上下式鎖内蔵式 ・	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・												
・																	
28 フェンス	フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 高さ ・図示 ・																
29 プレキャスト コンクリート	(20. 3. 3, 4) コンクリートの設計基準強度 ※水セメント比 55%以下, 単位セメント量の最小値 300kg/m <sup>3</sup> を満足する調合強度 ・図示 配筋 ※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。 ・図示 取付方法 ※図示																
30 間知石及び コンクリート間知 ブロック積み	(20. 4. 2, 3) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">材種</th> <th>種類</th> <th>質量区分</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・間知石</td> <td>・花こう岩 ・凝灰岩</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・コンクリート 間知ブロック</td> <td>—</td> <td></td> <td>・A ・B</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 積み方 ※谷積み ・布積み 目塗り ・図示 ・ 伸縮調整目地 材種 ・図示 ・ 厚さ ・図示 ・	材種		種類	質量区分	備考	・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—		・コンクリート 間知ブロック	—		・A ・B		
材種		種類	質量区分	備考													
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	—	—														
・コンクリート 間知ブロック	—		・A ・B														
31 鋼製書架及び物品棚	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>規格等</th> <th colspan="3">JISによる種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・鋼製書架</td> <td rowspan="2">JIS S 1039 の規格による</td> <td>・1級</td> <td>・2級</td> <td>・3級</td> </tr> <tr> <td>・鋼製物品棚</td> <td>・4級</td> <td>・5級</td> <td>・6級</td> </tr> </tbody> </table>	種類	規格等	JISによる種類			・鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・1級	・2級	・3級	・鋼製物品棚	・4級	・5級	・6級		
種類	規格等	JISによる種類															
・鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・1級	・2級	・3級													
・鋼製物品棚		・4級	・5級	・6級													
32 屋内掲示板	枠の材質 ※アルミニウム製 表面の材質 ※塩ビ発泡シート張り ・																
33 洗面カウンター	材種 ・メラミン樹脂化粧板張り (心材: 集成材) ・人工大理石 奥行き(mm) ・約 450 ・約 600																

章	項目	特記事項																				
21 断熱・防露 ユニット及びその他の工事	34 防煙垂れ壁	<p>・ 固定式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>高さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※網入り磨板ガラス ・ 線入り磨板ガラス</td> <td>※6.8 ・</td> <td>※500 ・</td> <td>アルミ製枠付き</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 可動式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>高さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 垂直降下式 (巻取り型)</td> <td>※不燃布 (不燃認定品)</td> <td>※500 ・ 800 ・</td> <td>がイ<sup>レ</sup>ール ※固定式(壁埋込型) ・ 可動式(天井収納型)</td> </tr> <tr> <td>・ 回転降下式</td> <td>鋼板製又はアルミ製</td> <td>※500 ・ 800 ・</td> <td>表面仕上げ ※天井材張り ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)</p>	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考	※網入り磨板ガラス ・ 線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き	種類	材質	高さ (mm)	備考	・ 垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・ 800 ・	がイ <sup>レ</sup> ール ※固定式(壁埋込型) ・ 可動式(天井収納型)	・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・
	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考																		
	※網入り磨板ガラス ・ 線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き																		
	種類	材質	高さ (mm)	備考																		
	・ 垂直降下式 (巻取り型)	※不燃布 (不燃認定品)	※500 ・ 800 ・	がイ <sup>レ</sup> ール ※固定式(壁埋込型) ・ 可動式(天井収納型)																		
・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・																			
35 屋外掲示板	照明器具 ※有り ・無し 施錠 ※有り ・無し 製造所																					
36 収納家具	材質, 形状, 寸法 ※図示 ・ 合板類, MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・																					
37 窯業系サイディング 工事	<p>・ サイディング材 ◎図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>形状</th> <th>働き長さ 働き幅</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面仕 上げ</th> <th>耐凍害性 能</th> <th>防火・耐 火性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>張り方 ・縦張り ◎横張り            換気口部の防水処理 ※木造標準仕様書 19.3.2(c)(3)(iii)による ・            現場塗装用サイディングの下地処理及び仕上げ ・            通気胴縁 樹種 ※杉            寸法 ・図示            通気胴縁の防腐処理方法( )</p>	種類	形状	働き長さ 働き幅	厚さ (mm)	表面仕 上げ	耐凍害性 能	防火・耐 火性能	・	・	・	・	・	・	・	〈19.3.2〉						
種類	形状	働き長さ 働き幅	厚さ (mm)	表面仕 上げ	耐凍害性 能	防火・耐 火性能																
・	・	・	・	・	・	・																
38 複合金属サイディン グ工事	<p>・ サイディング材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>形状</th> <th>有効幅 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>表面材 しん材の種別</th> <th>防火・耐 火性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>張り方 ・縦張り ・横張り            換気口部の防水処理 ※木造標準仕様書 19.3.2(c)(3)(iii)による ・            現場塗装用サイディングの下地処理及び仕上げ ・            通気胴縁 樹種 ※杉            寸法 ・図示            通気胴縁の防腐処理方法( )</p>	種類	形状	有効幅 (mm)	厚さ (mm)	表面材 しん材の種別	防火・耐 火性能	・	・	・	・	・	・	〈19.3.3〉								
種類	形状	有効幅 (mm)	厚さ (mm)	表面材 しん材の種別	防火・耐 火性能																	
・	・	・	・	・	・																	

章	項目	特記事項																														
22 排水工事	1 屋外雨水排水	<p>排水管用材料 (21.2.1,2) (表21.2.1,2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>管の種類</th> <th>形状</th> <th>呼び径</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・遠心力鉄筋コンクリート管</td> <td>※外圧管(1種)</td> <td>・B形管</td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>・VP</td> <td></td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・WU</td> <td></td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・RS-WU</td> <td></td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>           基床の厚さ及び種類 ・図示            硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤            側塊の形状及び寸法 ・図示            排水柵の種類 ・図示            砂地業に用いる材料 ※標準仕様書(21.2.1)(g)(1) ・図示            砂利事業に用いる材料 ※標準仕様書(21.2.1)(g)(2) ・図示            コンクリート基礎等に用いる材料            ※標準仕様書6章14節により、設計基準強度18N/mm<sup>2</sup>とする。            ただし、コンクリートが簡易な場合の調合(容積比)は、セメント1:砂2:砂利4程度とする。            ・図示            凍上抑制層の厚さ ・図示 (21.2.1)(表21.2.2)            凍上抑制層に用いる材料 ・図示            砂の粒度試験 ・行う ・行わない         </p>	材種	管の種類	形状	呼び径	備考	・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管(1種)	・B形管	※図示		・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示		・WU		※図示		・RS-WU		※図示								
	材種	管の種類	形状	呼び径	備考																											
	・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管(1種)	・B形管	※図示																												
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示																													
	・WU		※図示																													
	・RS-WU		※図示																													
2 鋳鉄製ふた	<p>(21.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>鍵</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋳鉄製マンホールふた</td> <td>           ・水封形            ・簡易気密形(パッキン式)            ・密閉形(テーパー・パッキン式)            ・中ふた付密閉形(テーパー・パッキン式)            ・RS-VU         </td> <td>           ・T-2用            ・T-6用            ・T-20用         </td> <td>           ・有り            ・無し         </td> <td>左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による</td> </tr> </tbody> </table>	名称	種類	適用荷重	鍵	備考	鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易気密形(パッキン式) ・密閉形(テーパー・パッキン式) ・中ふた付密閉形(テーパー・パッキン式) ・RS-VU	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による																					
名称	種類	適用荷重	鍵	備考																												
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易気密形(パッキン式) ・密閉形(テーパー・パッキン式) ・中ふた付密閉形(テーパー・パッキン式) ・RS-VU	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による																												
3 グレーチング	<p>(21.2.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>形式</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>メーピッチ</th> <th>亜鉛めっき(付着量)</th> <th>上面形状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・鋼製</td> <td rowspan="2">・受枠付き、ボルト固定</td> <td>・溝ふた(横断用)</td> <td>・歩行用</td> <td>・細目</td> <td>・( )</td> <td>・凹凸型</td> </tr> <tr> <td>           ・溝ふた(側溝用)            ・柵ふた用            ・U字溝用         </td> <td>           ・T-2用            ・T-6用            ・T-14用            ・T-20用         </td> <td>           ・普通目            ・細目         </td> <td>・( )</td> <td>・平型</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ステンレス製</td> <td rowspan="2">・受枠付き、ボルト固定</td> <td>・溝ふた(横断用)</td> <td>・歩行用</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>・凹凸型</td> </tr> <tr> <td>           ・溝ふた(側溝用)            ・柵ふた用            ・U字溝用         </td> <td>           ・T-2用            ・T-6用            ・T-14用            ・T-20用         </td> <td>—</td> <td>—</td> <td>・平型</td> </tr> </tbody> </table>	材質	形式	用途	適用荷重	メーピッチ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状	・鋼製	・受枠付き、ボルト固定	・溝ふた(横断用)	・歩行用	・細目	・( )	・凹凸型	・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・( )	・平型	・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定	・溝ふた(横断用)	・歩行用	—	—	・凹凸型	・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	—	—	・平型
材質	形式	用途	適用荷重	メーピッチ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状																										
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定	・溝ふた(横断用)	・歩行用	・細目	・( )	・凹凸型																										
		・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目	・( )	・平型																										
・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定	・溝ふた(横断用)	・歩行用	—	—	・凹凸型																										
		・溝ふた(側溝用) ・柵ふた用 ・U字溝用	・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	—	—	・平型																										

章	項目	特記事項										
22 排水工事	4 街きよ, 縁石, 側溝	(21.3.1) (表 21.3.1) 街きよ, 縁石, 側溝 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>形状, 寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎縁石</td> <td>◎図示</td> </tr> <tr> <td>・L形側溝</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・U形側溝</td> <td>・図示</td> </tr> <tr> <td>・U形側溝ふた</td> <td>・図示</td> </tr> </tbody> </table> <p>地業の材料 ※標準仕様書 4.6.2(a)による ・図示  砂利地業の厚さ ※100(mm) ・図示  コンクリート基礎等に用いる材料  ※標準仕様書 6章 14節により, 設計基準強度 18N/mm<sup>2</sup>とする。  ただし, コンクリートが簡易な場合の調合(容積比)は, セメント 1 : 砂 2 : 砂利 4 程度とする。  ・図示  凍上抑制層の厚さ ・図示 (21.2.1) (表 21.2.2)  凍上抑制層に用いる材料 ・図示  砂の粒度試験 ・行う ・行わない</p>	種類	形状, 寸法	◎縁石	◎図示	・L形側溝	・図示	・U形側溝	・図示	・U形側溝ふた	・図示
	種類	形状, 寸法										
◎縁石	◎図示											
・L形側溝	・図示											
・U形側溝	・図示											
・U形側溝ふた	・図示											
5 埋戻し土	(21.2.1)	※B種										

章	項目	特記事項															
23 舗装工事	1 路床	<p style="text-align: right;">(22.2.2, 3, 5) (表 22.2.1)</p> <p>路床の材料 ◎図示</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">種別</th> <th style="width: 60%;">材料</th> <th style="width: 20%;">厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・盛土</td> <td>・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土</td> <td>・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・遮断層</td> <td>・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率10%以下)</td> <td>・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>・再生クワッラン ・クワッラン ・切込砂利 ・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率6%以下)</td> <td>・図示 ・</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率6%以下) ・</td> <td>・図示 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>・路床安定処理 (添加材料による安定処理) 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 (・符号 ・1号) ・消石灰 (・符号 ・1号) ・固化剤 (・セメント系 ・石灰系) 添加量 ・ kg/ m<sup>3</sup> (目標 CBR ・3以上 ・ )</p> <p>・路床置換処理 置換厚さ ※図示 ・ 置換材料の種類, 品質 ※図示 ・</p> <p>・不織布 (ジオテキスタイル) 単位面積質量 ・60g/m<sup>2</sup>以上 ・ 厚さ (mm) ・0.5~1.0 ・ 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・ 透水係数 ・1.5 × 10<sup>-1</sup>cm/sec 以上 ・</p> <p>試験 砂の粒度試験 ・行う ・行わない 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・行う (箇所) ・行わない 現場 CBR 試験 ・行う (箇所) ・行わない 安定処理土の CBR 試験 ・行う ・行わない 路床締固め度の試験 ・行う (箇所) ・行わない 六価クロム溶出試験 ・行う ・行わない</p>	種別	材料	厚さ (mm)	・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示 ・	・遮断層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率10%以下)	・図示 ・	・凍上抑制層	・再生クワッラン ・クワッラン ・切込砂利 ・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率6%以下)	・図示 ・	・フィルター層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率6%以下) ・	・図示 ・
	種別	材料	厚さ (mm)														
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示 ・															
・遮断層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率10%以下)	・図示 ・															
・凍上抑制層	・再生クワッラン ・クワッラン ・切込砂利 ・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率6%以下)	・図示 ・															
・フィルター層	・川砂, 海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過率6%以下) ・	・図示 ・															
2 路盤	<p style="text-align: right;">(22.3.2, 3, 5) (表 22.3.1)</p> <p>路盤の構成及び厚さ ※図示 ・</p> <p>路盤材料</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">碎石</td> <td>・クラッシュラン</td> </tr> <tr> <td>・粒度調整碎石</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">再生材</td> <td>◎クラッシュラン</td> </tr> <tr> <td>・粒度調整碎石</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・クラッシュラン鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・粒度調整鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td colspan="2">・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</td> </tr> </tbody> </table> <p>試験 路盤締固め度の試験 ※行う ・行わない</p>	種別		碎石	・クラッシュラン	・粒度調整碎石	再生材	◎クラッシュラン	・粒度調整碎石	・クラッシュラン鉄鋼スラグ		・粒度調整鉄鋼スラグ		・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ			
種別																	
碎石	・クラッシュラン																
	・粒度調整碎石																
再生材	◎クラッシュラン																
	・粒度調整碎石																
・クラッシュラン鉄鋼スラグ																	
・粒度調整鉄鋼スラグ																	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ																	



章	項目	特記事項																																		
23 舗装工事	3 アスファルト舗装	<p>(22.4.2~6) (表 22.4.4, 5)</p> <p>アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示</p> <p>材料            アスファルト ・再生アスファルト ・ストレートアスファルト            骨材 ・道路用碎石            ・アスファルトコンクリート再生骨材</p> <p>アスファルト乳剤            ・プライムコート (1.5ℓ /㎡) ・タックコート (0.4ℓ /㎡)</p> <p>加熱アスファルト混合物等の種類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>地域</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">・表層</td> <td>・一般地域</td> <td>・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)</td> </tr> <tr> <td>・寒冷地域</td> <td>密粒度アスファルト混合物(13F)</td> </tr> <tr> <td>・基層</td> <td>一般及び寒冷地域</td> <td>粗粒度アスファルト混合物 (20)</td> </tr> </tbody> </table> <p>配合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるいの呼び名</th> <th>ふるい通過質量百分率 (%)</th> </tr> <tr> <th>粗粒度アスファルト混合物 (20)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26.5 mm</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>95 ~ 100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>70 ~ 90</td> </tr> <tr> <td>4.75mm</td> <td>35 ~ 55</td> </tr> <tr> <td>2.36mm</td> <td>20 ~ 35</td> </tr> <tr> <td>600 μm</td> <td>11 ~ 23</td> </tr> <tr> <td>300 μm</td> <td>5 ~ 16</td> </tr> <tr> <td>150 μm</td> <td>4 ~ 12</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>2 ~ 7</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量 (%)</td> <td>4.5 ~ 6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>シーコート施工 ・行う ・行わない</p> <p>試験            アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない</p> <p>舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・            加熱混合物製造施設：茨城県指定のアスファルトコンクリート合材混合所</p>	区分	地域	種類	・表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)	・寒冷地域	密粒度アスファルト混合物(13F)	・基層	一般及び寒冷地域	粗粒度アスファルト混合物 (20)	ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)	粗粒度アスファルト混合物 (20)	26.5 mm	100	19.0 mm	95 ~ 100	13.2 mm	70 ~ 90	4.75mm	35 ~ 55	2.36mm	20 ~ 35	600 μm	11 ~ 23	300 μm	5 ~ 16	150 μm	4 ~ 12	75 μm	2 ~ 7	アスファルト量 (%)	4.5 ~ 6.0
	区分	地域	種類																																	
・表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)																																		
	・寒冷地域	密粒度アスファルト混合物(13F)																																		
・基層	一般及び寒冷地域	粗粒度アスファルト混合物 (20)																																		
ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)																																			
	粗粒度アスファルト混合物 (20)																																			
26.5 mm	100																																			
19.0 mm	95 ~ 100																																			
13.2 mm	70 ~ 90																																			
4.75mm	35 ~ 55																																			
2.36mm	20 ~ 35																																			
600 μm	11 ~ 23																																			
300 μm	5 ~ 16																																			
150 μm	4 ~ 12																																			
75 μm	2 ~ 7																																			
アスファルト量 (%)	4.5 ~ 6.0																																			
4	コンクリート舗装	<p>(22.5.2~4, 6) (表 22.5.1, 3) (図 22.5.1)</p> <p>コンクリート舗装の構成及び厚さ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>部位</th> <th>構成</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">コンクリート版</td> <td>・車路, 駐車場</td> <td>※図示</td> <td>・150 ・200</td> </tr> <tr> <td>・歩行者用通路</td> <td>※図示</td> <td>※70 ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>縁部立下り寸法等 ・図示</p> <p>材料            コンクリート ・標準仕様書 表 22.5.1による ・            早強セメント ・使用する ・使用しない            注入目地材料 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ            アスファルト乳剤 ・プライムコート (1.5ℓ /㎡)</p> <p>溶接金網            敷設位置 ※コンクリート版厚 150mm の場合は, 1/2 程度の位置とする            ※コンクリート版厚 200mm の場合は, 表面から 1/3 程度の位置とする            ・図示</p> <p>目地            種類, 間隔, 構造 ※標準仕様書 表 22.5.3 及び図 22.5.1 による ・図示</p> <p>舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p>	区分	部位	構成	厚さ(mm)	コンクリート版	・車路, 駐車場	※図示	・150 ・200	・歩行者用通路	※図示	※70 ・																							
区分	部位	構成	厚さ(mm)																																	
コンクリート版	・車路, 駐車場	※図示	・150 ・200																																	
	・歩行者用通路	※図示	※70 ・																																	

章	項目	特記事項																																																				
23 舗装工事	5 カラー舗装	<p>(22.6.2~6) (表22.6.2)</p> <p>・カラー舗装（加熱系）の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">表層</td> <td rowspan="2">           ・加熱アスファルト混合物            ・石油樹脂系混合物         </td> <td>           ・カー骨材舗装            ・ベンガラ混入アスファルト舗装            ・樹脂系混合式舗装         </td> <td>           ・車路, 駐車場            ・歩行者用通路         </td> <td>           50            30         </td> </tr> </tbody> </table> <p>加熱アスファルト混合物は, アスファルト舗装による</p> <p>材料        添加する材料 ・着色骨材 ( ) ・自然石 ( )</p> <p>配合        結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量 .</p> <p>・カラー舗装（常温系）の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>カラー舗装材</th> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">           ・塗布式樹脂舗装            ・ニート式舗装         </td> <td rowspan="2">表層</td> <td rowspan="2">           ・加熱アスファルト混合物            ・コンクリート版         </td> <td>           ・車路, 駐車場            ・歩行者用通路         </td> <td>           50            30         </td> </tr> <tr> <td>           ・車路, 駐車場            ・歩行者用通路         </td> <td>           ・150・200            70         </td> </tr> </tbody> </table> <p>加熱アスファルト混合物は, アスファルト舗装による        コンクリート版は, コンクリート舗装による</p> <p>配合        ニート式舗装及び塗布式樹脂舗装の配合等 .        舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p>	区分	種類	部位	厚さ (mm)	表層	・加熱アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・カー骨材舗装 ・ベンガラ混入アスファルト舗装 ・樹脂系混合式舗装	・車路, 駐車場 ・歩行者用通路	50 30	カラー舗装材	区分	種類	部位	厚さ (mm)	・塗布式樹脂舗装 ・ニート式舗装	表層	・加熱アスファルト混合物 ・コンクリート版	・車路, 駐車場 ・歩行者用通路	50 30	・車路, 駐車場 ・歩行者用通路	・150・200 70																															
	区分	種類	部位	厚さ (mm)																																																		
表層	・加熱アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・カー骨材舗装 ・ベンガラ混入アスファルト舗装 ・樹脂系混合式舗装	・車路, 駐車場 ・歩行者用通路	50 30																																																		
		カラー舗装材	区分	種類	部位	厚さ (mm)																																																
・塗布式樹脂舗装 ・ニート式舗装	表層	・加熱アスファルト混合物 ・コンクリート版	・車路, 駐車場 ・歩行者用通路	50 30																																																		
			・車路, 駐車場 ・歩行者用通路	・150・200 70																																																		
	6 透水性舗装	<p>透水性舗装の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">・表層</td> <td>・改質アスファルト I 型</td> <td>車路, 駐車場</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>・透水性用開粒度アスファルト</td> <td rowspan="2">歩行者用通路</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・透水性コンクリート</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>・透水性インターロッキングブロック</td> <td>           ・車路, 駐車場            ・歩行者通路         </td> <td>           80            60         </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・敷砂層</td> <td rowspan="2">・砂</td> <td>・車路, 駐車場</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>・歩行者用通路</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>川砂, 海砂又は良質な山砂 (75<math>\mu</math>mふるい通過量6%以下)</td> <td></td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>アスファルト乳剤(プライムコート)の施工は行わない。</p> <p>・透水性アスファルト舗装        ・ポーラスアスファルト混合物(13) ・開粒度アスファルト混合物(13)        配合 (表22.7.1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ふるいの呼び名</th> <th colspan="2">ふるい通過質量百分率 (%)</th> </tr> <tr> <th>車路, 駐車場</th> <th>歩行者用通路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19mm</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>13.2mm</td> <td>90~100</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>4.75mm</td> <td>11~35</td> <td>20~36</td> </tr> <tr> <td>2.36mm</td> <td>10~20</td> <td>12~25</td> </tr> <tr> <td>300<math>\mu</math>m</td> <td>-</td> <td>5~13</td> </tr> <tr> <td>75<math>\mu</math>m</td> <td>3~7</td> <td>3~6</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量 (%)</td> <td>4~6</td> <td>3.5~5.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	種類	部位	厚さ (mm)	・表層	・改質アスファルト I 型	車路, 駐車場	50	・透水性用開粒度アスファルト	歩行者用通路	30	・透水性コンクリート	70	・透水性インターロッキングブロック	・車路, 駐車場 ・歩行者通路	80 60	・敷砂層	・砂	・車路, 駐車場	20	・歩行者用通路	30	・フィルター層	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75 $\mu$ mふるい通過量6%以下)		100	ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)		車路, 駐車場	歩行者用通路	19mm	100	100	13.2mm	90~100	95~100	4.75mm	11~35	20~36	2.36mm	10~20	12~25	300 $\mu$ m	-	5~13	75 $\mu$ m	3~7	3~6	アスファルト量 (%)	4~6	3.5~5.5
	区分	種類	部位	厚さ (mm)																																																		
・表層	・改質アスファルト I 型	車路, 駐車場	50																																																			
	・透水性用開粒度アスファルト	歩行者用通路	30																																																			
	・透水性コンクリート		70																																																			
	・透水性インターロッキングブロック	・車路, 駐車場 ・歩行者通路	80 60																																																			
・敷砂層	・砂	・車路, 駐車場	20																																																			
		・歩行者用通路	30																																																			
・フィルター層	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75 $\mu$ mふるい通過量6%以下)		100																																																			
ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)																																																					
	車路, 駐車場	歩行者用通路																																																				
19mm	100	100																																																				
13.2mm	90~100	95~100																																																				
4.75mm	11~35	20~36																																																				
2.36mm	10~20	12~25																																																				
300 $\mu$ m	-	5~13																																																				
75 $\mu$ m	3~7	3~6																																																				
アスファルト量 (%)	4~6	3.5~5.5																																																				

章	項目	特記事項																																	
23 舗装工事	6 透水性舗装	<p>基準値 (表 22.7.2)</p> <table border="1" data-bbox="534 212 1460 504"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">基準値</th> </tr> <tr> <th>・車路, 駐車場</th> <th>・歩行者用通路</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td colspan="2">13</td> </tr> <tr> <td>安定度 (kN)</td> <td>3.43 以上</td> <td>3.0 以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>-</td> <td>20~40</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20 程度</td> <td>12 以上</td> </tr> <tr> <td>動的安定度 (回/mm)</td> <td>3,000 以上</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td colspan="2">1×10<sup>-2</sup> 以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない</p> <p>・不織布 (ジオテキスタイル) 敷設位置 ※フィルター層と路床の間に敷設 ・図示</p> <p>舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの</p> <p>・透水性コンクリート舗装 (22.5.2~4,6) コンクリート舗装に対する基準値</p> <table border="1" data-bbox="534 884 1460 1064"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20 以上</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td>1×10<sup>-2</sup> 以上</td> </tr> <tr> <td>目地の間隔</td> <td>版厚の 20 倍程度</td> </tr> </tbody> </table> <p>構成, 厚さはコンクリート舗装による</p> <p>・不織布 (ジオテキスタイル) 敷設位置 ※フィルター層と路床の間に敷設 ・図示</p> <p>・透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2,3) 透水性コンクリート平板舗装は, ブロック系舗装による。</p> <p>・透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2,3) 透水性インターロッキングブロック舗装は, ブロック系舗装による。</p>	項目	基準値		・車路, 駐車場	・歩行者用通路	最大粒径 (mm)	13		安定度 (kN)	3.43 以上	3.0 以上	フロー値 (1/100cm)	-	20~40	空隙率 (%)	20 程度	12 以上	動的安定度 (回/mm)	3,000 以上	-	透水係数 (cm/s)	1×10 <sup>-2</sup> 以上		項目	基準値	最大粒径 (mm)	13	空隙率 (%)	20 以上	透水係数 (cm/s)	1×10 <sup>-2</sup> 以上	目地の間隔	版厚の 20 倍程度
	項目	基準値																																	
		・車路, 駐車場	・歩行者用通路																																
	最大粒径 (mm)	13																																	
	安定度 (kN)	3.43 以上	3.0 以上																																
	フロー値 (1/100cm)	-	20~40																																
	空隙率 (%)	20 程度	12 以上																																
	動的安定度 (回/mm)	3,000 以上	-																																
	透水係数 (cm/s)	1×10 <sup>-2</sup> 以上																																	
	項目	基準値																																	
最大粒径 (mm)	13																																		
空隙率 (%)	20 以上																																		
透水係数 (cm/s)	1×10 <sup>-2</sup> 以上																																		
目地の間隔	版厚の 20 倍程度																																		

章	項目	特記事項																																																																								
23 舗装工事	7 ブロック系舗装	<p>・コンクリート平板舗装(歩行者用通路)の構成及び厚さ ※図示 (22.8.2, 3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普通平板(N) ・透水平板(P) ・</td> <td>※300角 ・</td> <td>・60</td> <td>※砂 ・珪砂</td> <td>表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し</td> </tr> <tr> <td>敷砂層</td> <td>・砂 ・空練り珪砂</td> <td>・30</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内</p> <p>・インターロッキングブロック舗装の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>曲げ強度(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>横断面勾配</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P)</td> <td>・車路・駐車場</td> <td>80</td> <td>5.0以上</td> <td>2%</td> <td rowspan="2">砂</td> <td rowspan="2">色彩, 表面加工 ・標準品 ・</td> </tr> <tr> <td>・歩行者用通路</td> <td>60</td> <td>3.0以上</td> <td>1.5 ~ 2%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>部位</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">敷砂層</td> <td>・車路, 駐車場</td> <td>20</td> <td rowspan="2">砂</td> </tr> <tr> <td>・歩行者用通路</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>フィルター層</td> <td></td> <td>100</td> <td>川砂, 海砂又は良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・不織布(ジオテキスタイル) 敷設位置 ※図示 ・敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設</p> <p>舗装の割付(車路, 駐車場) ・ヘリンボンボンド(45°) ・ヘリンボンボンド(90°)</p> <p>仕上り面の平坦性 ※走行, 歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。</p> <p>・舗石(歩行者用通路)舗装の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※小舗石(花こう岩) ・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>珪砂</td> <td>・うろこ張り ・</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>厚さ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷砂層</td> <td>※砂 ・空練り珪砂</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基層</td> <td>・コンクリート版</td> <td>70</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・再生粗粒度アスファルト混合物(20)</td> <td>50</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>コンクリート版は、コンクリート舗装による 加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による 仕上面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内</p>	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考	※普通平板(N) ・透水平板(P) ・	※300角 ・	・60	※砂 ・珪砂	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し	敷砂層	・砂 ・空練り珪砂	・30			種類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm <sup>2</sup> )	横断面勾配	目地材	備考	※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P)	・車路・駐車場	80	5.0以上	2%	砂	色彩, 表面加工 ・標準品 ・	・歩行者用通路	60	3.0以上	1.5 ~ 2%	区分	部位	厚さ(mm)	種類	敷砂層	・車路, 駐車場	20	砂	・歩行者用通路	30	フィルター層		100	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考	※小舗石(花こう岩) ・	・	・	珪砂	・うろこ張り ・	区分	種類	厚さ	備考	敷砂層	※砂 ・空練り珪砂	30		基層	・コンクリート版	70		・再生粗粒度アスファルト混合物(20)	50	
		種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考																																																																				
		※普通平板(N) ・透水平板(P) ・	※300角 ・	・60	※砂 ・珪砂	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し																																																																				
		敷砂層	・砂 ・空練り珪砂	・30																																																																						
		種類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm <sup>2</sup> )	横断面勾配	目地材	備考																																																																		
		※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P)	・車路・駐車場	80	5.0以上	2%	砂	色彩, 表面加工 ・標準品 ・																																																																		
			・歩行者用通路	60	3.0以上	1.5 ~ 2%																																																																				
		区分	部位	厚さ(mm)	種類																																																																					
		敷砂層	・車路, 駐車場	20	砂																																																																					
			・歩行者用通路	30																																																																						
フィルター層		100	川砂, 海砂又は良質な山砂 (75μmふるい通過量6%以下)																																																																							
種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考																																																																						
※小舗石(花こう岩) ・	・	・	珪砂	・うろこ張り ・																																																																						
区分	種類	厚さ	備考																																																																							
敷砂層	※砂 ・空練り珪砂	30																																																																								
基層	・コンクリート版	70																																																																								
	・再生粗粒度アスファルト混合物(20)	50																																																																								
	7 砂利敷き	<p>種別 (22.9.2)</p> <p>・A種(施工範囲: ・図示 ・通路 ・ ) ・B種(施工範囲: ・図示 ・建物周囲他 ・ )</p>																																																																								
	8 路面標示用塗料	<p>JIS K 5665(路面標示用塗料)による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>施工</th> <th>適用</th> <th>色</th> <th>幅(mm)</th> <th>塗布厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・1種</td> <td>常温</td> <td rowspan="2">液状</td> <td rowspan="2">・白 ・</td> <td>・150</td> <td>・1.0</td> </tr> <tr> <td>・2種</td> <td>加熱</td> <td>・100</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・3種1号</td> <td>熔融</td> <td>粉体状</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	・1種	常温	液状	・白 ・	・150	・1.0	・2種	加熱	・100	・	・3種1号	熔融	粉体状																																																					
種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)																																																																					
・1種	常温	液状	・白 ・	・150	・1.0																																																																					
・2種	加熱			・100	・																																																																					
・3種1号	熔融	粉体状																																																																								

章	項目	特記事項															
24 植栽工事	1 植栽地の確認等	(23. 1. 3) 土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 ・行う ・行わない 電気伝導度 (EC) の試験 ・行う ・行わない															
	2 植栽基盤の整備	(23. 2. 2, 4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>植栽</th> <th>工法</th> <th>有効土層の厚さ (cm)</th> <th>整備範囲</th> <th>土壌改良材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎樹木</td> <td>※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種</td> <td>樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※80 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)</td> <td>・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ◎図示 ・</td> <td>・ 適用する ◎適用しない</td> </tr> <tr> <td>※芝, 地被類</td> <td>※B 種 ・</td> <td>※20 ・</td> <td>・ 植栽部分 ・ 図示 ・</td> <td>・ 適用する ・ 適用しない</td> </tr> </tbody> </table> 植栽基盤の排水整備 ・ 設ける (※図示 ・ ) ・ 設けない	植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材	◎樹木	※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※80 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ◎図示 ・	・ 適用する ◎適用しない	※芝, 地被類	※B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない
	植栽	工法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材												
	◎樹木	※A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※80 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ◎図示 ・	・ 適用する ◎適用しない												
	※芝, 地被類	※B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない												
	3 植込み用土	(23. 2. 3) ※現場発生土の良質土 ・ 客土															
	4 土壌改良材	(23. 2. 3) ・ バークたい肥 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示 使用量 植栽基盤面積 1 m <sup>2</sup> あたり ( ・ 50L ・ ) ・ 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示 使用量 植栽基盤面積 1 m <sup>2</sup> あたり ( ・ 10L ・ ) 材料 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第 1 の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする															
	5 樹木	(23. 3. 2) 樹種, 寸法, 株立数等 ◎図示 ・															
	6 支柱材	(23. 3. 2, 3) 支柱材 ※丸太 (間伐材) ・ 真竹 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 形式 ◎図示 ・															
	7 幹巻き用材料	(23. 3. 2) 材料 ※幹巻き用テープ ・ わら及びこも															
8 芝張り	(23. 4. 2, 3) 種類 ※コウライシバ ・ ノシバ ・ 芝張りの工法 平地 ※目地張り ・ べた張り 法面 ・ 目地張り ※べた張り																
9 吹付けは種	(23. 4. 2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種子の種類</th> <th>発芽率</th> <th>種子の量 (g/m<sup>2</sup>)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※洋芝類 (採取後 2 年以内)</td> <td>※80%以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m <sup>2</sup> )	備考	※洋芝類 (採取後 2 年以内)	※80%以上			・							
種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m <sup>2</sup> )	備考														
※洋芝類 (採取後 2 年以内)	※80%以上																
・																	
10 地被類	(23. 4. 2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>樹種</th> <th>コンテ径</th> <th>単位面積当たりのコンテナ数</th> <th>芽立数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	樹種	コンテ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数	・				・							
樹種	コンテ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数														
・																	
・																	

章	項 目	特 記 事 項
23 植栽及び屋上緑化工事	11 新植、移植樹木、 芝等の枯補償	<p style="text-align: right;">(23.3.4, 6) (23.4.7)</p> 新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間 ※引渡しの日から1年 ・無し 移植樹木の枯損処理を行う期間 ※引渡しの日から1年 ・無し

## 特記仕様書（電気設備工事）

### I 工事概要

1. 工事名 H30 石岡ステーションパーク利活用店舗新設工事
2. 工事場所 石岡市 国府一丁目 地内
3. 敷地面積 4,225.1445 m<sup>2</sup>
4. 建物概要

建物名称	石岡ステーションパーク		
構造	PS造一部RC造	造	造
階数	地上 2 階	地上 階	地上 階
建築面積	1,716.895 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
延べ面積	1,811.575 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>

### 5. 諸経費等の調整について

H29 石岡ステーションパーク第 4 期改修工事（建築）の受注者が本工事を落札した場合、諸経費を調整することがあります。

- ・
- ・

### II 電気設備工事仕様

#### 1. 共通事項

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は次による。 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(平成 28 年版)」(以下「標準仕様書」という。)「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(平成 28 年版)」(以下「改修標準仕様書」という。)及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(平成 28 年版)」(以下「標準図」という。)

#### 2. 特記事項

- (1) 項目は、番号に□の付いたものを適用する。
- (2) 特記事項で※印, ◎印, ・印の適用は、次による。
  - ◎印の付いたものを適用する。
  - ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
  - ◎印と※印の付いた場合は、共に適用する。
  - ・印の付いたものは適用しない。
- (3) 特記事項に記載の( )内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。
- (4) 建築工事、機械設備工事は、別記各工事の特記仕様書による。

### Ⅲ 特記仕様

## 第1章 一般共通事項

#### 1. 技術者等

建設工事請負契約書に基づく現場代理人及び技術者(主任技術者・監理技術者・専門技術者)を選定する。

#### 2. 施工従事者

次の職種別施工従事者を適用する。

- ◎ 電気工事士 ・ 消防設備士 ・ 電気通信工事担任者 ◎ 施工管理技士
- ・ 特殊電気工事資格者

#### 3. 工事实績情報の登録(CORINS) ※ 適用する (付記事項参照)

#### 4. 設計図書の優先順位 (1)現場説明に対する質問回答書 (2)現場説明書 (3)特記仕様書 (4)図面 (5)標準仕様書, 改修標準仕様書及び標準図

#### 5. 機材等

(1)本工事に使用する機材等は、標準仕様書、設備機材等評価名簿(平成27年度版(一社)公共建築協会)によるもの又はこれらと同等以上のものとする。ただし、同等以上のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。

(2)「茨城県リサイクル建設資材評価認定制度」で認定されたリサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。

(3)国等による環境物品等の推進等に関する法律(グリーン購入法)に基づき、県が定める「特定調達品目」について、環境負荷を低減できる材料を選定するよう努めるものとする。

(4)上記の条件を満たすものが市産品で確保できる場合においては、その優先使用に努めるものとする。

#### 6. 機材等の検査

機材は種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。

#### 7. 機材等の試験

設計図書に定められた場合、又は試験によらなければ設計図書に定められた条件に適合することが証明できない場合には、試験を実施する。JIS, JEC, JEM等に定めのある場合は、これによる。試験完了後、試験成績表を監督員に提出する。監督員が必要と認める場合には、試験に立ち会う。

#### 8. 建設発生土の処理等

- ※ 構内適正処理 (・構内の指示する場所に敷き均し ・構内の指示する場所にたい積)
- ・ 構外搬出適正処理 (付記事項参照)

#### 9. 発生材の処理等 (1.3.9)

- ・ 発注者に引き渡しを要するもの( )
- ※ 構外搬出とし、関係法令に準拠し適切に処理し、監督員に報告する。
- ・ 特別管理産業廃棄物(・PCB 機器 )
- ※ 産業廃棄物を運搬する際は、車両の両側面に運搬車である旨の表示をし、関係書類を携帯すること。
- ※ 撤去した照明器具の安定器は、PCB を含まないことを確認のうえ、処理する。
- ※ 再資源化するもの ・ 照明器具 ・ 蛍光ランプ ・ HID ランプ ・ 電線、ケーブル ・ 配電盤類
- ・ その他( )

#### 10. 下請負人通知

建設工事請負契約書に基づく下請負人通知書1部を、市と請負契約を締結した日から原則として30日以内、その後の下請け契約に係るものは、契約締結の日から10日以内に提出するものとする。



11. 監督員事務所 ※ 設けない ・ 設ける( 号), 注( 号)は建築工事共通仕様書による。

12. 官公署その他への届出手続等 (1.1.3)

工事の着手, 施工, 完成に当たり, 関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査においては, その検査に必要な資機材, 労務等を提供する。

13. 施工図等の取り扱い

施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は, 発注者に委譲するものとする。

14. 提出書類

建設業法等で規定された関係書類のほか, 次の書類を提出する。

◎ 工事实績情報の登録内容確認書の写し(請負代金の額が500万円以上となる工事)

※ 火災保険等に加入したことを証明できる書類

◎ 建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書(請負代金の額が500万円以上となる工事)

◎ 実施工程表(全体工程, 月間工程, 3週工程)

◎ 施工計画書(請負金額500万円未満の場合は, 監督員の指示による。)

※ 施工体系図(提出したものを工事関係者及び公衆が見やすいところに掲示すること)

※ 施工体制台帳(提出したものを現場に備え置くこと)

◎ 施工図

◎ 使用機材メーカー一覧表

◎ 機器製作図

※ 完成写真(A4版)支払用

◎ その他 監督員が必要と認め, 指示した書類

15. 完成図書類

次の書類を透明書類ケースに入れて提出する。

※ 工事写真 CD-R

撮り方は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真の撮り方(改訂第3版)建築設備編」を参考とする。

※ 完成図

※ 白焼製本 (A1) 2部

※ 縮小版(A3)製本 ◎ 2部 ・ 3部

※ 完成図 JWCAD・SXF・PDF データ(CD-R 又は DVD-R) 1枚

※ CD-R 又は DVD-R 1枚

完成図面(JWW・SXF・PDF形式), 完成写真(JPEG形式)を収録したもの。

※ 完成図書 A4ファイルに次の書類を綴じ, 目次を付けること。

(1) 使用機材メーカー一覧表

(2) 作業員名簿及び施工従事者資格証の写し

(3) 官公署等届出書の写し

(4) 機器完成図, 検査合格証, 取扱説明書

(5) 機器の設計及び施工に関する計算書

(6) 機器の社内検査成績表

(7) 現地試験成績表 付表

(8) 電気設備工事チェックリスト (社)茨城県電設業協会

(9) 瑕疵2年保証書

※ 産業廃棄物処理関係書類

(処理フロー図(種類, 数量), 産業廃棄物管理票 (マニフェスト) の写し, 委託契約書の写し, 許可証の写し, 運搬経路図, 運搬車両一覧表及び車検証, 写真(積込, 場外搬出時, 処分場搬入時, 荷下状況) )

付表 現地試験成績表

電灯・動力設備工事	電圧測定表(分電盤等)
	絶縁抵抗測定表
	接地抵抗測定表
	照度測定表
	コンセント極性試験表
	相回転測定表
	シーケンス試験
	機器締付けチェック表
受変電設備工事	耐電圧試験表
	絶縁抵抗測定表
	接地抵抗測定表
	継電器特性試験表
	シーケンス試験
	機器締付けチェック表
発電設備工事	発電設備試験表
構内情報通信網設備工事	構内情報通信網設備試験表
構内交換設備工事	構内交換設備試験表
放送設備工事	拡声設備試験表
テレビ共同受信設備工事	テレビ・ラジオ電界強度測定表
	画質評価写真
自動火災報知設備工事	消防設備試験表
自動閉鎖設備工事	防火戸自動閉鎖試験表
その他	監督員の指示

※ 保守点検に必要な工具

16. 工事用電力・水・その他

本工事に必要な工事用電力, 水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は受注者の負担とする。

17. 他工事との取り合い

- |  |       |      |
|--|-------|------|
| (1) 鉄筋コンクリートの梁, 床, 壁貫通のスリーブ補強            | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (2) 埋込照明器具天井切り込み及び補強                     | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (3) 開口部補強(分電盤, 端子盤等)                     | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (4) 点検口                                  | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (5) 自動火災報知設備の総合盤箱体<br>(ただし, 消火栓箱組み込みの場合) | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (6) 換気扇                                  | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (7) 防火シャッター自動閉鎖装置                        | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (8) 防火扉自動閉鎖装置(リリース)                      | ・ 本工事 | ※ 別途 |
| (9) 電気室, 発電機室等のピット                       | ・ 本工事 | ※ 別途 |

18. 埋蔵文化財の調査

文化財保護法に基づく周知の埋蔵文化財包蔵地内

- (1) 掘削作業に際しては, 工事立会, 試掘確認調査等を要する。施工にあたっては, あらかじめ, 工事

日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、文化財担当課と協議すること。

(2) 掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。

## 第2章 施工共通事項

1. 配管の支持 (2. 2. 3) (2. 3. 3) (2. 4. 3)  
隠ぺい配管の支持間隔は、金属管では2m以下、合成樹脂管では1.5m以下とする。ただし、合成樹脂管をコンクリート埋設とする場合は1m以下とする。また、露出金属管配線で人が容易に触れるおそれのある場所については、支持金物に保護キャップを取り付ける。
2. 管の接続 (2. 2. 5)  
管相互の接続は、カップリング又はねじなしカップリングを使用し、ねじ込み、突合せ及び締付けを行う。また、管とボックス、分電盤等との接続がねじ込みによらないものには内外面にロックナットを使用して接続部分を締付け、管端にはブッシングを設ける。
3. 金属管の接地 (2. 2. 5)  
配管とボックス、配分電盤の間にボンディングを施し、電氣的に接続する。ただし、ねじ込み接続となる箇所及びねじなし丸形露出ボックス、ねじなし露出スイッチボックス等に接続される箇所は省略することができる。ボンディング線の太さは、配線用遮断器定格電流100A以下は2.0mm以上、225A以下は5.5mm<sup>2</sup>以上、600A以下は14mm<sup>2</sup>以上とする。
4. 他配管との離隔  
金属管、ダクト、ケーブルは水管、ガス管と接触しないように施設する。
5. 空配管  
分電盤及び端子盤から天井裏まで空配管25mm相当を2本立ち上げる。
6. 呼び線  
長さ1m以上の入線しない電線管には電線太さ1.2mm以上の被覆鉄線を挿入する。
7. 配管の養生及び清掃 (2. 2. 6)  
管に水気、じんあい等が侵入しがたいようにし、コンクリート埋込となる場合は、管端にパイプキャップ、キャップ付きブッシング等を用いて養生する。  
管及びボックスは、配管完了後速やかに清掃する。また、コンクリートに埋設した場合は、型枠取外し後、速やかに管路の清掃、導通確認を行う。
8. プレート  
※新金属 ・ ステンレス製 ・ 樹脂製
9. 回路番号  
専用コンセントにはプレートに電圧、盤名、回路番号を彫刻し墨入れ表示する。
10. 配管の塗装  
金属管露出配管は指定色塗装とする。(塗装工程を撮影すること。)  
(1) エッチングプライマー処理 1回 (下処理)  
(2) 調合ペイント(JIS K 5516 合成樹脂調合ペイント) 2回 (上塗り)  
※屋内の施工に使用する塗料は、ホルムアルデヒド等放散量区分F☆☆☆☆品とする。
11. ケーブルのふ設 (2. 10. 1)  
(1) ケーブルラック配線  
水平部では3m以下、垂直部では1.5m以下の間隔ごとに固定する。ただし、トレー形ケーブルラック水平部の配線及び二重天井内におけるケーブルラック水平部の配線はこの限りでない。  
電力ケーブルは積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの俵積み、分電盤2次側のケーブル及び積み重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(2) 保護管(金属線びを含む)へのふ設

垂直にふ設する管路内のケーブルは、支持間隔を6m以下として固定する。

(3) 金属トラフへのふ設

ケーブルは、整然と並べ、垂直部では1.5m以下の間隔ごとにケーブル支持物に固定する。

電力ケーブルは、積み重ねを行ってはならない。ただし、単心ケーブルの表積み、分電盤2次側のケーブル及び積み重ねるケーブルの許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響がない場合はこの限りでない。

(4) ちょう架配線

径間は、15m以下とする。

ちょう架は、ケーブルに適合するハンガ、バインド線、金属テープ等によりちょう架し、支持間隔は0.5m以下とする。

(5) 二重天井内配線

ケーブルを支持してふ設する場合は、支持間隔を2m以下とする。

ケーブルを集合して束ねる場合は、許容電流について必要な補正を行い、配線の太さに影響を与えない範囲で束ねる。

ケーブルを支持せずどころがし配線とする場合は、天井下地材及び天井材に過度の荷重をかけないものとし、ケーブルの被覆を天井下地材、天井材等で損傷しないように、整然とふ設する。

また、弱電流電線並びに水管、ガス管及びダクト等と接触しないようにふ設する。

(6) 二重床内配線

どころがし配線とする。

ケーブルの接続場所は、上部の床が開閉可能な場所とし、床上から接続場所が確認できるようマーキングを施す。

弱電流電線と接触しないようセパレータ等で処置を施す。

(7) 垂直ケーブル配線

つり方式は、プーリングアイ方式又はワイヤグリップ方式とする。

ケーブル及びその支持部分の安全率は、4以上とする。

各階ごとに振止め支持を施す。

ワイヤグリップ方式の支持間隔は、6m以下とする。

(8) 造営材沿い配線

ケーブルを造営材に沿わせてふ設する場合の支持間隔は、下表のとおりとし、ケーブル支持材は、ケーブル及びそのふ設場所に適合するサドル、ステーブル等を使用する。

ふ設区分	支持間隔(m)
造営材の側面又は下面において水平方向にふ設するもの	1以下
人が触れるおそれがあるもの	1以下
その他の場所	2以下
ケーブル相互並びにケーブルとボックス及び器具との接続箇所	接続箇所から0.3以下

12. ケーブルラックのふ設 (2.10.2)

ケーブルラックの水平支持間隔は、鋼製では2m以下、その他については1.5m以下とする。

天井又はスラブより支持をとる場合は、振止めを施す。

13. ケーブルの余長 (2.12.5)

高圧・低圧及び弱電ケーブルは、要所、引込口及び引出口近くのマンホール、ハンドホール内で1ターン程度の余裕をもたせる。

14. 標識シート(埋設シート) (2. 12. 4)  
 地中配線(高圧・低圧・弱電)には折り込み式の標識シートを地表下 0. 3m~0. 5m に種別毎に 2 条並行して埋設する。(材質: 高密度ポリエチレン平織, 文字付)

15. 回路種別の表示 (2. 2. 10)  
 盤内の外部配線, プルボックス, ハンドホール内, EPS, 点検口付近, その他要所の配線には, 表示札(受注者名, 回路の種別, 電線種類, サイズ, 行先, 施工年月)を取り付ける。材料については合成樹脂製又はファイバ製とする。ただし, キュービクル式配電盤内, 開放型電気室内, ハンドホール内及び設計図書により指定した箇所の表示札はプレートに彫刻し, 墨入れ表示とする。

16. ハンドホール (2. 12. 3)  
 建物・配電盤・ボックス類側の配管接続部にはネオシールを充填し, 湿気の浸入を防ぐ。また, 保守点検に必要な工具類としてハンドホールキーを 1 組納品する。

17. EM 電線及び EM ケーブルの耐紫外線について  
 EM-IE, EM-CE, EM-CET, EM-EEF, EM-EE, 及び EM 弱電電線等及び各ケーブルの外装については耐紫外線性能を有するものとする。

18. 電線の色別 (2. 1. 3)  
 ビニル電線は, 原則として下表により色別する。ただし, これにより難しい場合は端部を色別する。なお, 接地線は緑, 緑/黄又は緑/色帯とする。

電気方式	赤	白	黒	青
三相 3 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	第 3 相
三相 4 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	第 3 相
单相 2 線式	第 1 相	接地側 第 2 相	非接地 第 2 相	—
单相 3 線式	第 1 相	中性相	第 2 相	—
直流 2 線式	正極	—		負極

19. 絶縁抵抗 (2. 18. 2)  
 低圧配線の絶縁抵抗は, 測定電圧 500V (好ましくない場合を除く) で測定し, 開閉器等で区切ることのできる電路ごとに 5MΩ 以上とする。ただし, 機器が接続された状態では 1MΩ 以上とする。

20. 接地工事 (2. 13. 10) (2. 13. 11)  
 接地極の上端は, 地下 0. 75m 以上の深さに埋設する。接地線は, 地表面下 0. 75m から地表上 2. 5m までの部分を硬質ビニル管で保護する。(C 種・D 種接地線は金属管を用いることができる。) D 種接地 (ELB 用) の接地線は緑/黄とする。

21. 接地抵抗測定用補助極  
 接地抵抗測定用補助極を設置し, 接地端子盤又は端子台に測定用端子を設ける。補助極の埋設部には, コンクリート製又は鉄製埋設標を設置する。

22. 各接地と雷保護設備, 避雷器の接地との離隔 (2. 13. 13)  
 接地極及びその裸導線の地中部分は, 雷保護設備, 避雷器の接地極及びその裸導線の地中部分から 2m 以上離す。

23. 接地極埋設標 (2. 13. 14)  
 A 種, B 種, C 種接地極の埋設位置の近くに接地極埋設標(黄銅板製厚さ 1. 0mm 以上, 140mm×90mm 以上, 文字は腐食加工)を設け埋設位置, 深さ, 埋設年月, 接地種別, 接地抵抗値を刻記する。接地極の埋設部には, コンクリート製又は鉄製埋設標(D 種接地も適用)を設置する。

24. 接地抵抗値

A種、B種、C種は電気設備技術基準の解釈第19条に従う。また、D種接地抵抗値は50Ω以下とする。

25. 接地極

A種、B種、C種は銅板(900mm×900mm×1.5mm厚)及び補助棒は14φ×1,500mmを2本以上とし、それぞれ規定値以下とする。D種は14φ×1,500mmで2連結以上とする。

26. 盤類

(1.8.8)

分電盤、制御盤、キュービクル式配電盤、端子盤等は鋼板製又はSUS製とし、板厚は設計図書に特に指定がない場合は1.6mm以上とする(SUS製の分電盤等の板厚は1.2mm以上とする。)。下地処理(りん酸塩処理)を行ったのち、下塗りは電着塗装(SUS製の場合は不要)、仕上げは指定色(参考 屋内：2.5Y9/1、屋外：5Y7/1)焼付塗装とする。(製造者、製造年月、受注者名、受注者電話番号を表示した銘板を取り付けること。)

27. ケーブルの防火区画等の貫通

(2.1.10)(2.1.11)

ケーブルが防火区画を貫通する場合は、関係法令に適合したもので、貫通部に適合するものとする。防火区画貫通の耐火処理工法については、耐火性能を証明するものを監督員に提出する。

28. プルボックス

防水型はステンレス又はステンレス指定色メラミン焼付塗装を原則とする。また、隠ぺい部のふたの止めねじは、ちょうねじとする。屋外取付の際は、設置面周辺に防水コーキングを施す。

29. 機器取付高さ

機器の取付高さは、図面に記載のない場合は次の表による。

	名 称	レベル	取付高さ(mm)
電	分電盤	床上～中心	1,500
	スイッチ(一般)	床上～中心	1,300
灯	スイッチ(多機能トイレ)	床上～中心	1,100
	コンセント(一般)	床上～中心	300
	コンセント(和室)	床上～中心	150
	コンセント(台上)	台上～中心	150
	ブラケット(一般)	床上～中心	2,100
	ブラケット(踊場)	床上～中心	2,500
	ブラケット(鏡上)	鏡上端～中心	150
	避難口誘導灯(壁付・壁掛)	床上～下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
	動	制御盤	床上～中心
手元開閉器		床上～中心	1,500
力	操作釦	床上～中心	1,300
電	端子盤	床上～下端	500
	保安器箱	床上～下端	500
話	ボックス(一般)	床上～中心	300
	ボックス(和室)	床上～中心	150
	MDF	床上～上端	500
火	火報受信機(複合盤), 副受信機	床上～操作部	800～1,500

災 報 知	機器収納盤	床上～操作部	800～1,500
	発信機	床上～操作部	800～1,500
	警報ベル	天井～操作部	(天井高×0.9)
	表示灯	天井～操作部	(天井高×0.8)
そ の 他	呼出ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	900, (400)
	復帰ボタン(多機能トイレ)	床上～中心	1,300
	廊下表示灯(多機能トイレ)	床上～中心	2,000

注1)ユニバーサルデザインを適用する場合は「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例施設整備マニュアル」を参考とする。

注2) (天井高) × 0.9 及び (天井高) × 0.8 は天井高が 2,500～3,000mm の場合に適用する。天井高 3,000mm 以上の場合及び上記取付高さにおいて、機器の使用に支障が生じる場合は監督員と協議すること。

注3) 呼出ボタン (多機能トイレ) の取付高さ(400)は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

### 30. 配管等の耐震施工

(2.1.13)

横引き配管等は、地震力に耐えるよう下表により標準図(電力35)のS<sub>A</sub>種、A種又はB種耐震支持を行う。鉛直震度は水平震度の1/2とし同時に働くものとする。ただし、建築の構造体が免震構造、制震構造等である場合は、特記による。

なお、呼び径が82mm以下の単独配管、周長800mm以下の金属ダクト、幅400mm未満のケーブルラック、幅400mm以下の集合配管、定格電流600A以下のバスダクト及びつり材の長さが平均0.2m以下の配管等の場合は、耐震支持を省略できる。

設置場所	耐震安全性の分類					
	特定の施設			一般の施設		
	水平震度	適用		水平震度	適用	
電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)		ケーブルラック	電気配線(金属管・金属ダクト・バスダクトなど)		ケーブルラック	
上層階 屋上及び塔屋	2.0	12m以内ごとにS <sub>A</sub> 種耐震支持	6m以内ごとにS <sub>A</sub> 種耐震支持	1.5	12m以内ごとにA種耐震支持	8m以内ごとにA種又はB種耐震支持
中間階	1.5	12m以内ごとにA種耐震支持	8m以内ごとにA種耐震支持	1.0	12m以内ごとにA種又はB種耐震支持	12m以内ごとにA種又はB種耐震支持
1階及び地下階	1.0			0.6		

注) (1) 設置場所の区分は、配管等を支持する床部分により適用し、天井面より支持する配管等は、直上階を適用する。

(2) 上層階は、2から6階建の場合は最上階、7から9階建の場合は上層2階、10から12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。

(3) 中間階は、1階及び地下階を除く各階で上層階に該当しない階とする。

### 31. 機器等の耐震施工

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説(平成8年版)」（建設大臣官房官庁営繕部監修）及び「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（国土交通省国土技術政策



総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。

ア 設計用水平地震力

機器の重量【kN】に、設計用水平震度を乗じたものとする。なお、設計用水平震度は下表による。

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階, 屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)
地下階, 1階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)

注) ( )内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。

重要機器 ・ 配電盤等 ・ 発電装置 ・ 交流無停電電源装置 ・ 直流電源装置  
 ・ 自動火災報知受信機 ・ 構内交換装置 ・ 中央監視制御装置

水槽類の設計用水平震度

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階, 屋上及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
地下階, 1階	1.5	1.0	1.0	0.6

注) 重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す。

また、水槽類にはオイルタンク等を含む。

イ 設計用鉛直地震力

設計用水平地震力の1/2とし、設備機器の重心に水平地震力と同時に働くものとする。

32. 施工調査

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督員に報告を行うこと。

33. 既存躯体への穿孔

穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工すること。

## 第3章 電気方式

### 1. 高圧

- ・ 三相3線式 6,600V 50Hz

### 2. 低圧

- ※ 单相3線式 100/200V 50Hz
- ・ 单相2線式 ※ 100V ※ 200V 50Hz
- ※ 三相3線式 ※ 200V ・ 415V 50Hz
- ・ 三相4線式 240/415V 50Hz
- ・ 直流2線式 ・ 100V

## 第4章 電灯設備

### 1. 照明器具

- ・ 蛍光灯器具

32W以下 Hf インバータ式

◎LED照明器具

### 2. 連結器具

照明器具2連結以上の電線接続はEM-EEFケーブル3心を使用し、1線は接地線とする。

### 3. 照明器具取付

(2.14.3)

照明器具32W以上など質量の大きい照明器具は、スラブその他構造体に呼び径9mm以上のつりボルト2本以上で堅固に支持する。ただし、器具をやむを得ず天井下地材より支持する場合は監督員と協議する。また、耐震上必要な場合は、ねじ、ワイヤ等により振れ止めを施す。

### 4. 照明器具の接地

(2.13.7)

FHF32形以上のHf蛍光灯器具、32W以上のコンパクト形蛍光ランプを用いる照明器具、HID灯等の放電灯器具、対地電圧が150Vを超える放電灯以外の器具、防水器具及び湿気や水気のある場所で人が容易に触れるおそれのある場所に取付ける器具にはD種接地工事を施す。ただし、二重絶縁構造のもの、対地電圧150V以下の放電灯を乾燥した場所に施設する場合は、接地工事を省略することができる。

LED照明器具の金属製部分にはD種接地工事とする。ただし二重絶縁構造のもの、対地電圧150V以下の放電灯を乾燥した場所に施設する場合は、接地工事を省略することができる。

## 第5章 動力設備

### 1. 漏電遮断器

電動機の定格電流が50A以下については定格感度電流は30mA以下、動作時間は0.1秒以内、50Aを超えるものについては定格感度電流100mA~200mA、動作時間は0.1秒以内とする。(動力については15kW以上は100mA~200mAとする。)

### 2. 電流計

電動機用は、延長目盛電流計とし、赤指針付きとする。

## 第6章 受変電設備

1. 形式
  - ・ 開放形      ・ 屋内キュービクル式      ※ 屋外キュービクル式
  - キュービクル式の場合, 高圧部が露出する部分は, 透明保護カバーを設ける。
2. 交流遮断器
  - ※ 真空遮断器 (12.5kA)      ・ ガス遮断器
  - ※ 手動ばね式      ・ 電動ばね式      ・ 電磁操作方式
3. 断路器
  - 三極単投断路器(避雷器用は除く。)
4. 高圧負荷開閉器
  - ※ 手動操作式      ・ 遠方手動操作式      ・ 電動操作式
  - 相間及び側面に絶縁バリアを設ける。
5. 高圧引込開閉器
  - 過電流蓄勢トリップ付地絡トリップ形で制御電源用変圧器を内蔵とする。
  - ※ 柱上用気中開閉器 (VT, LA 内蔵)      ・ 地中線用気中開閉器 (VT 内蔵)
6. 変圧器
  - ※ 連続定格自冷式 (※ 油入式      ・ モールド式      ・ H種乾式)
  - ダイヤル式温度計, 防振ゴム, 振止めを設ける。
7. 高圧進相コンデンサ
  - ※ 油入式      ・ モールド式
8. 直列リアクトル
  - ※ 油入式      ・ モールド式      (※6%      ・ 13%)
9. 避雷器
  - ※ 酸化亜鉛型      ・ 弁抵抗型
10. 計器類
  - 高圧盤 ※電圧計 ※電流計 ※力率計 ※電力計
  - 低圧盤 ※最大需要電流計 (※2分デマンド ・ 5分デマンド ・ 10分デマンド)
  - 電流計は多機能型デジタル(階級 1.5 級以上)とする。
  - 警報接点付, 需要指示値, 最大需要指示値を有する。
11. デマンド警報装置
  - ※無線通信方式      ・ 有線通信方式
12. 標識・表示
  - ※ 立入り禁止      ※ 高圧危険

## 第7章 電力貯蔵設備

### 第1節 直流電源装置

防災電源(消防法による非常電源, 建築基準法による予備電源)となる直流電源装置は, 消防法及び建築基準法に適合したもの又は, 蓄電池設備認定委員会((一社)日本電気協会)の認定証票が貼付されたものとする。

1. 設置方式      ※ キャビネット式      ・ キャビネット式以外
2. 換気方式      ※ 自然換気      ・ 機械換気
3. 蓄電池  
据置鉛蓄電池

(2.1.6)

	構造	極板構造	シールの種類	適用規格	
・	ベント形	クラッド式	—	JIS C 8704-1	
・		ペースト式		据置鉛蓄電池	
・	シール形	クラッド式	触媒栓式		
・		ペースト式			
・		ペースト式	制御弁式	JIS C 8704-2	MSE
・			制御弁式据置鉛蓄電池	長寿命MSE	

注)長寿命MSEはJIS C 8704-2によるほか, JIS C 8702-1 附属書 1(参考)「高温加速寿命試験」を行い,

期待寿命を13年以上有するものとする。

## アルカリ蓄電池

	構造	極板構造	シールの種類	適用規格
・	シール形	ポケット式	触媒栓式	JIS C 8706
・		焼結式		据置ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
・		焼結式	陰極吸収式	JIS C 8709 シール形ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池

## 第2節 交流無停電電源装置(UPS)

1. 設置方式 ※ キャビネット式 ・ キャビネット式以外
2. 換気方法 ・ 自然換気 ※ 機械換気
3. 蓄電池

「第1節 直流電源装置 3. 蓄電池」による他 簡易形は下表による。

呼称	適用規格
蓄電池	JIS C 8702-1 小形制御弁式鉛蓄電池-第1部
	JIS C 8702-2 小形制御弁式鉛蓄電池-第2部
	JIS C 8702-3 小形制御弁式鉛蓄電池-第3部

4. 逆変換装置(インバータ) ・ トランジスタ式 ※ サイリスタ式
5. 回路方式 ・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式  
・ 常時商用給電方式

# 第8章 発電設備

## 第1節 燃料系発電装置

1. 形式 ・ キュービクル式 ・ 簡易形 ・ オープン式
2. 時間定格 ・ 連続 ・ 1時間 ・ 10時間
3. 原動機 ・ ディーゼル ・ ガスエンジン ・ ガスタービン
4. 始動方式 ・ 10秒以内電圧確立 ・ 40秒以内電圧確立
5. 冷却方式 ・ ラジエータ式 ・ 循環放流式 ・ 貯水槽循環方式
6. 始動方式 ・ 電気始動 ・ 空気始動
7. 直流電源装置 ・ 鉛蓄電池 ・ アルカリ蓄電池
8. 燃料 ・ 灯油 ・ 軽油 ・ A重油
9. 認定 ※ 消防法及び建築基準法に適合したもの又は、(社)日本内燃力発電設備協会認定票が貼付されたものとする。
10. 電圧 ・ 高圧 ・ 低圧
11. 騒音 ・ 超低騒音形 ・ 低騒音形 ・ 一般形
12. 保護形式 ・ 保護形とする。
13. 絶縁 ・ 耐熱クラスは低圧においてはE以上、高圧においてはB以上とする。
14. 燃料小出槽 ・ 鋼板製、外面はさび止めペイント2回塗りのうえ調合ペイント2回塗りとする。  
・ ステンレス製

## 第2節 太陽光発電装置

(2.4.1)

太陽電池アレイ及び接続箱の据付けは、建築基準法施行令に定めるところによる風圧力に耐えるものとし、自重、積雪及び地震その他の振動及び衝撃に対して、耐える構造とする。

1. 太陽電池モジュール ・シリコン系(・結晶型 ・薄膜型) ・化合物系
2. パワーコンディショナ 太陽電池出力の監視制御等により、全自動運転可能なものとする。  
・逆潮流あり ・逆潮流なし  
・単独運転検出機能あり ・単独運転検出機能なし
3. 系統連系保護装置 製造者標準とする。

## 第9章 通信・情報設備

### 第1節 構内情報通信網設備

1. 機材 電気通信回線設備に接続する端末機器は、電気通信事業法に適合したものとする。
2. 配線等 盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。

### 第2節 構内交換設備

1. 機材 電気通信回線設備に接続する端末機器は、電気通信事業法に適合したものとする。
2. 配線等 盤内等において、通信・信号配線と交流電源配線は、セパレータ等を用いて直接接触しないようにする。
3. 局線応答方式  
※ダイヤルイン方式 ・ダイレクトインダイヤル方式 ・ダイレクトインライン方式  
・中継台方式
4. 電話機等  
※一般電話機 ※多機能電話機 ・IP電話機 ・PHS

### 第3節 拡声設備

1. スピーカ 壁面付型は2点で強固に取付ける。  
非常放送設備兼用スピーカは日本消防検定協会の認定に合格したものとする。
2. 配線等 非常放送設用の配線は消防法等に適合したものとする。

### 第4節 テレビ共同受信設備

1. 機材 地上デジタル放送対応とし、アンテナ等は各地域の状況に合わせた機材を使用する。
2. 配線等 原則として、途中接続は行わないこと。

### 第5節 自動火災報知設備

1. 機材 受信機、中継器、発信機、感知器については日本消防検定協会又は登録検定機関の行う検定に合格したものとする。
2. 配線等 消防法等に適合したものとする。

## 特記仕様書（機械設備工事）

### I 工事概要

- 1 工事名 H30 石岡ステーションパーク利活用店舗新設工事
- 2 工事場所 石岡市国府一丁目地内
- 3 敷地面積 4,225.1455 m<sup>2</sup>
- 4 工事範囲
- 5 建物概要

(全体)

建物名称	石岡ステーションパーク	(店舗工事)	
構造	PS造 一部 RC造	木造 一部 造	造 一部 造
階数	地上2階 地下 階	地上 1階 地下 階	地上 階 地下 階
建築面積	1,716.895 m <sup>2</sup>	84.93 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>
延べ面積	1,811.575 m <sup>2</sup>	84.93 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>

(建物毎の各階床面積)

建物名称	地下1階	1階	2階	3階	4階	5階	計

### 6 諸経費等の調整について

H29 石岡ステーションパーク第4期改修工事（建築）の受注者が本工事を落札した場合、諸経費を調整することがあります。

---

(H15. 6. 1 改訂)	(H20. 6. 20 改訂)	(H28. 4. 25 改訂)
(H15. 9. 1 改訂)	(H21. 6. 1 改訂)	(H29. 4. 25 改訂)
(H16. 6. 1 改訂)	(H23. 6. 1 改訂)	
(H17. 5. 15 改訂)	(H24. 6. 1 改訂)	
(H17. 10. 1 改訂)	(H25. 5. 15 改訂)	
(H18. 5. 15 改訂)	(H26. 5. 15 改訂)	
(H19. 7. 1 改訂)	(H27. 5. 15 改訂)	

## Ⅱ 機械設備工事仕様

### 1 共通事項

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」（平成28年版）（以下「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）」（平成28年版）（以下「改修標準仕様書」という。）による。

### 2 特記事項

- (1) 項目は、番号に□のついたものを適用する。
- (2) 特記事項で※印、・印のある場合の適用は、下記による。
  - ※印を適用する。
  - ・印のついたものは適用しない。
- (3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該表及び当該図を示す。
- (4) 建築工事、電気設備工事は、別記各工事の特記仕様書等による。

### Ⅲ 特記仕様

## 第1章 一般共通事項

#### 1 適用基準等

- ※ 「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕設備部監修 平成28年版）
- ※ 「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成28年版）
- ※ 「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成28年版）
- ※ 「営繕工事写真撮影要領（平成24年版）同解説 工事写真の撮り方（建築設備編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

#### 2 技術者等

建設工事請負契約書及び茨城県建設工事施工適正化指針に基づき、現場代理人及び技術者（主任技術者・監理技術者・専門技術者）を配置する。

#### 3 技能士等

- ・ 適用する
- ・ 適用しない (1.5.2)
- ・ 配管技能士
- ・ 熱絶縁施工技能士
- ・ 冷凍空気調和機器施工技能士
- ・ 建築板金技能士
- ・ 計装士

#### 4 電気保安技術者

- ・ 適用する
- ・ 適用しない (1.3.2)

#### 5 工事実績情報の登録

- ※ 適用する（付記事項参照）

#### 6 設計図書優先順序

- (1) 質問回答書
- (2) 現場説明書
- (3) 特記仕様書
- (4) 図面
- (5) 標準仕様書及び改修標準仕様書

#### 7 監督員事務所

- ※ 設けない
- ・ 設ける（種別 ・ 1号 ・ 2号 ・ 3号）

#### 8 機器及び材料

(1) 本工事に使用する機器及び材料（以下（機材）という。）は、設計図書に規定するもの、機械設備機材等一覧表（茨城県土木部営繕課）によるもの及びこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。

なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、（一社）公共建築協会発行「建築材料・設備機材等性能評価事業 設備機材評価名簿（電気設備機材・機械設備機材）平成28年版」による。

(2) 茨城県リサイクル建設資材評価認定制度で認定されたリサイクル建設資材については、茨城県リサイクル建設資材率先利用指針により率先利用に努めるものとする。

(3) 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）及び茨城県環境保全率先実行計画（県庁エコ・オフィスプラン）に基づき、県が定める「特定調達品目」について環境負荷を低減できる材料を選定するよう努めるものとする。

(4) 上記の条件を満たすものが、県産品で確保できる場合には、その優先使用に努めるものとする。

なお、県産材とは、「茨城県内で生産されたもの、又は加工し製品化されたもの」とする。

#### 9 機材の検査等

検査及び試験を必要とする機材等は、標準仕様書によるほか下記による。

(1) 機材は種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、JISマーク等が表示された機材で所要の品質があることが確認でき設計図書に適合するものは、監督員の承諾を受けて検査を省略することができる。

(2) 設計図書に定められた場合、又は試験によらなければ設計図書に定められた条件に適合することが証明できない場合には、試験を実施する。試験方法は、JIS、SHASE-S等に定めがある場合は、それらによる。試験完了後、試験成績表を監督員に提出する。監督員が必要と認める場合には、試験に立ち会う。

#### 10 建設発生土の処理等



- ※ 構外搬出適切処理 ・ 構内の指示する場所に敷き均し ・ 構内の指示する場所にたい積
- ・ 構外搬出指定場所 ( ) 地内 ・ 敷き均し ・ たい積 (付記事項参照)

**11 発生材の処理等** (1.3.9)

- ※ 構外搬出とし、関係法令に準拠して適切に処理し、監督員に報告する。
- ・ 引き渡しを要するもの ( )

**12 下請負人通知**

建設工事請負契約書及び茨城県建設工事施工適正化指針に基づく下請負人通知書2部を、県と請負契約を締結した日から原則として30日以内、その後の下請契約に係るものは、契約締結の日から10日以内に提出するものとする。

**13 施工図等の取り扱い**

施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。

**14 提出書類 ⇒ ※建築工事特記仕様書に準ずる**

提出書類は、下記による。 (※ 透明書類ケースに入れて提出する )

※ 写 真

適用	内 容	枚数	部数	提出方法
※	工事写真	適宜	1	電子納品
・	完成写真 (支払用: 外観及び内観)	2枚以上	1	A4版
・	完成写真 (・ データ共 )	適宜	1	アルバム (キャビネ)

上記のほかにも出来高検査、中間検査等に要する写真は、監督員の指示により提出する。

- ※ 工事写真の電子納品については「茨城県土木部宮繕工事電子納品の取扱い」による。
- ・ 完成写真 (アルバム) の撮影業者 ・ 監督員の承諾する撮影業者
- ※ 工事实績情報の登録内容確認書 (請負代金の額 500 万円以上となる工事)
- ※ 火災保険等に加入したことを証明できる書類
- ※ 建設業退職金共済組合証紙購入状況報告書 (請負代金の額 500 万円以上となる工事)
- ※ 施工計画書 (請負代金の額 500 万円以上となる工事)
- ※ 実施工程表 (全体工程, 月間工程, 3 週工程)
- ※ 使用資機材メーカー一覧表
- ※ 機器・材料納入仕様書
- ※ 施工図
- ※ 施工体系図 (提出したものを工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲示すること)
- ※ 施工体制台帳 (提出したものを現場に備え置くこと)
- ※ 試験成績表
- ※ 機器類保証書
- ※ 各種届出書類控
- ※ 産業廃棄物処理関係書類  
(処理フロー図 (種類, 数量), 産業廃棄物管理票 (マニフェスト) の写し, 委託契約書の写し, 許可証の写し  
運搬経路図, 運搬車両一覧表, 写真 (積込, 場外搬出時, 処分場搬入時, 荷下状況))
- ※ 保守点検に必要な工具
- ※ 完成図
  - ※ 製本 2部
  - ※ 縮小版 (A3) 製本 1部
  - ※ 完成図 CAD データ (CD-R 又は DVD-R) 1枚
  - ※ 維持保全に関する資料 (完成図書) 1部

1. 使用資機材メーカー一覧表
2. 官公署届出書類
3. 機器完成図, 検査合格証, 取扱説明書
4. 試験成績書
5. 機器類保証書, 工事保証書
6. その他監督員が指示するもの

※ CD-R 又は DVD-R 1枚

完成図面 (JWW形式), 完成写真 (JPEG形式) を収録したもの

※ その他 監督員が必要と認め, 指示した書類及び部数

## 第2章 共通工事

### 1 機器の規格

機器類の仕様は, 図面による。

### 2 各種配管工事の試験

配管途中若しくは隠ぺい, 埋戻し前又は配管完了後の塗装又は保温施工前に行う。試験方法及び試験圧力等は, 標準仕様書によるものとし試験記録表を監督員に1部提出する。

### 3 測定表

試運転調整完了後, すみやかに下記の各測定結果をまとめた測定表を監督員に1部提出する。(測定内容及び測定箇所等は, 監督員の指示による。)

・ 温度 ・ 湿度 ・ 風量 ・ 騒音 ・ 振動 ・ 水量

### 4 容量の表示

(1) 電動機出力などは, 表示された出力以下の容量とする。ただし, 防災機器は除く。

(2) 冷・温熱源機器等及び防災機器の能力, 容量は, その数値以上のものとする。

### 5 土工事

(4.2.1)

根切りは, 周辺の土質などに適した工法とし, 土砂が崩壊しないように関係法令に準拠し適切な法面をつけるか, 山留めを設ける。(山留め箇所は, 図示による。)

### 6 管端防食継手

(2.1.2)

塩ビライニング鋼管, 耐熱性ライニング鋼管及びポリ粉体鋼管でねじ接合する場合の継手は, 管端防食管継手とする。

### 7 管の切断

(2.5.1)

塩ビライニング鋼管, 耐熱性ライニング鋼管, ポリ粉体鋼管及び外面被覆鋼管は, 帯のこ盤又はねじ切り機搭載形自動丸のこ盤等で切断し, パイプカッターによる切断は禁止する。

### 8 異種管の接合

標準仕様書第2編2.5.17による。なお, 接合要領は標準図施工3によるものとする。

### 9 吊り及び支持

(2.6.3)

標準仕様書第2編第2章第6節によるほか, 次による。

(1) 屋外支持材は, 溶融亜鉛めっき又はステンレス製とする。(ボルト, ナット等は, SUS製とする。)

(2) 50A以下の鋼管は, 形鋼振れ止め支持間隔を8m以下とする。

(3) 梁貫通により振れ止めがされている場合は, その部分を形鋼振れ止め支持されているものとみなす。

**10 地中埋設標**

(標準図, 機材2)

- ※ 設置する (※ 給水 ・ 排水 ・ ガス ・ 消火 ・ 油)  
・ 設置しない

**11 埋設表示テープ**

標準仕様書によるほかテープ幅は150mmとする。

**12 土中埋設の深さ**

- ※ 60cm ・ cm

(ただし、建物に引き込む場合等は、監督員の承諾を得て埋設深さを変更することができる。)

**13 伸縮管継手を備えた配管**

(2.4.1(e))

標準仕様書による。

**14 管のフランジ接合**

(2.4.5, 2.4.6, 2.4.7, 2.5.2, 2.5.3, 2.5.4, 2.5.6)

標準仕様書によるほか、機器周りの配管はフランジ接合とする。ただし、鋼管及びライニング鋼管の梁貫通の場合は、片側をネジ接合としてもよい。

**15 塗装工事**

標準仕様書(第2編3.2.1)による。

**16 防食処置**

標準仕様書(第2編2.7.3)による。

- (1) 土中埋設の鋼管類(ステンレス管, 合成樹脂などで外面を被覆された部分の配管は除く。)には、標準仕様書により防食処理を行う。
- (2) コンクリートに埋設される鋼管, 鉛管, 銅管は、プラスチックテープを1/2重ね1回巻きとする。

**17 識別色**

標準仕様書によるほか、埋設表示テープ及び地中埋設標の識別色は、給水は青, 排水はシルバー, 消火は赤, ガスは黄とする。

**18 保温工事**

標準仕様書第2編 第3章 第1節によるほか下記による。

- (1) 機器類付属弁類, 槽類, 煙道及び管寄せの保温外装は、アルミニウム板及びカラー亜鉛鉄板をステンレス板に ・ 読み替える ・ 読み替えない
- (2) ロックウール, グラスウールを使用した保温材のホルムアルデヒドの放散量 ・ F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆

**19 表示札等**

鍵及び弁等に取り付ける表示札は、プラスチック製(白)とし、系統名及び常時開又は閉の文字(黒)を記入する。

**20 貫通部の処理**

(2.8.1)

標準仕様書第2編第2章第8節による。

本工事に使用するスリーブは、下記による。

(2.2.27)

- ※ つば付き鋼管製スリーブ (・ 防水壁 ・ 防水床) (つば付き鋼管製は第2編表2.2.11による。)
- ・ 紙製スリーブ (・ 梁 ・ 壁 ・ 床)
- ※ 管とスリーブとの隙間のシーリング材は、ホルムアルデヒド, トルエン, エチルベンゼン等を放散しないか、放散が少ないものとする。
- ・ 配管が防火区画を貫通する場合は、建築基準法に適合する工法又は、国土交通大臣認定を受けた工法とし、貫通部に適用するものとする。(認定書を提出し、標識を適当な位置に貼り付けること。)

## 21 はつり

既製コンクリートの床、壁の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターによる。

## 22 他工事との取り合い

- |  |         |       |        |
|--|---------|-------|--------|
| (1) 鉄筋コンクリートの梁、床、壁貫通のスリーブ補強  | ・ 箱入れ補強 | ・ 本工事 | ※ 建築工事 |
| (2) 天井、壁のボード類（軽量鉄骨も含む）の補強及び切込み   |         | ・ 本工事 | ※ 建築工事 |
| (3) 天井改め口  |         | ・ 本工事 | ※ 建築工事 |
| (4) 外壁に取り付けるガラリ、換気扇枠   |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (5) 機器のコンクリート基礎  | 内設置のもの  | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
|  | 屋外設置のもの | ・ 本工事 | ※ 建築工事 |
| (6) 防煙ダンパーと連動制御器までの電気工事  |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (機器付属電線と電気工事電源電線及び電気工事電源開閉器との連続は、別途工事とする。ただし、接続については、電気工事受注者と十分に協議のうえ実施すること。なお、コンセントへの接続は、本工事とする。) |         |       |        |
| (7) 地震感知器の配管配線   |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (8) 排煙濃度計の指示計までの配管配線   |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |
| (9) 天井吊形及び隠ぺい形ファンコイルユニットと操作スイッチ間の渡り配管配線  |         | ・ 本工事 | ・ 別途工事 |

## 23 機器等の耐震施工

標準仕様書によるほか設備機器等の固定は、建設大臣官房官庁営繕部監修「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説（平成8年版）」による。

## 24 工事中電力・用水・その他

本工事に必要な工事中電力、用水、その他の費用は全て受注者の負担とする。

## 25 揮発性有機化合物（VOC）を使用した材料の対応

- (1) 揮発性有機化合物（以下VOCという。）対策については、極力含有量の少ない材料を使用することとする。
- (2) 屋内清掃を行うときは、VOCを含む材料を使用しないこと。やむを得ず使用するときは、監督員の承諾を得ること。
- (3) VOCを含む材料を使用して施工した場合は十分に換気すること。

## 26 埋蔵文化財の調査

文化財保護法に基づく「周知の埋蔵文化財包蔵地内」

- (1) 掘削作業に際しては、工事立会、試掘確認調査等を要する。  
施工にあたっては、あらかじめ、工事日程、掘削範囲図及び掘削断面図等を作成の上、監督員、施設管理担当、県教育庁文化課担当と協議すること。
- (2) 掘削作業に際しては、慎重に施工のこと。施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告すること。

# 第3章 衛生器具設備工事

## 1 衛生器具の接続

衛生器具と排水配管との接続には、鉛管に代えて排水用フレキシブル継手を使用してもよい。

# 第4章 給水設備工事

## 1 水道加入金 ※ 別途 ・ 本工事

## 2 保温

※ 標準仕様書による。

- ・ 屋外露出管（弁、フランジ類を含む）の保温材の厚さは、呼び径 25 mm以下は 30 mm，呼び径 32 mm以上のものは、40 mm以上とする。

## 第5章 排水設備工事

1 流し接続管 床上露出部分は、硬質ポリ塩化ビニル管（VP）でもよい。

2 鋳鉄製ふたの文字

- ・ 汚水 ・ 雑排水 ※ 雨水 ・ 実験排水 ・ その他

3 鋳鉄製ふたの破壊荷重

- ※ 中荷重 60 kN以上（丸枠） ・ 重荷重 200 kN以上（丸枠）

4 屋外排水管理設要領

根切り底から 100 mm碎石敷き込みを行い、管を布設して管頂から 100 mmまでを山砂にて埋め戻す。

残りの部分は ※ 根切り土 ・ 山砂 で埋め戻す

5 小口径桝 下水道管理者等と協議・承諾のうえ使用する。

6 エア抜き用排水 自動エア抜きの排水は、専用配管で排水処理をする。

## 第6章 給湯設備工事

1 湯沸器排気筒

- ・ 本工事（厚さ 0.5 mm以上のステンレス鋼板製） ・ 別途工事
- 保温 ・ 行う ・ 行わない

## 第7章 消火設備工事

1 保温

- ・ 消火配管（・屋内露出・屋外露出）は保温し、標準仕様書表 2.3.5（区分給水管）を適用する。
- ・ 屋外露出管の保温材の厚さは、呼び径 25 mm以下は 30 mm，呼び径 32 mm以上のものは、40 mm以上とする。
- ・

## 第8章 ガス設備工事

1 ガスメーター ・ 本工事 ※ 別途工事

2 ガスの種類 (1) 種類 LPG (2) 発熱量

3 ガス栓 ・ ヒューズコック

4 ガス漏れ警報機 外部出力端子を ・ 設ける ・ 設けない

5 ガス漏れ警報設備 ・ 設置する ・ 設置しない

## 第9章 浄化槽設備工事

1 装置強度

装置（槽、ふた）の強度は、次の条件による。

- ・ 製造者標準形      ・ 中荷重形（乗用車の走行駐車可）      ・ 重荷重形
- 2 山留め              ・ オープンカット      ・ 鋼矢板      ・ H鋼+鋼矢板
- 3 埋め戻し土          ・ 山砂                  ・ 発生土
- 4 マンホールふた等    ※錠又は安全ロック等付き
- 5 消毒剤              ※30 日分納入

## 第 10 章 空気調和設備工事

### 1 温湿度調整目標値

	屋外条件		屋内条件					
			一般系統					
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
冬期	-1.2 °C	47.5 %	22 °C	成り行き	°C	%	°C	%
夏期	33.9 °C	57.9 %	26 °C	成り行き	°C	%	°C	%

- 2 ダクト 鋼板厚      ・ 3.2mm      ・ 4.5mm      ・ 図示による  
排気測定口      ・ 取り付ける

- 3 風量測定口 取付箇所は図示による。

- 4 吹出口及び吸込口      ・ アルミ製（ヘアライン加工）      ・ 鋼板製

### 5 防煙ダンパー

標準仕様書第3編 1.15.8 によるほか次による。

- (1) 復帰方式      ・ 遠隔復帰式（電気式）      ・ 手動式  
(2) 操作式          ・ 電気式                                  ・ 空気式

自動閉鎖機構は、定格入力 DC-24V, 0.6A 以下、自動復帰機構が電動式の場合は、入力 DC-24V, 25A 以下とする。

- (3) 日本防排煙工業会の自主適合マーク貼付品とする。

### 6 防火ダンパー

- (1) 上記の5に準じたものとする。  
(2) 日本防排煙工業会の自主適合マーク貼付品とする。

- 7 ピストンダンパー 復帰方式      ・ 自動式      ・ 手動式

### 8 チャンバー等

- (1) 外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバーには、排水を設ける。  
(2) シーリングディフューザー（アネモ型）、線状吹出口（ブリーズライン）のチャンバーは、図示による。

### 9 温度計

標準仕様書及び標準図によるほか、次の箇所及び図示の位置に温度計を設ける。

- (1) 主要な機器類の出入口の配管

### 10 圧力計及び連成計

ポンプ等の吸込み管に取り付ける場合は、連成計とする。

### 11 瞬間流量計及び流量測定口

標準仕様書及び標準図によるほか次による。

冷温水管寄せの各送り管      ・ 瞬間流量計      ・ 測定用タッピング      （ ・ 設ける      ・ 設けない）

ボイラ又は熱交換器の温水出口 ・瞬間流量計 ・測定用タッピング ( ・設ける ・設けない)

## 12 オイルサービスタンク

- (1) 油面制御装置 ・国土交通省型 ・市販品 (防爆型)
- (2) 防油提 ・本工事 ・別途

## 13 オイルタンク

槽形式、容量等は主要機器表によるほか、次による。

- (1) 油タンクふた ・本工事 ( ・国土交通省型 ・市販品) ・別途工事
- (2) 遠隔油量指示計 ・抵抗変化式 ・磁歪式  
形式 ・国土交通省型 ・製造者規格品 ( ・電気式 ・空気式)
- (3) 計量尺 ・本工事 (計量口は施錠付き) ・別途  
計量尺は、青銅製又は黄銅製及びアルミ製とし、100L 実測目盛り刻印とする
- (4) 地下オイルタンク外面の保護方法は「危険物の規制に関する政令」及び「危険物の規制に関する規則」による方法とする。また、事前に関係機関と打ち合わせを行うこと。
- (5) 危険物標識板 鋼板製メラミン焼付け仕上げとし、槽最寄の適切な位置に自立型のものを取り付ける。

## 14 消音内貼り

消音板厚さ

- (1) ダクト保温厚さ 50mm とする箇所は、消音板 50mm とし、25mm とする箇所は 25mm とする。
- (2) 内貼りチャンバー類の寸法表示は、外法寸法とする。

## 15 保温及び塗装

- (1) 保温

※標準仕様書による。

・屋外露出管 (温水管、給水管) の保温材の厚さは、呼び径 25 mm 以下は 30 mm、呼び径 32 mm 以上のものは、40 mm 以上とする。

- (2) 外気取り入れダクトの保温 ・行う ・行わない
- (3) 油配管の土中埋設部は、消防署の指示によるか又は標準仕様書による。

# 第 11 章 排煙設備工事

- 1 排煙ダクト ・亜鉛鉄板製 ・鋼板製 (1.6mm)
- 2 排煙口の解放装置 ・手動開放装置 ・煙感知器と連動する自動開放装置 ・遠隔操作方式による開放装置
- 3 排煙風量測定方式

排煙風量を測定する場合は、JIS-A-4303「排煙設備の検査標準」4.2.1(2)(C)による。

# 第 12 章 換気設備工事

- 1 準用事項 第 10 章空気調和設備工事の当該事項に準じる。
- 2 一般湯沸器の天蓋 ・別途 ・本工事
- 3 厨房用天蓋
  - (1) 材種 ※ステンレス製 (SUS304、厚さ 1.0 mm 以上とする。)
  - (2) 帯板 (フードから天井まで) ・別途 ・本工事

(3) グリスフィルターは予備品として100%納入する。

#### 4 保温

(1) 多湿箇所（・浴室 ・厨房）の外気取り入れ風道は保温する。ただし、送風、排風機は除く。

施工範囲は、図示による。

(2) 全熱交換ユニット用のダクト（・外気取り入れ ・排気）は保温する。

施工範囲は、図示による。

## 第13章 自動制御設備工事

- 1 制御方式 ・電気式 ・電子式 ・デジタル式
- 2 中央監視装置 ・中央処理装置 ・補助記憶装置 ・表示装置 ・グラフィックパネル ・操作器  
・伝送制御装置 ・電源装置
- 3 周辺装置 ・印字装置 ・アナンシエータ ・インターホン ・ハードコピー装置
- 4 端末装置 ・リモートステーション（RS） ・ダイレクトデジタルコントローラ（DDC）  
・ユーザーターミナル（UT）

#### 5 表示及び警報

室内外の温湿度表示、冷温水の温度表示、運転・故障・警報の表示のほか、細目は図示による。

#### 6 自動制御装置

(1) 図示されていない配線配管等の本数及び寸法は、製造者の仕様としてよい。

(2) 自動制御回路には、サージ防止装置を ・取り付ける ・取り付けない

#### 7 その他

(1) 室内形の温度検出器、湿度検出器はケース付きとし、取付け位置は標準仕様書による。

(2) 地震感知器の取付位置は標準仕様書による。

(3) 地震感知器の作動により、バーナー及び給油用電磁弁等を作動させ、速やかに燃焼を停止、消火させる。



機械設備図示記号一覧(1)

図示記号	名称	備考	図示記号	名称	備考
給水管 SGP-VB VLDP VW HI	●水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 ●耐衝撃性塩化ビニル管	一般配管 土中埋設 一般配管 土中埋設	排水管 VP VU LP D-VA	●硬質ポリ塩化ビニル管 ●硬質ポリ塩化ビニル管 排水・通気用鉛管 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管(内面) 排水用鋳鉄管 遠心力鉄筋コンクリート管 耐火二層管 再生硬質塩化ビニル管 (排水用リサイクル硬質塩化ビニル管) 再生硬質塩化ビニル管 (建物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管)	一般配管 土中埋設 一般配管 一般配管 一般配管 一般配管 土中埋設 土中埋設
給湯管 HTLP HTLP SUS SUS	水道用耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 水道用耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 ステンレス鋼鋼管 ステンレス鋼鋼管	一般配管 一般配管 一般配管 一般配管	冷水管 C CR	配管用炭素鋼鋼管 配管用炭素鋼鋼管	
消火管 X X <sup>V</sup> S(P.S)	配管用炭素鋼鋼管 硬質塩化ビニル(ポリエチレン)外面被覆鋼管 (白管に被覆)	一般配管 土中埋設	温水管 H HR	配管用炭素鋼鋼管 配管用炭素鋼鋼管	
通気管 VP	配管用炭素鋼鋼管 硬質ポリ塩化ビニル管		冷温水管 CH CHR	配管用炭素鋼鋼管 配管用炭素鋼鋼管	
冷却水管 CD CDR	水道用塩化ビニルライニング鋼管 水道用塩化ビニルライニング鋼管				

機械設備図示記号一覧(2)

図示記号	名称	備考	図示記号	名称	備考
膨張管 —— E ——	配管用炭素鋼鋼管				
冷媒管 —— R —— —— RR —— —— R —— —— RR ——	銅管 銅管 銅管(被覆) 銅管(被覆)				
油管 —— O —— —— OR ——	配管用炭素鋼鋼管(黒管) 配管用炭素鋼鋼管(黒管)				
油用通気管 —— OV ——	配管用炭素鋼鋼管				
低圧蒸気管 —— / —— - - - - / - - - -	配管用炭素鋼鋼管(黒管) 配管用炭素鋼鋼管(黒管)				
ガス管 <u>PLV</u> G <u>PLP</u>	ポリエチレン被覆鋼管又は 塩化ビニル被覆鋼管				